

授業科目名： 初等国語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中嶋 真弓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校国語科の目的・内容について学んだり、国語科教育の教材研究や指導法について考察したり することを通して、国語科指導者としての基礎的な知識や技能を身に付ける。また、小学校書写に ついて、教科書教材を題材としながら書写指導の在り方を学ぶ。			
授業の概要 初等国語科の内容に相当する教科として、文学作品や新聞等の文章を取り上げ、それらに関する考 察を試みることを通して、「読むこと」「書くこと」について実践的な力を身に付ける。また国語 科書写への理解を深めるため、日常生活への書写の取り入れにも留意しながら、プレゼンテーショ ンやパネルディスカッションといった多様な方法での自己表現を通して、ものの見方や考え方を鍛 えていく学修を行う。			
授業計画 第1回：国語科教育の意義と課題 第2回：物語文教材の教材研究とその指導法 第3回：物語文教材の単元構想と教材開発 第4回：物語文教材における学習プリント・教具の工夫 第5回：「書くこと」の教材における教材研究とその指導法 第6回：「書くこと」の言語活動に向けての取組 第7回：「書くこと」の言語活動（論理的な文章を書く）の実施 第8回：「話すこと・聞くこと」の教材における教材研究とその指導法 第9回：「話すこと・聞くこと」の言語活動に向けての取組 第10回：「話すこと・聞くこと」の言語活動（パネルディスカッション等）の実施 第11回：楽しさを実感することができる言語事項（漢字指導を中心に）の在り方 第12回：「我が国の言語文化」に関する指導の在り方 低・中学年を中心に 第13回：「我が国の言語文化」に関する指導の在り方 高学年を中心に 第14回：書写指導の在り方 第15回：義務教育9年間の見通しをもった国語科教育の指導			
定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編（文部科学省 東洋館出版）			
参考書・参考資料等 授業の中で、適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への参加と授業内容に応じた課題の提出（3割）・定期試験（7割：持ち込み不可）により、 総合的に評価する。課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 初等社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：平子 晶規 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・社会		
授業のテーマ及び到達目標 初等社会科教育における教育理論を踏まえ、初等社会科の指導者として必要な基礎的な知識や技能を身に付ける。また、今日的な課題に対する関心や、社会科授業の教材開発への意欲を高める。			
授業の概要 初等社会科の内容に相当する教科として、初等社会科の歴史、目的、内容、方法に関する基礎的教養を培う。さらに、受講者の社会問題への関心の深化を図り、論理的思考力、情報収集選択技術、コミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業計画 第1回：初等社会科教育の意義 第2回：初等社会科教育のねらい 第3回：初等社会科教育の歴史の変遷 第4回：社会科授業と子ども理解 第5回：社会科授業と教材研究 第6回：初等社会科教育の学習指導とICTの活用 第7回：初等社会科教育の評価 第8回：初等社会科教育の実践(1) 身近な地域、地図（第3学年） 第9回：初等社会科教育の実践(2) 地域、水（第4学年） 第10回：初等社会科教育の実践(3) 産業（第5学年） 第11回：初等社会科教育の実践(4) 国土（第5学年） 第12回：初等社会科教育の実践(5) 歴史（第6学年） 第13回：初等社会科教育の実践(6) 政治（第6学年） 第14回：初等社会科教育の指導計画 第15回：初等社会科教育の課題と展望 定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領 社会編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省・最新版）			
参考書・参考資料等 授業の中で随時紹介する。			
学生に対する評価 授業への参加と授業内容に応じた課題の提出（30%）、定期試験（70%、持ち込み不可）により、総合的に評価する。課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 初等算数	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：星野 将直 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
授業のテーマ及び到達目標 (1)小学校学習指導要領解説・算数編をもとに、算数科1学年の内容と指導のねらいを理解する。 (2)算数科1学年の内容の背景にある数学的な概念・法則について理解する。 (3)実際の授業を想定して、算数科の内容の本質を知ることによって学ぶ楽しさを感じ取る。			
授業の概要 算数教材の数学的背景や相互関係を解説し、教材に関する理解を深める。できる限り具体的内容、教材例を取り上げるかたちで講義を進め、「数学的なものの見方・考え方」について考察する。また身近に存在する物事・現象に隠されている数学的な考え方に着目しつつ、具体的な問題の提示をその解決の過程を通じて明らかにすることで、教師としての算数・数学的思考力の開発、充実を図る。			
授業計画 第1回：授業の目的とねらい 算数の本質と学ぶ楽しさ 「かずとすうじ」数概念の形成① 集合数と1対1対応 第2回：「なんばんめ」数概念の形成② 順序数 第3回：「20までのかず」数概念の形成③ 十進位取記数法 第4回：「大きいかず」数概念の形成④ (万十)命数法 第5回：「いくつといくつ」計算概念の形成① 数の合成・分解 第6回：「たしざん(1)」計算概念の形成② 加法構造 合併と増加 第7回：「ひきざん(1)」計算概念の形成③ 加法構造の逆 求残と求差 第8回：「3つのかずのけいさん」計算概念の形成④ 加法の交換法則・結合法則、分配法則 第9回：「たしざん(2)」計算概念の形成⑤ 構造的な見方 加数分解と被加数分解 第10回：「ひきざん(2)」計算概念の形成⑥ 構造的な見方 減加法と減減法 第11回：「いろいろなかたち」図形概念の形成① 空間図形と平面図形 第12回：「かたちづくり」 図形概念の形成② 図形の構成・組み合わせ 第13回：「おおきさくらべ」 量概念の形成 長さ・かさ・広さ 第14回：「かずしらべ」統計概念の形成 データの整理の基礎 個数・種類 第15回：まとめテスト 算数の本質と学ぶ楽しさのまとめ			
テキスト 小学校1学年の算数の教え方・学び方(星野将直著 一粒書房)、小学校学習指導要領解説(平成29年度告知)算数編(文部科学省 最新版)			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領 算数編(文部科学省・最新版)、数学的な見方・考え方を働かせ「深い学び」を実現する算数科の授業(星野将直著 一粒書房)			
学生に対する評価 毎時間のノート作成の取組(30%)、配信問題(30%)、まとめテスト(20%)、ICT教材(20%)によって総合的に評価する。 ・ノートは、毎回点検し簡単な助言で評価をする。 ・配信問題は、解答提出すると、得点が即表示されるので、学生が自己評価する。 ・まとめテストは、事前に練習問題を配付しそれをもとに作成するので、学生が自己評価する。 ・ICT教材は、特に優れたものを作成した学生には、評価について連絡する。			

授業科目名： 初等理科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：海老崎 功 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 小学校理科に関する観察・実験および科学的ものづくりを多く体験することにより、将来、教員として観察・実験を取り入れた魅力的な授業を実施しようとする意識を高め、観察・実験についての基礎的な知識や技能を身につける。			
授業の概要 小学校理科に関連するエネルギー（物理領域）、物質（化学領域）、生命（生物領域）、地球（地学領域）及び環境分野の観察・実験及び科学的ものづくりを多く体験し、自然科学にふれる楽しさを実感する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：小学校理科の観察・実験と系統 第3回：小学校理科の内容と観察・実験1（エネルギー①磁石の性質） 第4回：小学校理科の内容と観察・実験2（物質①空気と水の性質） 第5回：小学校理科の内容と観察・実験3（生命①植物の養分と水の通り道） 第6回：小学校理科の内容と観察・実験4（地球①月、太陽、星） 第7回：小学校理科の内容と観察・実験5（エネルギー②ゴムや風の利用） 第8回：小学校理科の内容と観察・実験6（物質②温度と体積変化） 第9回：小学校理科の内容と観察・実験7（生命②動物の体のづくり） 第10回：小学校理科の内容と観察・実験8（地球②土地のづくりと変化） 第11回：小学校理科の内容と観察・実験9（エネルギー③電気の利用） 第12回：小学校理科の内容と観察・実験10（物質③水溶液の性質） 第13回：小学校理科の内容と観察・実験11（地球③気象） 第14回：小学校理科の内容と観察・実験12（エネルギー④光の性質） 第15回：小学校理科の内容と観察・実験13（環境と私たちの生活）			
テキスト 小学校理科教科書 ※新規購入の必要はありません（小学校時に使った教科書等で構いません）。新規購入の場合は東京書籍（または大日本図書）を推奨します。			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（文部科学省、最新版） 小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省、最新版） ※以上はインターネットでも参照できますが、特に「解説 理科編」は安価であり次年度の理科教育法等で多用するのであらかじめ購入しておくことを薦めます。また、初等理科のレポート作成等に役立ちます。			
学生に対する評価 授業中に作成する観察・実験レポートおよび科学的ものづくりの実物（50%）、毎回提出するレポート（振り返り・50%）によって総合的に評価する。 レポート等については授業内で解説を行い、講座終了時に返却する。希望者には採点結果等も開示する。			

授業科目名： 初等生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 智 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生活科とは、どのような教科であるかを理解し、子どもの成長・発達にどのように関わることができるかを多角的に考察する。また、体験的な活動に取り組むことによって、生活科の授業実践に対する意欲や関心を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>初等生活科の内容に相当する教科として、小学校の教育内容に生活科が導入された経緯とその背景、構成理論、具体的内容及びその実践内容を講義し、実践体験を通して、生活科の理解を図る。生活科を低学年の子供たちの成長にどう生かすか、価値ある学習展開をするための実践的視点を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 生活科と仲間づくり</p> <p>第2回：生活科とはどんな教科か</p> <p>第3回：春探しに出かけよう</p> <p>第4回：生活科と学校探検</p> <p>第5回：学校探検マップをつくろう</p> <p>第6回：もう一度学校探検に出かけよう</p> <p>第7回：学校のおすすめを紹介しよう（前半グループ）</p> <p>第8回：学校のおすすめを紹介しよう（後半グループ）</p> <p>第9回：身近な材料を使っておもちゃを作ろう</p> <p>第10回：もっと楽しいおもちゃを作ろう</p> <p>第11回：おもちゃの発表会をしよう</p> <p>第12回：おもちゃ大会を計画しよう</p> <p>第13回：おもちゃ大会の準備をしよう</p> <p>第14回：おもちゃ大会を楽しもう</p> <p>第15回：講義全体のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（文部科学省 東洋館出版社）（最新版）、小学校学習指導要領解説生活編（文部科学省 東洋館出版社）（最新版）、他は、授業の中で随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>(1) 生活科及び本講義への関心・意欲・態度（小レポートなど） 50%</p> <p>(2) 授業における成果（制作した作品や発表など） 50%</p> <p>・小レポートや作品、発表については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p>			

授業科目名： 初等音楽	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：白石 朝子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な音楽理論に対する理解を生かした実技演習を通して、小学校の具体的な場面で音楽を活用する力を身につける。また、音楽発表会を通して、音楽の協同的学習について理解を深める。			
授業の概要 小学校の音楽に必要な基礎知識を学び、演習を通して音楽の楽しみを味わいながら、音楽の基礎技能（歌唱・器楽）を習得する。各回においては、ピアノを用いた弾き歌いを中心とする個人の实技学習・指導も並行して授業を構成する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、小学校「音楽」の目標 第2回：基礎的な音楽理論（1）譜表と音名／読譜法 第3回：基礎的な音楽理論（2）音符と休符／リズム奏法 第4回：基礎的な音楽理論（3）拍子／指揮法 第5回：基礎的な音楽理論（4）音程／ピアノ奏法 第6回：基礎的な音楽理論（5）音階／歌唱法 第7回：基礎的な音楽理論（6）調性／弾き歌い法 第8回：基礎的な音楽理論（7）和音とコードネーム／伴奏法 第9回：基礎的な音楽理論（8）総復習（テスト含む） 第10回：共通教材歌唱指導 第11回：リコーダーの基本とアンサンブル実践 第12回：音楽発表会の企画と練習 第13回：共通教材歌唱発表 第14回：音楽発表会 第15回：全体の振り返り—小学校「音楽」の目指すものと教師の役割			
テキスト 小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法（音楽之友社） 歌はともだち（教育芸術社）			
参考書・参考資料等 小学校音楽科教科書1～6年（教育芸術社・教育出版・東京書籍） 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版） 小学校学習指導要領 音楽編（文部科学省・最新版） 小学校学習指導要領解説 音楽編（文部科学省・最新版） 授業中に楽譜・資料プリント等を適宜配付する。			
学生に対する評価 学習への取り組み姿勢（30%）、音楽理論テスト（20%）、歌唱発表（20%）、音楽発表会の取り組み（30%）を総合して評価する。課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 初等図画工作	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本 和久 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作のさまざまな教材やその指導法を学び、児童の豊かな発想や創造的な技能を伸ばすための教材の開発法を考える。			
授業の概要 児童の発達段階に即した指導を行うための造形表現を習得する。小学校の図画工作の教材について理解を深めるため、絵画、デザイン、彫刻、工芸などの基礎的な技能を学ぶ。			
授業計画 第1回：図画工作科教育の意義と課題 ー感性をはぐくむ図画工作の教材とはー 第2回：平面表現 絵画制作における様々な表現技法を知ろう（モダンテクニック演習ーパッチク、デコルコマニー、スクラッチ、ドリッピング、フロッタージュ、マーブリング等） 第3回：平面表現「不思議なたまごをわってみると」（様々なモダンテクニックを使って）①（発想・構想） 第4回：平面表現「不思議なたまごをわってみると」（様々なモダンテクニックを使って）②（制作） 第5回：平面表現「不思議なたまごをわってみると」（様々なモダンテクニックを使って）③（制作・鑑賞） 第6回：生活を楽しくする作品を作ろう（和紙を利用したランプシェード）①（発想・構想・制作） 第7回：生活を楽しくする作品を作ろう（和紙を利用したランプシェード）②（制作・鑑賞） 第8回：動く造形作品を作ろう（ペットボトル貯金箱）①（発想・構想・制作） 第9回：動く造形作品を作ろう（ペットボトル貯金箱）②（制作・鑑賞） 第10回：生活廃材を利用した作品を作ろう（1） 立体表現 ダンボールアート制作①（発想・構想・制作） 第11回：立体表現 ダンボールアート制作②（制作） 第12回：立体表現 ダンボールアート制作③（制作・鑑賞） 第13回：生活廃材を利用した作品を作ろう（2） リサイクル工作（ペットボトルを利用したスノードーム） 第14回：名作を鑑賞しよう（国内外の芸術家作品の紹介・解説・鑑賞） / レッジョ・エミリアアプローチについて「子どもたちの100の言葉」 第15回：造形あそび演習 題材「新聞紙を使って宇宙人から身を守る武器を作ろう」 / 授業のまとめと振り返り			
テキスト 使用しない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等 子どもたちの100の言葉（レッジョ・エミリア市乳児保育所と幼児学校著 ワタリウム美術館） 学習指導要領 図画工作編（文部科学省・最新版）、学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省・最新版） 小学校図画工作科用教科書「1・2上、1・2下、3・4上、3・4下、5・6上、5・6下」（日本文教出版、開隆堂出版）			
学生に対する評価 （1）図画工作科教育および本講義への関心・意欲・態度（発表、小レポートなど）30％ （2）授業における成果（制作した作品）70％ （3）小レポートについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。また、制作した作品については、授業内で鑑賞会を実施し、解説・講評等を行う。			

授業科目名： 初等家庭	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：瀬治山 みど里 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標 小学校家庭科で扱う学習内容について理解をする。 小学校教員として必要な資質や態度について考える。			
授業の概要 家庭生活は生活主体である家族と衣食住というモノとの関わりで展開している。衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的活動を通して、家庭生活を支えている様々なモノと家族の機能を理解し家庭生活への関心を高めることを目的とする。衣食住に関わる日常生活に必要な基本的知識・技能を修得し、自らが家族の一員として家庭生活の向上に向けて寄与できる態度を育成したい。			
授業計画 第1回：小学校家庭科教育について 第2回：家族の機能と家庭生活分野の取り組み1 家族・家庭生活と仕事 第3回：家族の機能と家庭生活分野の取り組み2 家族や地域の人々との関わり・家族・家庭生活 についての課題 第4回：実践的・体験的な食生活分野の取り組み1 健康的な食生活 第5回：実践的・体験的な食生活分野の取り組み2 安全で豊かな食生活 第6回：実践的・体験的な衣生活分野の取り組み1 健康的な衣生活 第7回：実践的・体験的な衣生活分野の取り組み2 安全で豊かな衣生活 第8回：住生活分野の取り組み1 健康的で快適な住生活 第9回：住生活分野の取り組み2 安全で豊かな住生活 第10回：消費生活分野の取り組み 消費者の役割 第11回：環境分野の取り組み1 持続可能な社会の構築に向けた取り組み 第12回：環境分野の取り組み2 SDGsに向けての消費生活と環境 第13回：ゲーム感覚の教材開発1 家族・家庭生活 第14回：ゲーム感覚の教材開発2 衣食住の生活、消費生活・環境 第15回：ゲーム感覚の教材開発3 発表			
テキスト 新しい家庭 5・6 （浜島京子・岡陽子ほか4名著 東京書籍 最新版）			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 家庭編（文部科学省 最新版）（東洋館出版社） 必要に応じて、授業中に適宜紹介する			
学生に対する評価 提出物（レポートを含む50%）、プレゼンテーション（30%）、学習への取り組み姿勢（20%）など総合的に評価する。 課題（レポート等）については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 レポート等の点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 初等体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 秀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校体育に関する基礎知識を学習し、運動領域の基本的な実践力を実習を通して身につけることを目標とする。			
授業の概要			
初等体育科の内容に相当する教科として、体育科における教育観・指導法に関する教育理論を踏まえ、体育の授業を行うための基礎知識と技能を習得する。また子供にとっての遊びの意義を理解し、子供が楽しめる運動遊びについて学習すると共に、遊びの内容や効果、問題点について検討し、子供の運動遊びのあり方について学ぶ。			
授業計画			
第1回：小学校体育の意義と目標			
第2回：体づくり運動			
第3回：表現リズムあそび			
第4回：表現運動			
第5回：器械・器具を使つての運動遊び			
第6回：器械運動（マット運動）			
第7回：器械運動（鉄棒運動）			
第8回：器械運動（跳び箱運動）			
第9回：走・跳ぶの運動遊び			
第10回：陸上運動（短距離・リレー）			
第11回：陸上運動（ハードル走）			
第12回：陸上運動（走り幅跳び）			
第13回：ゲームとボール運動（ゴール型）			
第14回：ゲームとボール運動（ネット型）			
第15回：ゲームとボール運動（ベースボール型）			
テキスト			
小学校学習指導要領 体育編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省・最新版）			
参考書・参考資料等			
必要に応じて、授業時に適宜紹介する。			
学生に対する評価			
技能テストや課題レポート（70%）、課題発表（30%）を総合的に評価する。課題レポート、課題発表については、授業内で解説・講評・質問等を行う。			

授業科目名： 初等英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井 千代 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力と、英語に関する文化的な知識を身につける。			
授業の概要 この授業は、1時間の授業の前半では、小学校における英語の授業担当者を対象として作られた英語テキストをユニットごとにすすめ、外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な語彙や表現を身に付けるとともに、実際の授業や学校生活における活動場面を意識しながら英語運用力をバランスよく身に付けることを目指す。また、授業後半のテーマを「児童英語の文化的知識を学ぶ」とし、テキストのコラムページや参考資料、絵本などの教材を使用し、外国語活動・外国語を指導するために必要な知識を身に付けるため、音声学や文法など、英語の基本的な知識は言うまでもなく、第二言語習得論に関する知識、歌や絵本・児童文学などを通じた文化的知識を身に付けていく。本科目では、小学校外国語活動・外国語の活動や場面で使用される語彙や表現に関するテスト（ユニットごとの毎回の小テストや全2回の復習テスト）を実施し、定着を図っていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション Unit 1 ALT's First Visit to Minami Elementary School 〔児童英語の背景的知識〕小学校外国語活動の知っておきたい基礎知識（1）外国語活動について 第2回：Unit 2 Getting to Know Each Other 〔児童英語の背景的知識〕児童文学に関する教材例 マザーグース・歌 第3回：Unit 3 School Lunch 〔児童英語の背景的知識〕小学校外国語活動の知っておきたい基礎知識（2）児童英語のポイント 第4回：Unit 4 Play Time 〔児童英語の背景的知識〕日本や外国の遊びを通じた異文化理解 第5回：Unit 5 The First English Class 〔児童英語の背景的知識〕クラスルームイングリッシュについて 第6回：Unit 6 Teaching Numbers 1 〔児童英語の背景的知識〕英語を書くこと、読むことについて 第7回：Unit 7 Teaching Numbers 2 〔児童英語の背景的知識〕小学校での実践例 数を使った歌や遊び 第8回：Unit 8 Reflection 〔児童英語の背景的知識〕振り返りカードについて 前半の復習テスト 第9回：Unit 9 Activities at a Kindergarten 〔児童英語の背景的知識〕小学校外国語活動の知っておきたい基礎知識（3）第二言語習得 第10回：Unit 10 Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle 〔児童英語の背景的知識〕小学校での実践例 児童文学より英語絵本の活用について 第11回：Unit 11 Making Onigiri and Curry 〔児童英語の背景的知識〕小学校での実践例 手順や説明に必要な英語の語彙や表現について 第12回：Unit 12 Making a Town Map 〔児童英語の背景的知識〕小学校外国語教育 知っておきたい基礎知識（3）話すこと「発表」 第13回：Unit 13 Introducing Japanese Culture 〔児童英語の背景的知識〕異文化交流を考える 第14回：Unit 14 Evacuation Drills 〔児童英語の背景的知識〕災害など緊急時の英語表現 後半の復習テスト 第15回：Unit 15 Graduation 児童英語の背景的知識まとめ グループ討論・発表			
テキスト 「小学校英語はじめる教科書 改訂版」吉田研作監修 小川隆夫・東仁美著 mpi出版			
参考書・参考資料等 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省・最新版） 『Hello, English 子どもに教える先生のための英語—会話から授業まで—』（Chizuko Aiba他著 成美堂） Picture Dictionary New Horizon Elementary（東京書籍）			
学生に対する評価 【評価方法】ユニットごとの小テスト（10%）、テスト【前半の実技、後半は知識編のまとめとして設問のある振り返りの筆記】（30%）、提出物（動画含む）（30%）、授業での実践発表（30%） 【フィードバック方法】小テストは毎回返却時に口頭またはスライド資料にしてフィードバックを行う。テスト実技及び授業内実践発表については、その場か次の授業回に口頭にて評価を行う。提出物は授業期間内は翌週に全体としてまとめてコメントを行う。制作またはコメントなどの提出物にはコメントを記入して返却する。テスト後半設問のある振り返りは、提出後にCSまたはMicrosoft Teamsにおいて模範解答となる文章とコメントを全体に向けて配信する。			

授業科目名： 国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中嶋 真弓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1 学習指導要領や教科書教材の変遷及び国語科教育に携わった先人達の業績について学ぶ。 2 学習指導案の作成を通して、論理的・実践的な指導力の基礎・基本を身につける。 3 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、授業の在り方を学ぶ。			
授業の概要 国語科教師としての資質や能力を高めるために、国語科教育に携わった先人の研究業績や指導法、ものの見方や考え方を考察し、現在の国語科教育の体系を理解していく。その上で、教材研究の在り方や言語活動の設定、発問の仕方等の指導方法について理解を深めたり、実際の授業の動画コンテンツを視聴しながら授業を検証したりしながら、学習指導案を作成し模擬授業を行う。			
授業計画 第1回：国語科教育の現状と役割 第2回：学習指導要領の変遷と国語科教育の役割 第3回：教科書教材の変遷 第4回：国語科教育に携わった先人達の業績 第5回：国語の授業づくり 国語科の教材研究と指導方法、情報通信技術を活用した国語科授業の実際 第6回：学習指導案の作成（1） 学習指導案を書く意義と概要 第7回：学習指導案の作成（2） 教材研究、教材観、指導観について 第8回：学習指導案の作成（3） 単元観、単元の位置、単元目標、単元計画について 第9回：学習指導案の作成（4） 児童の実態把握の方法及び書き方、評価の設定について 第10回：学習指導案の作成（5） 本時の目標、本時の展開、教材教具の効果について 第11回：学習指導案の確認と模擬授業に向けての構想 第12回：国語科授業の動画コンテンツ視聴による授業研究 第13回：模擬授業（1） 教師の発問、児童の実態把握の検証を中心に 第14回：模擬授業（2） 言語活動の有効性、教材教具、板書活用の在り方を中心に 第15回：模擬授業の振り返り：成果と課題、国語科授業改善に向けての工夫 定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領 国語編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 国語編（文部科学省・最新版）			
参考書・参考資料等 国語科教育実践・研究必携（全国大学国語教育学会編 学芸図書） 国語科授業用語の手引き（中原國明・大熊徹編 教育出版）			
学生に対する評価 授業中に出された課題への回答内容（10%）、模擬授業に対する姿勢（10%）、学習指導案（30%）、定期試験（50%：持ち込み不可）により、総合的に評価する。課題、模擬授業、学習指導案については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中嶋 真弓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 国語科教育の体系を踏まえた上で、授業を構想したり模擬授業を行ったりしながら、学習指導・授業構想、教材解釈の力を身につける。また、授業に必要な学習材・教具を開発したり、読書力を高めるための学校図書館の活用について考えたりする。			
<b>授業の概要</b> 学習者が主体的に授業に臨むことができる学習の在り方を多様な観点から考究し、「よい授業」づくりに向けて大切にすべき内容を明らかにしていく。その学修をもとに、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、教育現場に生きる教師の力量を身に付けていく。			
<b>授業計画</b> 第1回：国語科の目標と指導内容 第2回：魅力ある国語科授業にするための工夫（情報通信技術を活用した国語科の授業効果） 第3回：「話すこと・聞くこと」の指導の在り方 第4回：「書くこと」の指導の在り方 第5回：「読むこと」の指導の在り方 第6回：伝統的な言語文化の指導の在り方 第7回：歌舞伎等の動画コンテンツによる伝統文化の理解とその教材開発 第8回：言葉の特徴やきまりの指導の在り方 第9回：書写の指導の在り方 第10回：国語科と他教科との関連（国語科年間指導計画及び単元指導計画の工夫） 第11回：主な教科書教材を活用しての教材研究（1） 作品研究（素材研究）を中心に 第12回：主な教科書教材を活用しての教材研究（2） 指導法研究を中心に 第13回：学習指導案作成 第14回：模擬授業の実施と振り返り 第15回：模擬授業の成果と課題をもとに、学習指導の見直しと具体的手立て			
<b>定期試験</b> テキスト 小学校学習指導要領 国語編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 国語編（文部科学省・最新版）			
<b>参考書・参考資料等</b> 新たな時代を拓く 小学校国語科教育研究（全国大学国語教育学会編 学芸図書）			
<b>学生に対する評価</b> 授業中に出された課題への回答内容及び討議への構え（10%）、学習指導案及び模擬授業（40%）、定期試験（50%：持ち込み不可）により、総合的に評価する。課題、学習指導案、模擬授業については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 社会科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平子 晶規 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校社会科の授業を実践するために必要な専門的な知識や、児童の発達段階に合わせた教材を活用した社会科授業の指導方法を身に付ける。さらに、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで実践的な指導力を養う。			
授業の概要 学習指導要領の趣旨に沿って、日本人としての自覚を持ち、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目的に、児童の身近な地域の学習を通して、我が国の国土と歴史、政治、近隣諸国との関係に対する理解を深める教育方法を考える。具体的には、地図や統計などの基礎的資料や体験学習、板書方法、教材研究、授業の進め方を学ぶ。さらに指導案を作成し、授業が実践できる知識と技能を養う。			
授業計画 第1回：小学校社会科の目標と育成すべき資質・能力 第2回：小学校社会科の学習内容と指導上の留意点 第3回：教材研究の方法と授業例（1）「地理的環境と人々の生活」 第4回：教材研究の方法と授業例（2）「歴史と人々の生活」 第5回：教材研究の方法と授業例（3）「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」 第6回：社会科授業の指導方法（1）個別最適な学び・協働的な学びと情報通信技術の活用 第7回：社会科授業の指導方法（2）体験的な学習、問題解決的な学習、情報通信技術の活用 第8回：社会科授業の指導方法（3）資料の活用、教材教具の活用、情報通信技術の活用 第9回：学習指導案の作成（1）主体的・対話的で深い学びと授業計画 第10回：学習指導案の作成（2）教材観、児童観、単元の目標、単元計画 第11回：学習指導案の作成（3）発問、板書計画、評価 第12回：受講生による模擬授業と振り返り（1）小学校第3・4学年の教科書の内容 第13回：受講生による模擬授業と振り返り（2）小学校第5学年の教科書の内容 第14回：受講生による模擬授業と振り返り（3）小学校第6学年の教科書の内容 第15回：まとめ 定期試験 テキスト 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領 社会編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省・最新版） 参考書・参考資料等 授業の中で随時紹介する。			
学生に対する評価 授業中に出された課題への回答内容（10%）、模擬授業に対する姿勢（10%）、学習指導案（30%）、定期試験（50%：持ち込み不可）により、総合的に評価する。課題、模擬授業、学習指導案については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 社会科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：平子 晶規 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業を実践できるように、学習指導案の作成と模擬授業の実施により、教材研究や単元計画の方法、指導方法、評価方法といった社会科教育の実践的な指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、社会科教育法Ⅰにおいて学習した事項を踏まえ、小学校の教科書を用いて、児童の発達段階に合わせた効果的な学習方法、インターネットや視覚教材、ゲームを活用した授業方法、現代社会を反映した教材開発を考察し、受講者による学習指導案の作成と模擬授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を実践できる学習指導方法を研究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：身近な地域を扱った授業の指導方法と教材研究  第2回：産業学習の指導方法と教材研究  第3回：歴史的な内容を扱った授業の指導方法と教材研究  第4回：政治に関する学習の指導方法と教材研究  第5回：学習指導案の作成方法と評価（1）主体的・対話的で深い学び  第6回：学習指導案の作成方法と評価（2）個別最適な学び・協働的な学びと情報通信技術の活用  第7回：小グループでの第3学年の社会科学習指導案の作成  第8回：小グループでの第4学年の社会科学習指導案の作成  第9回：小グループによる模擬授業の実施と振り返り  第10回：各自で第5学年または第6学年の社会科学習指導案の作成  第11回：受講者による模擬授業の実施と評価（1）小学校第3学年の教科書の内容  第12回：受講者による模擬授業の実施と評価（2）小学校第4学年の教科書の内容  第13回：受講者による模擬授業の実施と評価（3）小学校第5学年の教科書の内容  第14回：受講者による模擬授業の実施と評価（4）小学校第6学年の教科書の内容  第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領 社会編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省・最新版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中に出された課題への回答内容及び討議への構え（10%）、学習指導案及び模擬授業（40%）、定期試験（50%：持ち込み不可）により、総合的に評価する。課題、学習指導案、模擬授業については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p>			

授業科目名： 算数科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：星野 将直 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1)小学校算数科の目標・内容と数学的活動及び育成を目指す資質・能力について理解する。</p> <p>(2)小学校算数科の内容とその背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できる。</p> <p>(3)学習指導理論を踏まえて授業設計を行い、模擬授業を通して授業の実践力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
前半は、学習指導要領における小学校算数科の目標及び主な内容並びに全体構造、個別の学習内容や指導上の留意点について理解する。同時に、背景となる学問としての数学との関係、教材研究の方法、学習評価について理解する。後半は、子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。また、小学校算数科の特性に応じた情報通信技術及び教材の効果的な活用法を理解する。さらに、小学校算数科の学習指導案の構成方法を理解する。最終的に、学習指導案をもとに模擬授業を実施し振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。			
授業計画			
第1回： 授業の目的とねらい 算数科の教材研究と数学的活動の実際と情報通信技術の活用 「A数と計算」(1) 整数の加法(1学年)			
第2回： 「A数と計算」(2) 整数の減法(1学年) 算数科授業の進め方と情報通信技術の活用			
第3回： 「A数と計算」(3) 整数の乗法の利用(2学年) 模擬授業の実施と振り返り①			
第4回： 「A数と計算」(4) 整数の除法(3学年) 模擬授業の実施と振り返り②			
第5回： 「A数と計算」(5) 小数の乗法(5学年) 模擬授業の実施と振り返り③			
第6回： 「A数と計算」(6) 分数の除法(6学年) 模擬授業の実施と振り返り④			
第7回： 「B図形」(1) 三角形の分類(3学年) 模擬授業の実施と振り返り⑤			
第8回： 「B図形」(2) 平行と垂直(4学年) 模擬授業の実施と振り返り⑥			
第9回： 「B図形」(3) 三角形の面積(5学年) 模擬授業の実施と振り返り⑦			
第10回： 「C測定」 面積の単位変換(4学年) 模擬授業の実施と振り返り⑧			
第11回： 「Dデータの活用」棒グラフ(2学年) 模擬授業の実施と振り返り⑨			
第12回： 中間テスト 模擬授業の実施と振り返り⑩			
第13回： 算数科の学習指導理論(1)情報通信技術の活用と学習評価			
第14回： 算数科の学習指導理論(2) 情報通信技術の活用、プログラミング的思考の育成と学習評価			
第15回： 算数科の教材研究と数学的活動のまとめ			
テキスト			
「深い学び」を可能にする算数科教育(星野将直他著 一粒書房)			
参考書・参考資料等			
小学校学習指導要領 算数編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 算数編（文部科学省・最新版）、数学的な見方・考え方を働かせ「深い学び」を実現する算数科の授業(星野将直著 一粒書房)			
学生に対する評価			
毎時間のノート作成の取組(50%)、中間テスト(20%)、情報通信技術を活用した教材・指導案(30%)によって、総合的に評価する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートは、毎回点検し簡単な助言で評価をする。</li> <li>・中間テストは、事前に練習問題を配付しそれをもとに作成するので、学生が自己評価する。</li> <li>・情報通信技術を活用した教材・指導案は、特に優れたものを作成した学生に評価を連絡する。</li> </ul>			

授業科目名： 算数科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：星野 将直 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (1)小学校算数科のB・C領域の題材について、情報通信技術を活用した授業設計方法を理解する。 (2)小学校算数科の資質・能力の評価方法について理解し、評価問題を作成することができる。 (3)特定題材の学習指導案を作成し模擬授業を行うことで、授業の実践力を高める。			
<b>授業の概要</b> 小学校算数科の各領域の特定題材について、学習指導案を作成し模擬授業を実施する。その振り返りを通して、授業改善や学習評価の視点を身に付ける。そのために、最初に各領域について学習指導要領における小学校算数科の個別の学習内容や指導上の留意点について理解する。同時に、背景となる学問としての数学との関係、教材研究の方法、学習評価について理解する。特に、授業構想や学習指導案作成にあたり子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。また、小学校算数科の特性に応じた情報通信技術及び教材の効果的な活用法を理解する。			
<b>授業計画</b> 第1回： 授業の目的とねらい 数学的活動を取り入れた教材研究 第2回： 「C変化と関係」領域の内容と数学的活動 第3回： 「C変化と関係」領域題材の学習指導案及び評価問題の作成 第4回： 「C変化と関係」領域の題材の模擬授業の実施と振り返り 割合(第5学年)の授業 第5回： 「B図形」領域の内容と数学的活動 第6回： 「B図形」領域題材の学習指導案及び評価問題の作成 第7回： 「B図形」領域の題材の模擬授業の実施と振り返り 円の面積(第6学年)の授業 第8回： 「B図形」領域の内容と数学的活動 第9回： 「B図形」領域題材の学習指導案及び評価問題の作成 第10回： 「B図形」領域の題材の学習指導案の作成 第11回： 「B図形」領域の題材の模擬授業の実施と振り返り 線対称・点対称(第6学年)の授業 第12回： 「C変化と関係」領域の内容と数学的活動 第13回： 「C変化と関係」領域題材の学習指導案及び評価問題の作成 第14回： 「C変化と関係」領域の題材の模擬授業の実施と振り返り 比例・反比例(第6学年)の授業 第15回： 模擬授業のまとめ			
<b>テキスト</b> 「深い学び」を可能にする算数科教育(星野将直他著 一粒書房)(算数科教育法Ⅰの指定テキスト)			
<b>参考書・参考資料等</b> 小学校学習指導要領 算数編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 算数編（文部科学省・最新版）			
<b>学生に対する評価</b> 毎時間のノートの作成（20%）、配信問題（30%）、模擬授業・指導案（50%）によって、総合的に評価する。 ・ノートは、毎回点検し簡単な助言で評価をする。 ・配信問題は、解答提出すると、得点が即表示されるので、学生が自己評価する。 ・模擬授業・指導案については、授業内で確認・評価する。			

授業科目名： 理科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：海老崎 功 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 将来、小学校で安全に留意した観察・実験を含む授業を行うことができる最低限の知識や技能を身につける。			
授業の概要 小学校理科について多角的に考察する。我が国における理科教育の歴史を知り、学習指導要領や教科書の変遷をたどり、現在の理科教育について理解する。また、小学校における理科授業の実際として、指導計画の作成や観察・実験を取り入れた指導案の作成、情報通信技術の活用、評価等について、一部に模擬授業を取り入れながら考察する。			
授業計画 第1回：日本の理科教育について 第2回：理科の系統と学習指導要領 第3回：理科の内容と学習指導1（小学校3年① 自然観察） 第4回：理科の内容と学習指導2（小学校3年② 電気の通り道、磁石の性質） 第5回：理科の内容と学習指導3（小学校4年① 空気と水の性質） 第6回：理科の内容と学習指導4（小学校4年② 天気の様子） 第7回：理科の内容と学習指導5（理科室経営と実験器具） 第8回：理科の内容と学習指導6（小学校5年① 植物の成長の条件） 第9回：理科の内容と学習指導7（小学校5年② 電流のはたらき、振り子の運動） 第10回：理科の内容と学習指導及び振り返りと評価8（観察・実験授業の構築）情報通信技術の活用 第11回：理科の内容と学習指導及び評価9（小学校6年① 植物の養分） 第12回：理科の内容と学習指導及び振り返りと評価10（小学校6年② 月と太陽）情報通信技術の活用 第13回：理科の内容と学習指導及び評価11（小学校6年③ 電気の利用） 第14回：理科の内容と学習指導及び評価12（小学校6年④ 水溶液の性質） 第15回：理科の内容と学習指導及び評価13（生物と環境）			
テキスト 小学校学習指導要領（文部科学省、最新版） 小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省、最新版） ※以上はインターネットでも参照できますが、特に「解説 理科編」は安価であり授業でも多用するため必ず購入しておいて下さい。 小学校理科教科書 ※新規購入の必要はありません（小学校時に使った教科書等で構いません）。新規購入の場合は東京書籍（または大日本図書）を推奨します。			
参考書・参考資料等 「独創力を伸ばす理科教育（川村康文著、講談社、2014年刊）」			
学生に対する評価 授業中に作成するレポート（40%）および小学校学習指導要領（理科）についてのミニテスト（10%）、毎回提出するレポート（振り返り・50%）によって総合的に評価する。レポート等については授業内で解説を行い、講座終了時に返却する。希望者には採点結果等も開示する。			

授業科目名： 理科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：海老崎 功 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育実習を含む小学校での理科授業を想定し、観察・実験を含む授業の準備および指導案作成、授業実施までを体験し、理科指導の実践力を高める。			
授業の概要 小学校教員としての実践力を高めるため、観察・実験を含む模擬授業を中心としたアクティブラーニングの要素が強い講座を展開する。観察・実験部分に特化した短時間の模擬授業を各班2回、指導案付きの模擬授業を各班1回体験する。教員役以外の受講生は児童役として模擬授業の評価及び検討会を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（模擬授業の担当班分け等） ※①班～⑥班の6班を想定 第2回：模擬授業の観察・実験内容決定（班別討議）および安全指導等について 第3回：観察・実験部分に特化した30分以内の模擬授業と授業検討（①班、②班の1回目） 第4回：観察・実験部分に特化した30分以内の模擬授業と授業検討（③班、④班の1回目） 第5回：観察・実験部分に特化した30分以内の模擬授業と授業検討（⑤班、⑥班の1回目） 第6回：観察・実験部分に特化した30分以内の模擬授業と授業検討（①班、②班の2回目） 第7回：観察・実験部分に特化した30分以内の模擬授業と授業検討（③班、④班の2回目） 第8回：観察・実験部分に特化した30分以内の模擬授業と授業検討（⑤班、⑥班の2回目） 第9回：指導案作成および観察・実験プリント、情報通信機器の利用等について 第10回：観察・実験を含む指導案付きの45分の模擬授業と授業検討（①班） 第11回：観察・実験を含む指導案付きの45分の模擬授業と授業検討（②班） 第12回：観察・実験を含む指導案付きの45分の模擬授業と授業検討（③班） 第13回：観察・実験を含む指導案付きの45分の模擬授業と授業検討（④班） 第14回：観察・実験を含む指導案付きの45分の模擬授業と授業検討（⑤班） 第15回：観察・実験を含む指導案付きの45分の模擬授業と授業検討（⑥班）			
テキスト 小学校学習指導要領（文部科学省、最新版） 小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省、最新版） ※以上はインターネットでも参照できます。 小学校理科教科書 ※新規購入の必要はありません（小学校時に使った教科書等で構いません）。 新規購入の場合は東京書籍（または大日本図書）を推奨します。			
参考書・参考資料等 「独創力を伸ばす理科教育（川村康文著、講談社、2014年刊）」			
学生に対する評価 教員役として実施した模擬授業の内容等（担当教授による評価。ただし、児童役の受講生による評価および教員役の受講生による自己評価を参考に50%）、事前に提出された指導案および事後に提出された報告書（40%）、授業内で行ういくつかの調査（アンケート形式 10%）によって総合的に評価する。 指導案や報告書、模擬授業については授業内の検討会で解説を行う。希望者には採点結果等も開示する。			

授業科目名： 生活科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 智 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生活科の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活科教育の目標・内容・方法について解説するとともに、授業構成、学習指導方法の理論と実践について、個人又はグループによる教材開発や模擬授業を通して考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、生活科誕生の経緯と生活科の存在意義</p> <p>第2回：生活科の目標と内容</p> <p>第3回：生活科の内容の理解と教材開発（1）生活科と植物の栽培（内容（7））</p> <p>第4回：生活科の内容の理解と教材開発（2）生活科と季節の変化（内容（5））</p> <p>第5回：生活科の内容の理解と教材開発（3）身近な自然や物を使った遊び（内容（6））</p> <p>第6回：生活科の内容の理解と教材開発（4）生活科と町たんけん（内容（3））</p> <p>第7回：生活科とスタートカリキュラム</p> <p>第8回：生活科の内容の理解と教材開発（5）公共物や公共施設の利用（内容（4））</p> <p>第9回：生活科における情報通信技術及び教材の活用</p> <p>第10回：生活科の内容の理解と教材開発（6）町たんけん発表会（内容（8））</p> <p>第11回：生活科と学習評価</p> <p>第12回：生活科の指導計画・指導案の作成 情報通信技術の活用</p> <p>第13回：生活科の模擬授業（1）前半グループの発表と振り返り</p> <p>第14回：生活科の模擬授業（2）後半グループの発表と振り返り</p> <p>第15回：模擬授業の振り返りと授業改善 情報通信技術の活用</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>資質・能力時代の生活科—知性と社会性と情動のパースペクティブ—（中野真志・西野雄一郎編著 三恵社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（文部科学省 東洋館出版社）（最新版）、小学校学習指導要領解説生活編（文部科学省 東洋館出版社）（最新版）、他は、授業の中で随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>（1）生活科及び本講義への取り組み姿勢（小レポートなど）（30%）</p> <p>（2）作成した指導案および模擬授業（40%）</p> <p>（3）定期試験（30%）（持ち込み可）</p> <p>・小レポートや作品、発表、記録については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p>			

授業科目名： 生活科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 智 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教材開発力や単元構想力、授業力（板書力や発問力など授業に求められる力量の総体）といった生活科教育の専門的な指導力を身につける。			
授業の概要 低学年の子供の身体機能的な発達、思考と言語認識の発達、情緒・心理的な発達などに関する基礎的な理論学習をする。生活科教育法Iで学習した特色ある生活科実践校の実践例と重ねながら、さらに、一步深めた生活科教育を創造的、実践的に考案する。その上で、個人又はグループで仮想教案を作成して模擬授業を行い、相互に意見交流をし、生活科教育の実践的な力量をより高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：生活科の授業原理 第3回：生活科の教材開発 第4回：生活科の実践事例の分析と考察 第5回：生活科の指導計画の立案（1） 単元構想 第6回：生活科の指導計画の立案（2） 本時案の作成 第7回：生活科の指導計画の立案（3） 本時案の検討 第8回：生活科の指導計画の立案（4） 本時案の協議 第9回：生活科の模擬授業（1） 第1グループの発表と振り返り 第10回：生活科の模擬授業（2） 第2グループの発表と振り返り 第11回：生活科の模擬授業（3） 第3グループの発表と振り返り 第12回：生活科の模擬授業（4） 第4グループの発表と振り返り 第13回：生活科の模擬授業（5） 第5グループの発表と振り返り 第14回：生活科の模擬授業（6） 第6グループの発表と振り返り 第15回：学習成果の発表会			
テキスト 使用せず			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（文部科学省 東洋館出版社）（最新版）、小学校学習指導要領解説生活編（文部科学省 東洋館出版社）（最新版）、他は、授業の中で随時紹介する。			
学生に対する評価 （1）生活科及び本講義への取り組み姿勢（小レポートなど）（40%） （2）作成した指導案および模擬授業（60%） ・小レポートや指導案、模擬授業については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 音楽科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白石 朝子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領に基づく音楽科の目標及び指導内容を理解する。また、情報通信技術及び教材の効果的な活用法を学び、模擬授業に向けた学習指導案作成、教材準備をする。そして、共通教材等を用いた実技演習を通して表現力を高めるとともに、模擬授業の実践によって音楽科教育への理解を深める。			
授業の概要 音楽科の教科観の変遷をたどり、学習指導要領の内容を学ぶことを通して、現在の音楽科教育について理解する。また、教材研究と歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の演習を通して音楽科の指導法について学び、情報通信技術及び教材を効果的に活用した学習指導案の作成及び模擬授業の実践を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、音楽科の意義と教科観の変遷 第2回：音楽科の目標と指導内容—学習指導要領の理解 第3回：「表現」と「鑑賞」の指導法—それぞれの概要と関連性 第4回：教材研究（1）発声法と指揮の基本 第5回：教材研究（2）楽曲分析と伴奏法 第6回：歌唱指導法と演習—指導のポイントと実践事例解説および実践 第7回：器楽指導法と演習—楽器の取り扱いと楽曲分析および実践 第8回：音楽づくり指導法と演習—音から音楽への構成法および実践 第9回：鑑賞指導法—教材選択の観点と教材研究、情報通信技術の活用 第10回：指導計画の作成及び学習指導案の立案、評価の観点 第11回：音楽学習における指導の実際、情報通信技術及び教材の活用 第12回：学習指導案の確認と模擬授業の構想 第13回：グループによる模擬授業とディスカッション（1）歌唱 第14回：グループによる模擬授業とディスカッション（2）器楽 第15回：グループによる模擬授業とディスカッション（3）鑑賞、全体の振り返り			
テキスト 小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法（音楽之友社） 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版） 小学校学習指導要領 音楽編（文部科学省・最新版） 小学校学習指導要領解説 音楽編（文部科学省・最新版）			
参考書・参考資料等 小学校音楽科教科書1～6年（教育芸術社・教育出版・東京書籍） 授業中に楽譜・資料プリント等を適宜配付する。			
学生に対する評価 学習への取り組み姿勢（30%）、授業レポート（30%）、指導案と模擬授業（40%）を総合して評価する。課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 音楽科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：白石 朝子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>音楽科教育法Ⅰの内容をふまえて、小学校音楽を総合的に活用できる実践力を高める。教材研究および指導法について実践事例を用いて深く学び、子どもの発達を理解したうえで授業を展開できる力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>音楽科教育法Ⅰで習得した基本的な指導法を基盤とし、様々な実践事例を通して学ぶことで小学校音楽科の授業を構成する力を身に付ける。また、模擬授業実践とディスカッションを行い、子供の表現を育てる音楽教育について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、日本の音楽教育の歴史と現状</p> <p>第2回：小学校音楽科の指導法・教材研究</p> <p>第3回：発声指導法と弾き歌い</p> <p>第4回：低学年の授業構想（1）幼小連携を意識した教育実践</p> <p>第5回：低学年の授業構想（2）わらべうたと身体表現</p> <p>第6回：中学年の授業構想（1）歌唱教材と指導法</p> <p>第7回：中学年の授業構想（2）器楽教材と指導法</p> <p>第8回：高学年の授業構想（1）歌唱教材と指導法</p> <p>第9回：高学年の授業構想（2）器楽教材と指導法</p> <p>第10回：音楽理論</p> <p>第11回：音楽科における情報通信技術及び教材の活用法</p> <p>第12回：学習指導案の計画と模擬授業の構想、評価の観点</p> <p>第13回：模擬授業とディスカッション（1）低学年</p> <p>第14回：模擬授業とディスカッション（2）中学年</p> <p>第15回：模擬授業とディスカッション（3）高学年、全体の振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法（音楽之友社）</p> <p>小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）</p> <p>小学校学習指導要領 音楽編（文部科学省・最新版）</p> <p>小学校学習指導要領解説 音楽編（文部科学省・最新版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校音楽科教科書1～6年（教育出版）</p> <p>歌はともだち 教育芸術社</p> <p>授業中に楽譜・資料プリント等を適宜配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>学習への取り組み姿勢（30%）、授業レポート（30%）、指導案及び模擬授業（40%）を総合して評価する。課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p>			

授業科目名： 図画工作科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本 和久 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 図画工作科の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めると共に、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。			
<b>授業の概要</b> 学習指導要領における図画工作科の目標や指導内容を踏まえながら、児童の発達段階に即した実践的な指導法を身に付ける。図画工作科教育法Iでは、身近な材料や自然物を使い身体全体の感覚や技能などを働かせることができる指導法や、児童の豊かな発想や創造的な技能を伸ばすことのできる指導法を開発する。さらに、小グループによる授業づくり・模擬授業の公開を通して図画工作科の意義や内容についての理解を深める。			
<b>授業計画</b> 第1回：図画工作科教育の意義（「〇〇式」描画法について体験を通して考えてみよう） 第2回：学習指導要領にみる図画工作科教育の系譜とその展開 第3回：子どもの絵の表現の発達段階（ハーバート・リード、ローウェンフェルド） 第4回：平面における様々な技法 モダンテクニック演習（スクラッチ、フロッタージュ 等） 第5回：平面表現 小学校教材「言葉から想像を広げて」教材研究及び製作①（授業設計、構想、情報通信技術の活用法） 第6回：平面表現 小学校教材「言葉から想像を広げて」教材研究及び製作②（製作、技法指導） 第7回：平面表現 小学校教材「言葉から想像を広げて」教材研究及び製作③（製作、指導上の留意点） 第8回：平面表現 小学校教材「言葉から想像を広げて」教材研究及び製作④（鑑賞、学習評価） 第9回：授業づくり 図画工作科学習指導案作成 I（題材決定、題材観・児童観・指導観） 第10回：授業づくり 図画工作科学習指導案作成 II（学習過程の構想・評価）、試作① 第11回：授業づくり 図画工作科学習指導案作成 III（模擬授業に向けての準備）、試作② 第12回：立体表現（木工工作）セット教材の課題と工夫①（授業設計、構想、情報通信技術の活用法） 第13回：立体表現（木工工作）セット教材の課題と工夫②（製作、指導上の留意点、学習評価） 第14回：実践研究 模擬授業の公開・検討 I（①②グループ） 第15回：実践研究 模擬授業の公開・検討 II（③④グループ） / まとめと振り返り			
<b>テキスト</b> 小学校学習指導要領 図画工作編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省・最新版）			
<b>参考書・参考資料等</b> 小学校図画工作科用教科書「1・2上、1・2下、3・4上、3、4下、5・6上、5、6下」（日本文教出版） 小学校図画工作科用教科書「1・2上、1、2下、3・4上、3・4下、5・6上、5、6下」（開隆堂出版） 児童画のロゴスー身体性と視覚ー（鬼丸吉弘著 勁草書房） 芸術による教育（ハーバート・リード著 フィルムアート社） 芸術による人間形成（V.ローウェンフェルド著 黎明書房）			
<b>学生に対する評価</b> (1) 図画工作科教育及び本講義への取り組み姿勢（発表、小レポートなど）（20%） (2) 指導案及び模擬授業（40%） (3) 授業における成果・制作した作品（40%） (4) 小レポートについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。また、制作した作品については鑑賞会を実施し、解説・講評を行う。			

授業科目名： 図画工作科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本 和久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>芸術の意味や造形教育の意義をローウェンフェルドやハーバート・リードから学ぶ。また、児童理解を深めるための教材や鑑賞教材を研究開発する。さらに、絵画表現の基礎知識としての色彩理論や遠近法、美術作家と造形教育との関わりについて学び、図画工作科の意義や内容についての理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>図画工作科教育法Ⅰで習得した図画工作の基本的な指導法を積み上げ、より確かな指導力の習得を目指す。本授業では、児童画の発達段階や色彩の理論についての理解を深めるとともに、美術作家の生き方や美術教育との関わりを学び、図画工作科教育の理念や指導法を理解する。さらに、図画工作科教育の特性に応じた効果的な自作教材の開発に取り組み、成果を発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：自己紹介のツールとしての教材① ポップアップ・クラフト（構想・カッティング）</p> <p>第2回：自己紹介のツールとしての教材② ポップアップ・クラフト（装飾・鑑賞）</p> <p>第3回：色彩の理論①（色の性質、色と心理） / PCCSカラーダイアル作成演習</p> <p>第4回：色彩の理論②（配色と色彩調和） / PCCSカラーダイアル作成演習</p> <p>第5回：絵画表現の方法（構図の基礎、空気遠近法と線遠近法、透視図法）</p> <p>第6回：ローウェンフェルド「美術による人間形成」読解</p> <p>第7回：ハーバート・リード「芸術による教育」読解</p> <p>第8回：水彩画演習（支持体：6号パネル）①テーマ決め、構想</p> <p>第9回：水彩画演習（支持体：6号パネル）②彩色</p> <p>第10回：水彩画演習（支持体：6号パネル）③彩色、鑑賞</p> <p>第11回：美術作家の作品と生き方に学ぶ ①マルセル・デュシャン ②熊谷守一</p> <p>第12回：鑑賞教材について / 指導案作成と模擬授業（アメリカ・アリナスの「対話による鑑賞教育」）</p> <p>第13回：自作教材の研究・開発①（授業設計、構想、教材の活用法）</p> <p>第14回：自主教材の研究・開発②（製作、指導上の留意点、学習評価）</p> <p>第15回：自主教材の発表 / まとめと振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領 図画工作編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省・最新版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>美術による人間形成（V. ローウェンフェルド著 黎明書房）</p> <p>芸術による教育（ハーバート・リード著 フィルムアート社）</p> <p>色彩検定公式テキスト3級編（色彩検定協会監修 A・F・T企画）</p> <p>みる かんがえる はなすー鑑賞教育へのヒントー（アメリカ・アリナス著 淡交社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>(1) 図画工作科教育及び本講義への取り組み姿勢（発表、小レポートなど）（30%）</p> <p>(2) 授業における成果（制作した作品、開発した自主教材）（70%）</p> <p>(3) 小レポートについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。また、制作した作品については鑑賞会を実施し、解説・講評を行う。</p>			

授業科目名： 家庭科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 厚子/瀬治山 みど里 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 家庭科教育について基本的な理解をする。 小学校教員として必要な資質や態度について考える。			
授業の概要 小学校における家庭科教育の目標を踏まえ、領域ごとの実践的・体験的な活動方法について具体的な方策を探る。また、子供たちに身に付けさせたい知識・技能を確認した上で、どのようにすれば実践的態度を育てていけるのかについて考える。家庭環境により異なる生活経験を持つ子供たちを指導する上で留意すべきことを考え、どのような教材をどう取り扱うか、実践例をもとに検討する。			
授業計画 第1回：小学校学習指導要領における家庭科の基本方針 第2回：小学校学習指導要領における家庭科の目標と内容 第3回：指導計画作成上の留意事項と内容の取扱い 第4回：小学校家庭科の教材研究及び学習評価1：グループ活動1 家庭生活と家族、日常の食事と調理の基礎 第5回：小学校家庭科の教材研究及び学習評価2：グループ活動2 快適な衣服と住まい、身近な消費生活と環境 第6回：小学校家庭科の教材研究及び学習評価3：プレゼンテーション1 家庭生活と家族、日常の食事と調理の基礎 第7回：小学校家庭科の教材研究及び学習評価4：プレゼンテーション2 快適な衣服と住まい、身近な消費生活と環境 第8回：小学校家庭科学習指導案作成と板書計画 第9回：小学校家庭科学習指導案の作成（情報通信技術及び教材の活用を含む）：グループ活動 第10回：授業実践のポイント 第11回：家庭科の模擬授業と振り返り1 家庭生活と家族 第12回：家庭科の模擬授業と振り返り2 日常の食事と調理の基礎 第13回：家庭科の模擬授業と振り返り3 快適な衣服と住まい 第14回：家庭科の模擬授業と振り返り4 身近な消費生活と環境 第15回：家庭科の模擬授業と振り返り5 実験実習			
テキスト 新しい家庭 5・6（浜島京子・岡陽子 ほか44名著 東京書籍 最新版） 小学校学習指導要領 解説 家庭編（文部科学省 最新版）（東洋館出版社）			
参考書・参考資料等 必要に応じて、講義時に適宜紹介する			
学生に対する評価 レポート（30%）、指示された提出物（30%）、プレゼンテーション（30%）、学習への取り組み姿勢（10%）などを総合的に評価 課題（レポート・提出物等）については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 レポート等の点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 厚子/瀬治山 みど里 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 家庭科教育について理論と実践の両面から理解を深める。 小学校教員として必要な資質や態度について考える。			
授業の概要 家庭科教育法Ⅰで学んだ内容をもとに、より実践的な家庭科の授業展開について考える。特に実践的・体験的な活動のための教材及び授業計画について、安全面への配慮を踏まえ、検討する。また、現代社会における家庭生活に関わる問題点を取り上げ、家庭科教育としての視点で考察する。さらに、「食育」についても小学校家庭科における取り組みを検討する。			
授業計画 第1回：子どもの生活と家庭科 第2回：小学校家庭科の授業をつくる 第3回：さまざまな教材づくりを学ぶ1 実験実習の基礎 第4回：さまざまな教材づくりを学ぶ2 実験実習の応用 第5回：さまざまな教材づくりを学ぶ3 総合的な実験実習 第6回：評価について学ぶ 第7回：実験実習を伴う学習指導案を書く1 日常の食事と調理の基礎 第8回：実験実習を伴う学習指導案を書く2 生活に役立つものの製作 第9回：模擬授業と評価・振り返り1 日常の食事と調理の基礎 第10回：模擬授業と評価・振り返り2 生活に役立つものの製作 第11回：授業実践から学ぶ1 子どもの興味・関心を生かす授業 第12回：授業実践から学ぶ2 技能を生かして楽しむ授業1 食生活 第13回：授業実践から学ぶ3 技能を生かして楽しむ授業2 衣生活 第14回：授業実践から学ぶ4 「食育」についての取り組み 第15回：KJ法によるグループ活動 目指したい家庭科教育			
テキスト 小学校学習指導要領解説 家庭編（文部科学省・最新版）（東洋館出版社） 新しい家庭5・6（浜島京子・岡陽子ほか44名著 東京書籍・最新版）、その他、プリント配付 参考書・参考資料等 新学習指導要領を生かした家庭科の授業（橋本都編著 小学館）			
学生に対する評価 レポート（学習指導案を含む30%）、指示された提出物（30%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）など総合的に評価 課題（レポート・提出物等）については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 レポート等の点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 体育科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 秀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1.小学校体育の目標を理解し、教材や指導方法について学ぶ。</p> <p>2.模擬授業を通して、学習指導案の作成や評価について学び、指導力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>小学校学習指導要領の趣旨に沿って、運動領域の内容、児童の発育・発達の特性を踏まえた指導方法等について理解を深め、実技指導の実践方法を学ぶ。具体的には「基本の運動」「ゲーム」「体づくり」「ボール運動」「表現運動」の領域を中心とした内容について、指導案を作成し、模擬授業を実践することにより指導法を習得する。</p>			
授業計画			
第1回：体育科教育の意義・目標と教育課程			
第2回：体ほぐしの運動の学習内容と指導法及び評価			
第3回：体力を高める運動の学習内容と指導法及び評価			
第4回：運動遊び（走・跳）の学習内容と指導法及び評価			
第5回：運動遊び（器械・器具）の学習内容と指導法及び評価			
第6回：表現リズムあそびの学習内容と指導法及び評価			
第7回：表現運動（リズム・フォークダンス）の学習内容と指導法及び評価			
第8回：ボール運動（ゴール型）の学習内容と指導法及び評価			
第9回：ボール運動（ネット型）の学習内容と指導法及び評価			
第10回：ボール運動（ベースボール型）の学習内容と指導法及び評価			
第11回：保健領域の学習内容と指導法及び評価 ～中・高学年～			
第12回：教材研究と学習指導案の作成 ～運動領域（ボール運動も含む）～ 情報通信技術の活用			
第13回：教材研究と学習指導案の作成 ～表現領域～ 情報通信技術の活用			
第14回：教材を活用した模擬授業及び振り返り 情報通信技術の活用			
第15回：情報通信技術を活用した模擬授業及び振り返り			
テキスト			
小学校学習指導要領 体育編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省・最新版）			
参考書・参考資料等			
必要に応じて、授業時に適宜紹介する。			
学生に対する評価			
技能テストや課題レポート（70%）、課題発表（30%）により総合的に評価する。課題レポート、課題発表については、授業内で解説・講評・質問等を行う。			

授業科目名： 体育科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 秀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校体育（器械運動、陸上運動）の指導法、授業づくり、教材づくり、授業研究の方法について学ぶ。			
授業の概要 本授業では、小学校体育の内容領域である「器械運動」及び「陸上運動」の指導法、授業づくり、教材づくりについて、低学年・中学年・高学年のカリキュラムを視野に入れつつ、これまでの優れた体育実践研究の成果として生み出された「典型実践」をモデルにしながら、実技を通して学ぶ。同時に、体育授業の分析方法についても併せて学ぶ。			
授業計画 第1回：全体オリエンテーション（授業のねらい、プラン、グルーピング） 第2回：陸上運動（「あてっこペース走」、「リボン走」） 第3回：陸上運動（50m走―「田植えライン走」）① 第4回：陸上運動（50m走―「田植えライン走」～リズム走）② 第5回：陸上運動（リレー走―「GOマーク鬼ごっこ」）① 第6回：陸上運動（リレー走）② 第7回：器械運動オリエンテーション（器械運動の理論学習（教材価値、カリキュラム等） 第8回：器械運動の感覚づくり（「ネコちゃん体操」、「お話マット」づくり①） 第9回：お話マットづくり② 第10回：側転の系統的指導① 側転の捉え方 第11回：側転の系統的指導② 側転の指導方法 第12回：教材研究と指導案作成，「連続技」と「グループ音楽マット①」 第13回：教材研究と指導案作成，「グループ音楽マット②」 第14回：「グループマット」，模擬授業と振り返り 第15回：まとめ			
テキスト 適宜指示する。			
参考書・参考資料等 『体育科教育』（大修館書店）、『たのしい体育・スポーツ』（創文企画）、『小1～6 走・跳・投の遊び 陸上運動の指導と学習カード』（小学館 平成19年）、『ねこちゃん体操からはじまる器械運動のトータル学習プラン』（山内基広 平成19年 創文企画）、小学校学習指導要領 体育編（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省・最新版）、その他、授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 技能テストや課題レポート（70%）、課題発表（30%）により総合的に評価する。課題レポート、課題発表については、授業内で解説・講評・質問等を行う。			

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ（小・中）	教員の免許状取得のための 必修科目（小学校） 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：松井 千代 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校） 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>小学校における外国語活動・外国語及び中学校英語の学習・指導・評価に必要な基礎知識を身につける。各学年や校種の違いを理解し、それぞれの指導内容を適切に踏まえたうえで指導方法を思考し、選択することができる。そのうえで、小学校外国語活動・外国語及び中学校英語授業における指導技術を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>小学校及び中学校における英語教育に必要な基礎知識を学ぶことともに、グループ内討議と指導法の実践により、体験的に知識を深めることが期待される。授業計画の後半では、これまでの授業で得た知識や技術を基に模擬授業を行うことで、より実践的な指導力の獲得を目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、【基礎知識】小学校英語教育の変遷、小中高を通じた英語教育の在り方と小学校の役割、【指導実践】自己紹介による児童生徒への英語の語りかけ方</p> <p>第2回：【基礎知識】小学校学習指導要領と小中高英語教育の目標と内容 【指導実践】教室英語を使った児童生徒とのやり取りの進め方</p> <p>第3回：【基礎知識】発達段階にあった指導—小学校中・高学年、中学校の指導案分析を通して 【指導実践】授業研究 TT授業映像視聴、主教材であるデジタル教科書を使った授業</p> <p>第4回：【基礎知識】小学校及び中学校英語の授業モデルと授業設計 【指導実践】発達段階に合わせた導入の方法 歌やチャンツ</p> <p>第5回：【基礎知識】小学校外国語活動外国語及び中学校英語の年間指導計画と学習指導案 【指導実践】日本語との違いに気づく活動 教材選択と教材研究</p> <p>第6回：【基礎知識】第二言語習得の特徴を踏まえた教え方 小学校の語順指導と文法指導 【指導実践】語彙・表現の教え方、Oral IntroductionとOral Interaction</p> <p>第7回：【基礎知識】児童生徒の多様性への対応 学習モデルについて 【指導実践】語彙カードの適切な見せ方・指導方法、教材作成</p> <p>第8回：【基礎知識】語彙定着のための活動 小中学校で行われるゲーム活動 【指導実践】展開場面における活動の実践</p> <p>第9回：【基礎知識】主教材・教科書の「聞く」活動 【指導実践】話す活動 小中の違いとTTによるデモンストレーションの方法</p> <p>第10回：【基礎知識】観点別評価と評価基準 様々な評価方法 ICT機器の活用</p>			

<p>【指導実践】ICTを使った児童生徒の振り返り、振り返りシート作成</p> <p>第11回：【基礎知識】展開活動 意味あるやり取りを目指すコミュニケーション活動</p> <p>【指導実践】他教科の連携を意識した活動から書く活動へ 中学校における文法タスク</p> <p>第12回：【基礎知識】話す活動（発表）の指導とパフォーマンス評価</p> <p>【指導実践】児童生徒のスピーチ録画を使ったパフォーマンス評価の実践</p> <p>第13回：【指導実践】模擬授業発表1 外国語活動の授業発表</p> <p>第14回：【指導実践】模擬授業発表2 外国語の授業発表</p> <p>第15回：【基礎知識及び指導実践】模擬授業の振り返り まとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>中村典夫監修 鈴木渉・巽徹・林裕子・矢野淳著 コア・カリキュラム対応「小・中学校で英語を教えるための必携テキスト」東京書籍、児童用主教材（Let's Try 1・2：文部科学省）、児童生徒用教科書（New Horizon Elementary 5・6、New Horizon 1：東京書籍）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領外国語（文部科学省、最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省、最新版）</p> <p>小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）</p> <p>吉田研作監修 小川隆夫・東仁美著「小学校英語はじめる教科書」mpi出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>【評価方法】模擬授業の発表（40%）、まとめの振り返りレポート（論述形式による）（30%）、授業記録〔本時のリフレクションペーパー、指導実践の発表録画〕など提出物（30%）</p> <p>【フィードバック方法】模擬授業については最終授業内で振り返り意見を共有する際、口頭またはビデオをみながら直接フィードバックを与える。まとめの振り返りレポートについてはCSまたはMicrosoft Teamsを利用し、模範となる記述を配信する。授業記録などの紙による提出物は授業期間内にコメント等を書き加えて返却し、録画については翌週授業内で口頭にする。</p>

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ（小・中）	教員の免許状取得のための 選択科目（小学校） 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：松井 千代 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校） 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教育法Ⅰで身に付けた小学校における外国語活動・外国語及び中学校英語の学習・指導・評価に必要な基礎知識を活かし、より実践的に指導の方法について学び、指導技術を身に付けることを目標とする。特に、小学校外国語との接続期となる中学1年生英語科の指導を中心に、それぞれ校種の違いを踏まえたうえで、児童生徒の英語におけるコミュニケーションの素地及び基礎を育む指導について考える。</p>			
授業の概要			
<p>小学校や中学校の授業で用いられている主教材、特にICT教材を活用し、実際教室で行われている各指導を児童生徒役として体験や教師として実演によって、指導法についてより詳しく実践的に学んでいく。授業計画の前半、後半にそれぞれ学生グループによる指導法の発表や模擬授業及びフィードバックを行うことで、指導技術の改善を図り、他の学生と協働的に学びを深める機会を提供する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 中学校学習指導要領			
第2回：小中高等学校の接続と中学校の役割			
第3回：聞くこと 小学校外国語活動・外国語のLet's Listen と中学校英語におけるListening 【実践】デジタル教科書の活用 映像を利用したListening指導と設問の作成			
第4回：話すこと 小学校外国語におけるSmall Talkの効果と中学校英語におけるSpeaking 【実践】Small Talkの活用と発展的活動			
第5回：読むこと 小学校における指導 Sounds and Lettersの指導と絵本の活用 中学校における指導 Reading指導と英語多読 【実践】Reading教材の指導と活用			
第6回：書くこと 小学校における指導 文字の出合わせ方 フォニックス教授法 中学校における指導 Writing指導 フォニックスの活用と英作文 【実践】フォニックス指導による活動実践			
第7回：領域統合型の言語活動とは 児童生徒の思考力、判断力、表現力の育成 【実践】授業体験：他教科との連携した英語指導とタスク活動			
第8回：領域統合型活動のグループ内発表 実践と内容の検討			
第9回：異文化理解に関する指導 小学校外国語活動から外国語、中学校での指導 【実践】小学校Let's Watch and Think, 高学年のOver the Horizonの扱いと 中学校Reading partにおける異文化理解の分析と指導法			

第10回：指導体制の充実 小学校英語の担任中心の授業、小中における効果的なTeam Teaching

第11回：文法指導 中学1年生Unit0からの小中接続期に注目した文法指導

【実践】小学校の復習としての文法指導の導入

第12回：学習指導案の作成 小学校における指導案の分析と中学校学習指導案の作成

第13回：模擬授業1 文法指導導入期となる中学1年生小中接続期の指導 Unit 0について発表

第14回：模擬授業2 文法指導導入期となる中学1年生小中接続期の指導 Unit 1-5について発表

第15回：模擬授業の振り返り まとめ

テキスト

中村典夫監修 鈴木渉・巽徹・林裕子・矢野淳著 コア・カリキュラム対応「小・中学校で英語を教えるための必携テキスト」東京書籍、児童生徒用教科書（New Horizon Elementary 5・6、New Horizon 1：東京書籍）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領外国語（文部科学省、最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省、最新版）

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）

吉田研作監修 小川隆夫・東仁美著「小学校英語はじめる教科書」mpi出版

学生に対する評価

【評価方法】模擬授業の発表（40%）、まとめの振り返りレポート（論述形式による）（30%）、授業記録〔本時のリフレクションペーパー、指導実践の発表録画〕など提出物（30%）

【フィードバック方法】模擬授業については最終授業内で振り返り意見を共有する際、口頭またはビデオをみながら直接フィードバックを与える。まとめの振り返りレポートについてはCSまたはMicrosoft Teamsを利用し、模範となる記述を配信する。授業記録などの紙による提出物は授業期間内にコメント等を書き加えて返却し、録画については翌週授業内で口頭にする。

授業科目名： 英語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：若山 真幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>主として理論的な観点から英語を分析し、英語を言語研究の対象として捉える方法論を理解する。英語学における形態論、統語論、音韻論、音声学、意味論といった領域に関する基礎的な知識を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語学の全体像、研究領域、研究課題などについて、英語で書かれた文献を音読・講読しながら、英語研究の現状に対する理解を深める。英語学における形態論、統語論、音韻論、音声学、意味論といった領域に関する基礎的な知識を身に付けることで、今後の英語学習の基盤を作る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：英語および英語学の全体像 （英語の歴史の変遷及び国際共通語としての現在の英語の姿）</p> <p>第2回：英語の形態論（語形成の仕組み）</p> <p>第3回：英語の統語論（句構造と言語普遍性）</p> <p>第4回：文法・構文の歴史の変遷（文構造と国際共通語としての言語普遍性）</p> <p>第5回：英語の音声学（英語の発音の仕組み、日本語との相違点）</p> <p>第6回：英語の音韻論（アクセント、イントネーション、リズム）</p> <p>第7回：英語の意味論（語と文の意味のしくみ）</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『First Steps in English Linguistics：英語言語学の第一歩』（影山太郎他著 くろしお出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（50%）、学期末テスト（50%）</p> <p>【フィードバック】</p> <p>小テストについては、授業内で解答（自己採点）を提示し、補足説明を行う</p> <p>学期末のテストについては、解答案を公開するとともに希望者には採点結果を開示する</p>			

授業科目名： English Pronunciation Practice I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：丹羽 都美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 英語における子音・母音の発音、アクセント、リズムとイントネーション、音変化などの仕組みを、日本語との違いを考えながら体系的に理解する。</p> <p>2. 英語音声学の基礎的な知識として調音器官、調音位置、調音法などを学習し、発音記号による英語表記を理解する。</p> <p>3. それらの知識に基づき、実践を交えながら英語の発音・聞き取り能力の向上を目指す。</p>			
授業の概要			
英語における子音・母音の発音、アクセントなどの仕組みを、日本語との違いを考えながら体系的に理解する。英語音声学の基礎的な知識として調音器官、調音位置、調音法などを学習し、発音記号による英語表記を学習する。また、英語らしいリズムとイントネーションについても、その理論を学ぶとともに、実践練習を行いながら、英語のリスニング・スピーキング力定着を図る。			
授業計画			
第1回：概要説明：授業の進め方 / 音声とは何か / 英語と日本語（カタカナ語）の比較			
第2回：アクセント			
第3回：リズムの担い手と強勢パターン			
第4回：強勢を持つ語と持たない語			
第5回：複合語と句の強勢パターン			
第6回：基本的なイントネーション			
第7回：特殊なイントネーション			
第8回：聞き取り、発音の訓練法：シャドーイング / ディクテーション			
第9回：発音の仕組み：調音器官 / 子音と母音の分類			
第10回：母音の発音（1）調音位置と調音法			
第11回：母音の発音（2）母音の長さと言質 / 二重母音			
第12回：子音の発音（1）調音位置と調音法			
第13回：子音の発音（2）閉鎖音、摩擦音、破擦音			
第14回：子音の発音（3）鼻音、流音、半母音			
第15回：まとめ			
テキスト			
『こうすれば英語が聞ける：Ways to be better listeners』（中郷安浩・中郷 慶共著 英宝社）、授業中に配布するプリント等			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜指示する。			
学生に対する評価			
小テスト（1回、20%）・レポート（50%）、授業参加の取り組み姿勢・積極性等（30%）を総合して評価する。			
課題（小テスト・レポート等）については、授業内で解説・質問対応などを行う。			
点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： English Pronunciation Practice II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：丹羽 都美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
English Pronunciation Practice I に引き続き、英語の音節構造、リズムとイントネーション、母音・子音の発音、音変化などについて考察する。特に前期で学んだ音声学理論に関してさらに理解を深め、その知識を英語発音の実践面に活用することを目的とする。			
授業の概要			
英語（及び日本語）の音声の特徴の全体像を、より一層明確にすることを目標とする。日本の英語学習者にとって特に難しいとされる発音と聞き取りに焦点を当て、個々の音の発音方法を学ぶとともに、歌・映画・小説を教材として、その朗読・音読などを通して、英語らしく読み、話すための実践的練習を行う。			
授業計画			
第1回：概要説明：授業の進め方			
第2回：English Pronunciation Practice I の復習			
第3回：音節の構造			
第4回：音素と異音			
第5回：半母音の挿入			
第6回：子音の発音（1）調音位置と調音法			
第7回：子音の発音（2）わかりにくい子音 /r, l, v, th, .../			
第8回：子音の発音（3）わかりにくい子音 /s, sh, z, dz.../			
第9回：子音の発音（4）わかりにくい子音 /tr, dr.../			
第10回：母音の発音（1）長音位置と調音法			
第11回：母音の発音（2）母音の長さと言質 / 二重母音			
第12回：母音の発音（3）わかりにくい母音 /i, i:, u, u:, .../			
第13回：特殊な発音：[r]を伴った母音 / 半母音 / あいまい母音（シュワー）			
第14回：環境による音変化：氣息音 / 末尾子音 / 母音間の子音 / 同化 / 脱落			
第15回：まとめ			
テキスト			
『こうすれば英語が聞ける：Ways to be better listeners』（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社） （*English Pronunciation Practice I と共通）、授業中に配付するプリント類			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜指示する。			
学生に対する評価			
小テスト（1回）（20%）・レポート（50%）、授業参加の姿勢・積極性等（30%）を総合して評価する。 課題（小テスト・レポート等）については、授業内で解説・質問対応などを行う。 点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： English Grammar I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 晶子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英文法の知識がなければ、正しい英文を書くことはできないし、文構造を正しく把握しなければ、長い文を読むことはできない。練習問題を通して、英文法の知識を再確認するとともに、実際に英語を読んだり書いたりする上で、身につけた英文法の知識を活かすことができるように発展学習を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に活かすことができるような力に高める。理論と実践の両面から、英語表現そのものに焦点を当てて、多くの英文に触れる機会を提供する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション （教科書・参考書の紹介、学習方法、小テストの目的、成績評価など）</p> <p>第2回：第1章 文</p> <p>第3回：第2章 名詞</p> <p>第4回：第3章 冠詞</p> <p>第5回：第4章 代名詞</p> <p>第6回：第5章 疑問詞</p> <p>第7回：第1章～第5章のまとめと確認</p> <p>第8回：第6章 形容詞</p> <p>第9回：第7章 副詞</p> <p>第10回：第8章 比較</p> <p>第11回：第6章～第8章のまとめと確認</p> <p>第12回：第9章 動詞</p> <p>第13回：第10章 時制（1）：基本時制（現在、過去、未来）</p> <p>第14回：第10章 時制（2）：完了形と進行形</p> <p>第15回：第9章～第10章のまとめと確認</p>			
<p>テキスト</p> <p>『ロイヤル英文法問題集 改訂新版』（綿貫陽監修 池上博著、旺文社）（Brush-Up Exercises Based on ROYAL ENGLISH GRAMMAR）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『徹底例解 ロイヤル英文法』（綿貫陽他著、旺文社）（ROYAL ENGLISH GRAMMAR with Complete Examples of Usage）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（25%：問題への回答）、確認テスト（25%×3回：持ち込み不可）で総合的に判断して評価する。</p> <p>確認テストについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p> <p>点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： English Grammar I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 智之 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校までに学んだ英文法の知識を体系化しつつ、英語という言語の特徴について考える</li> <li>・実際に英語を読んだり書いたりする際に役立つように、練習問題を通じて英文法の知識を定着させる</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に活かすことができるような力に高める。理論と実践の両面から、英語表現そのものに焦点を当てて、多くの英文に触れる機会を提供する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：基本文型（1）：基本文型とは</p> <p>第3回：基本文型（2）：基本文型に入らない構文</p> <p>第4回：基本文型についてのまとめ</p> <p>第5回：文の構造（1）：句と節の関係</p> <p>第6回：文の構造（2）：文の種類と意味階層</p> <p>第7回：文の構造についてのまとめ</p> <p>第8回：動詞（1）：動詞の分類と形態</p> <p>第9回：動詞（2）：時制と相</p> <p>第10回：動詞（3）：文法形式から視点から分析する「時」</p> <p>第11回：動詞についてのまとめ</p> <p>第12回：助動詞（1）：助動詞の種類</p> <p>第13回：助動詞（2）：法助動詞の特性</p> <p>第14回：助動詞（3）：個々の法助動詞の意味・意味拡張・用法</p> <p>第15回：助動詞についてのまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『大学生のための現代英文法』（萱原雅弘・佐々木一隆 開拓社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に対する取り組み姿勢（20%）、小テスト（80%）などを総合的に判断して評価します。小テストについては、授業内で解説・講評等を行う。</p>			

授業科目名： English Grammar II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：太田 晶子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英文法の知識がなければ、正しい英文を書くことはできないし、文構造を正しく把握しなければ、長い文を読むことはできない。練習問題を通して、英文法の知識を再確認するとともに、実際に英語を読んだり書いたりする上で、身につけた英文法の知識を活かすことができるように発展学習を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に活かすことができるような力に高める。教科書に加えて最新の英字新聞や雑誌などの補助教材を用いて、多くの英文に触れ、理論と実践の両面から、英語表現そのものを追究するとともに、身近なことを平易な英語で表現するための実践練習をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション （教科書・参考書の紹介、学習方法、小テストの目的、成績評価など）</p> <p>第2回：第11章 助動詞</p> <p>第3回：第12章 不定詞</p> <p>第4回：第13章 分詞</p> <p>第5回：第14章 動名詞</p> <p>第6回：第11章～第14章のまとめと確認</p> <p>第7回：第15章 法</p> <p>第8回：第16章 態（1）：能動態と受動態</p> <p>第9回：第16章 態（2）：受動態の各用法</p> <p>第10回：第15章～第16章のまとめと確認</p> <p>第11回：第17章 接続詞</p> <p>第12回：第18章 関係詞（1）：関係代名詞</p> <p>第13回：第18章 関係詞（2）：関係副詞、複合関係詞</p> <p>第14回：第19章 前置詞</p> <p>第15回：第17章～第19章のまとめと確認</p>			
<p>テキスト</p> <p>『ロイヤル英文法問題集 改訂新版』（綿貫陽監修 池上博著、旺文社）（Brush-Up Exercises Based on ROYAL ENGLISH GRAMMAR）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『徹底例解 ロイヤル英文法』（綿貫陽他著、旺文社）（ROYAL ENGLISH GRAMMAR with Complete Examples of Usage）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（25%：問題への回答）、確認テスト（25%×3回：持ち込み不可）で総合的に判断して評価する。</p> <p>確認テストについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p> <p>点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： English Grammar II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 智之 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校までに学んだ英文法の知識を体系化しつつ、英語という言語の特徴について考える</li> <li>・実際に英語を読んだり書いたりする際に役立つように、練習問題を通じて英文法の知識を定着させる</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に活かすことができるような力に高める。教科書に加えて最新の英字新聞や雑誌などの補助教材を用いて、多くの英文に触れ、理論と実践の両面から、英語表現そのものを追究するとともに、身近なことを平易な英語で表現するための実践練習をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：受動文（1）：能動分と受動文</p> <p>第3回：受動文（2）：受動文の意味</p> <p>第4回：受動文のまとめ</p> <p>第5回：準動詞（1）：準動詞の定義と形態</p> <p>第6回：準動詞（2）：準動詞の用法</p> <p>第7回：準動詞（3）：不定詞と動名詞の意味の相違</p> <p>第8回：準動詞のまとめ</p> <p>第9回：形容詞（1）：形容詞の定義</p> <p>第10回：形容詞（2）：形容詞の統語的環境と意味的特性</p> <p>第11回：形容詞（3）：比較構文</p> <p>第12回：形容詞のまとめ</p> <p>第13回：名詞句と文構造の多様性（1）：名詞句の主要部、同格構文</p> <p>第14回：名詞句と文構造の多様性（2）：間接疑問と話法</p> <p>第15回：名詞句と文構造のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『大学生のための現代英文法』（萱原雅弘・佐々木一隆 開拓社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に対する取り組み姿勢（20%）、小テスト（80%）などを総合的に判断して評価します。小テストについては、授業内で解説・講評等を行う。</p>			

授業科目名： Practicum in English Linguistics I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：若山 真幸 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音やリズムのしくみを知り、実際の英語運用能力向上につなげる。</li> <li>・英語で使用される音声・音韻現象を学び、日本語との違いを理解する。</li> <li>・音声学や音韻論の観点から、言語の普遍性について考察する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>英語音韻論・音声学の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、音韻論・音声学の知識を実際の英語運用に活かすことができるように、様々な実践的トレーニングを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction to the study of sounds（音の研究とは）</p> <p>第2回：English is tough stuff and International Phonetic Alphabet（発音記号を使う理由）</p> <p>第3回：the system of English phonemes：consonants（英語の音素：子音）</p> <p>第4回：similar but different sounds（音の類似性と相違）</p> <p>第5回：the system of English phonemes：vowels（英語の音素：母音）</p> <p>第6回：differences between English and Japanese vowels（日英母音比較）</p> <p>第7回：what is a syllable?（音節とは）</p> <p>第8回：English syllable structure（英語の音節構造）</p> <p>第9回：sonority and phonotactics（聞こえ度と言語の音素配列）</p> <p>第10回：association of syllables with word plays（音節とことば遊び）</p> <p>第11回：syllables and rhythm（音節とリズム）</p> <p>第12回：stress accent and rhythm（ストレスとリズム）</p> <p>第13回：general rules for Latin accentuation（ラテン語アクセント規則）</p> <p>第14回：universal patterns in accentuation（通言語的なアクセント規則）</p> <p>第15回：summary（まとめ）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>適時、プリントを配付する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Language Files 9,10,11（The Ohio State University）『英語の音声を科学する』（川越いつえ 平成19年 大修館書店）、『音韻構造とアクセント』（窪園晴夫、太田聡 平成10年 研究社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題2回（50%）、学期末テスト（50%）</p> <p>【フィードバック】</p> <p>課題については、解答案とともに採点したものを返却し、授業内で解説を行う</p> <p>学期末テストについては、解答を公開し、希望者には採点結果を開示する</p>			

授業科目名： Practicum in English Linguistics I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：二村 慎一 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 1. 音の研究を通じて、言語の仕組みを学ぶ。 2. 言語の音の基本的な問題を理解する。			
授業の概要 英語音韻論・音声学の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、音韻論・音声学の知識を実際の英語運用に活かすことができるように、様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画 第1回：授業計画等の説明 第2回：言語研究の諸分野 第3回：母音・子音の発音 第4回：音節構造 第5回：頭韻と脚韻 第6回：語の強勢 第7回：派生語の発音 第8回：前半のまとめ 第9回：複合語の発音 第10回：文の強勢 第11回：リズム 第12回：イントネーション 第13回：アメリカ英語とイギリス英語 第14回：オノマトペ 第15回：後半のまとめ 定期試験			
テキスト プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への取り組み・授業内活動（30%）、中間テスト（35% 持ち込み不可）、期末テスト（35% 持ち込み不可） ・課題やテストについては、授業内で解説・質問対応等を行う。 ・テストの点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： Practicum in English Linguistics I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樗木 勇作 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語音声学を英語形態論と統合的に扱い、英語の音声のルールや単語の成り立ちについて基礎的理解を得ることを目標とする。洋楽も用いて英語のプロソディー（prosody）を徹底的に練習し、英語らしい発音をマスターする。さらには、アメリカ英語の発音とイギリス英語の発音の違いを認識し、それぞれの発音ルールを学び、自ら発音できるようになることも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語音韻論・音声学の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、音韻論・音声学の知識を実際の英語運用に活かすことができるように、様々な実践的トレーニングを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：ネイティブ発音への道</p> <p>第3回：英語のアクセントとリズム（1）：アクセント</p> <p>第4回：英語のアクセントとリズム（2）：リズム</p> <p>第5回：英語のアクセントとリズム（3）：イントネーション</p> <p>第6回：ナチュラルな発音をめざして</p> <p>第7回：母音の発音（1）：基本母音</p> <p>第8回：母音の発音（2）：長母音、二重母音</p> <p>第9回：Tの発音</p> <p>第10回：LとRの発音</p> <p>第11回：長い語句のアクセント・応用練習</p> <p>第12回：V, TH, S / Z, M, N, NG, H, K, Gの発音</p> <p>第13回：長い文をリズムカルに読む</p> <p>第14回：態度や感情を表すイントネーション</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>Ann Cook, Atsushi Mishima（平成22年）Sounds Like American A Guide to Fluency in Spoken English Cengage Learning ISBN：978-4-86312-117-1</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Ann Cook（平成12年）American Accent Training Barrons ISBN-10：0764173693 Ann K. Farmer &amp; Richard A. Demers（平成22年） A Linguistics Workbook：Companion to Linguistics, Sixth Edition MIT Press; ISBN：0262514826 Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, Robert M. Harnish（平成22年） Linguistics：An Introduction to Language and Communication, Sixth Edition MIT Press; ISBN：0262513706</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（30%）、レポート（20%）、授業への積極的取り組み姿勢（30%）、課題（20%） 小テストとレポートは採点が終わり次第返却してコメントする。</p>			

授業科目名： Practicum in English Linguistics II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：若山 真幸 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 ・日英語の形態統語構造の違いを学習する。 ・音、形態、統語の関連性を理論的に学習する。 ・形態論や統語論の観点から、言語の普遍性について考察する。			
授業の概要 英語形態論・統語論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、形態論・統語論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画 第1回：Introduction to morphology : morphology in our life （日常生活における形態論） 第2回：free and bound morphemes （自由形態素、束縛形態素） 第3回：inflectional and derivational affixes （屈折接辞、派生接辞） 第4回：derivation is selectional （派生の品詞制限） 第5回：derivation is hierarchical （派生における階層性） 第6回：word formation in everyday life （日常生活における語形成） 第7回：etymology, word origin, and food name （語源と食べ物の名前） 第8回：word order and X-bar theory （語順とXバー理論） 第9回：constituency and tests for constituent structure （構成素テスト） 第10回：association of morphology with syntax （形態論と統語論の関係） 第11回：deverbal compounding in English and Japanese （動詞由来複合語） 第12回：argument structure （項構造） 第13回：surface and deep subjects （表層と深層主語） 第14回：unaccusative and unergative verbs （非対格動詞と非能格動詞） 第15回：summary （まとめ）			
定期試験			
テキスト 参考文献をもとに作成した資料を配付する。			
参考書・参考資料等 Brinton and Brinton（平成22年）『The Linguistic Structure of Modern English 2nd Edition』 John Benjamins Publishing Company. Pinker, Steven（平成27年）Words and Rules : 『The Ingredients Of Language』 Basic Books. Pinker, Steven（平成19年）The Stuff of Thought : 『Language as a Window into Human Nature』 Penguin Books.			
学生に対する評価 課題2回（50%）、学期末テスト（50%） 【フィードバック】 課題については、解答案とともに採点したものを返却し、授業内で解説を行う 学期末テストについては、解答を公開し、希望者には採点結果を開示する			

授業科目名： Practicum in English Linguistics II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：二村 慎一 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 語・文の研究を通じて、言語の仕組みを学ぶ。 2. 意味と形式との関係を理論的に学ぶ。			
授業の概要			
英語形態論・統語論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、形態論・統語論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画			
第1回：授業計画等の説明			
第2回：語の内部構造			
第3回：接辞の種類			
第4回：接辞の統語的・音韻的・意味的特徴			
第5回：レベル順序付け仮説			
第6回：複合			
第7回：転換			
第8回：前半のまとめ			
第9回：混成・短縮・頭文字語			
第10回：形態論と統語論の接点			
第11回：語と句・文			
第12回：句の構造			
第13回：文の構造			
第14回：移動現象			
第15回：後半のまとめ			
定期試験			
テキスト			
プリントを配付する。			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価			
授業への取り組み・授業内活動（30%）、中間テスト（35% 持ち込み不可）、期末テスト（35% 持ち込み不可）			
・課題やテストについては、授業内で解説・質問対応等を行う。			
・テストの点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： Practicum in English Linguistics II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樗木 勇作 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語形態論・統語論を中心に音声学や音韻論とも統合的に扱うことで、英語の単語構造や文構造について基礎的理解を得ることを目標とする。			
授業の概要 英語形態論・統語論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、形態論・統語論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画 第1回：Introduction（導入） 第2回：Morpheme（1）：morphemes and allomorphs（形態素と異形態） 第3回：Morpheme（2）：free and bound morphemes（自由形態素と拘束形態素） 第4回：Morpheme（3）：derivational rules（派生規則） 第5回：Simple word versus Complex word（単純語と複合語） 第6回：Open- and Closed-Class words（開いた類と閉じた類の語） 第7回：Word Building -ness Affixation（接尾辞-nessを使った接辞化） 第8回：Simple Phrase Structure Rules（1）：constituency（句構造規則（構成素）） 第9回：Simple Phrase Structure Rules（2）：syntactic categories（句構造規則（統語範疇）） 第10回：Simple Phrase Structure Rules（3）：cross-categorical parallelism（句構造規則（範疇にまたがる規則性）） 第11回：Simple NPs,VPs, and PPs（1）：head and complement（句の主要部と補部） 第12回：Simple NPs,VPs, and PPs（2）：adjunct（付加詞） 第13回：Tree Terminology（樹形図） 第14回：Tree and Sentence Matching（樹形図を使って統語構造を記述する） 第15回：S-Adverbs versus VP-Adverbs（文副詞とVP副詞）			
テキスト Ann K. Farmer & Richard A. Demers（平成22年） A Linguistics Workbook： Companion to Linguistics, Sixth Edition MIT Press; ISBN：0262514826			
参考書・参考資料等 『First Steps in English Linguistics』（影山太郎 他著 平成16年 くろしお出版）			
学生に対する評価 小テスト（30%）、レポート（20%）、授業への積極的取り組み姿勢（30%）、課題（20%） 小テストとレポートは採点が終わり次第返却してコメントする。			

授業科目名 : Practicum in English Linguistics II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数 : 2単位	担当教員名 : 丹羽 都美 担当形態 : クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語形態論・統語論を中心に音声学や音韻論とも統合的に扱うことで、英語の単語構造や文構造について基礎的理解を得ることを目標とする。			
授業の概要 英語形態論・統語論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、形態論・統語論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画 第1回 : Introduction (導入) 第2回 : Morpheme (1) : morphemes and allomorphs (形態素と異形態) 第3回 : Morpheme (2) : free and bound morphemes (自由形態素と拘束形態素) 第4回 : Morpheme (3) : derivational rules (派生規則) 第5回 : Simple word versus Complex word (単純語と複合語) 第6回 : Open- and Closed-Class words (開いた類と閉じた類の語) 第7回 : Word Building -ness Affixation (接尾辞-nessを使った接辞化) 第8回 : Simple Phrase Structure Rules (1) : constituency (句構造規則 (構成素)) 第9回 : Simple Phrase Structure Rules (2) : syntactic categories (句構造規則 (統語範疇)) 第10回 : Simple Phrase Structure Rules (3) : cross-categorical parallelism (句構造規則 (範疇にまたがる規則性)) 第11回 : Simple NPs,VPs, and PPs (1) : head and complement (句の主要部と補部) 第12回 : Simple NPs,VPs, and PPs (2) : adjunct (付加詞) 第13回 : Tree Terminology (樹形図) 第14回 : Tree and Sentence Matching (樹形図を使って統語構造を記述する) 第15回 : S-Adverbs versus VP-Adverbs (文副詞とVP副詞)			
テキスト Ann K. Farmer & Richard A. Demers (平成22年) A Linguistics Workbook : Companion to Linguistics, Sixth Edition MIT Press; ISBN : 0262514826			
参考書・参考資料等 『First Steps in English Linguistics』 (影山太郎 他著 平成16年 くろしお出版)			
学生に対する評価 レポート (50%)、授業への積極的取り組み姿勢 (30%)、課題 (20%) 課題については、授業内で解説・質問対応などを行う。 課題・レポートの採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： Practicum in English Linguistics III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：若山 真幸 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 ・形態論・統語論と結びつけながら、意味のしくみについて考察する。 ・情報構造や会話の原理を使って、英語の効果的運用と対人コミュニケーションを学ぶ。 ・意味論や語用論の観点から、言語の普遍性について考察する。			
授業の概要 英語意味論・語用論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、意味論・語用論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画 第1回：Introduction： what is semantics? （意味論とは） 第2回：basic semantic relationship （基本的な意味関係） 第3回：semantic feature（1）：feature analysis of nouns and verbs（名詞・動詞の意味素性） 第4回：semantic feature（2）：similarities between nouns and verbs（名詞・動詞の類似性） 第5回：notes on verbs and modals （動詞と助動詞） 第6回：semantic anomaly：selectional restrictions （意味制限） 第7回：corpus study：pilot （コーパス分析（導入）） 第8回：corpus study：cultromics （コーパスから文化を見る） 第9回：cognitive analysis to meaning：Lakoff（1980）Lakoff（（1980）のメタファー分析） 第10回：cognitive analysis to meaning：Lakoff（1987）Lakoff（（1987）のメタファー分析） 第11回：read between lines：implication and entailment （会話の含意） 第12回：the cooperative principle and conversational implicature （協調の原則と含意） 第13回：indirect and politeness expressions （間接表現と丁寧表現） 第14回：information structure：old and new information （新情報と旧情報） 第15回：information structure：word order （情報構造と語順） 定期試験			
テキスト 参考文献をもとに作成した資料を配付する。			
参考書・参考資料等 Brinton and Brinton（平成22年）The Linguistic Structure of Modern English 2nd Edition, John Benjamins Publishing Company. Lakoff and Johnson（平成20年）Metaphors We Live By, University of Chicago Press. Lakoff（平成2年）Women, Fire and Dangerous Things：What Categories Reveal About the Mind, University Of Chicago Press.			
学生に対する評価 課題2回（50％）、学期末テスト（50％） 【フィードバック】 課題については、解答案とともに採点したものを返却し、授業内で解説を行う 学期末テストについては、解答を公開し、希望者には採点結果を開示する			

授業科目名： Practicum in English Linguistics III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：二村 慎一 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意味の研究を通じて、言語の仕組みを学ぶ。</li> <li>2. 言語の意味の基本的な問題を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>英語意味論・語用論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、意味論・語用論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業計画等の説明 第2回：ことばの意味とは 第3回：意味関係（1）同義関係、上下関係 第4回：意味関係（2）反意関係、多義性 第5回：意味変化 第6回：語彙概念構造 第7回：生成語彙論 第8回：文の意味 第9回：構文の意味 第10回：情報構造 第11回：指示表現 第12回：会話の原則と会話の含意 第13回：発話行為 第14回：丁寧さ 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>プリントを配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み・授業内活動（30%）、中間テスト（35% 持ち込み不可）、期末テスト（35% 持ち込み不可）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題やテストについては、授業内で解説・質問対応等を行う。</li> <li>・テストの点数や採点結果は希望者に開示する。</li> </ul>			

授業科目名： Practicum in English Linguistics III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樗木 勇作 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語意味論・語用論を中心に、音声学・形態論・統語論とも統合して、言語の意味の仕組みやコンテキスト・話し手・聞き手のダイナミズムで決定される語用論の中心概念について基礎的理解を得ることを目標とする。意味論・語用論にとどまらず、イギリス英語とアメリカ英語の違い等にも一定の理解を得ることを目指す。			
授業の概要 英語意味論・語用論の基礎知識を身に付け、発展的研究内容についての学習を深めた上で、意味論・語用論の知識を実際の英語運用に活かすことができるように様々な実践的トレーニングを行う。			
授業計画 第1回：Introduction（導入） 第2回：Compositional and Noncompositional meaning（構成的意味と非構成的意味） 第3回：Ambiguous words（曖昧な語） 第4回：Ambiguous sentences（曖昧な文） 第5回：Homophony and polysemy（同音異義性と多義性） 第6回：Evaluative and Emotive meaning（評価的な意味と感情的な意味） 第7回：Metaphor and metonymy（メタファーとメトニミー） 第8回：Identifying the Message（発言を同定する） 第9回：Communication Breakdown（コミュニケーションの断絶） 第10回：Literal/Nonliteral Use（文字通りの意味と行間の意味） 第11回：Indirectness（間接表現） 第12回：Cooperative principle（協調の原理） 第13回：Conversational implicature（会話の含意） 第14回：Performative Verbs versus Perlocutionary Verbs（遂行動詞と発話媒介動詞） 第15回：Summary（まとめ）			
テキスト Ann K. Farmer & Richard A. Demers（平成22年） A Linguistics Workbook：『Companion to Linguistics, Sixth Edition』MIT Press; ISBN：0262514826			
参考書・参考資料等 『First Steps in English Linguistics』（影山太郎 他著 平成16年 くろしお出版）			
学生に対する評価 小テスト（30%）、レポート（20%）、授業への積極的参加態度（30%）、課題（20%） 小テストとレポートは採点が終わり次第返却してコメントする。			

授業科目名： Corpus Linguistics	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤原 康弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>最近、注目されているコーパスとは何か、様々なコーパスの特徴を知り、言語研究や言語教育にどのように役立つのか理解する。多くの第二言語習得（英語）教材がコーパスに基づいて作られていることを知る。コンコーダンスーといったコーパスツールやウェブ上のコーパスを実際に使って英語を学習し、コーパスの有用性を自ら検証する。そして、言語のマクロ研究を行うと共に、小学校・中学校・高等学校、子ども英語教室で自らが英語を教えると仮定し、コーパスを使ってどのような授業を展開できるかについて考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>コーパス（Corpus）とは、実際に話されたり、書かれたりした言語のデータを数多く集めて、コンピュータに保存したものである。このデータを分析することで、これまで教員や研究者が経験や勘に頼っていた教育実践について、短時間で客観的な評価をすることが可能になる。例えば、日本人中高生の英作文コーパスにおいては、どのような誤りが最も多いかを知ることができるので、英語教育に大いに役立つ。この授業ではコーパスが母語習得、第二言語習得などの言語研究や言語教育にどのように役に立つのかについて学ぶ。その上で、コーパスを使った英語学習・教育の方法の有効性について実践例を通して考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：コーパスとは何か</p> <p>第2回：コーパス活用のための基礎知識（type, token, lexical variety, lemma, collocation, etc）</p> <p>第3回：汎用コーパス（COCA/BNC）（1）（英語）</p> <p>第4回：汎用コーパス（COCA/BNC）（2）（米語など英語母語変種）</p> <p>第5回：汎用コーパス（COCA/BNC）（3）（英語・米語の歴史的変遷）</p> <p>第6回：学習者コーパス概観</p> <p>第7回：学習者コーパス（1）（中高生：Japanese EFL Learner Corpus）</p> <p>第8回：学習者コーパス（2）（大学生：ICLE, NICE, ICNALE）</p> <p>第9回：学習者コーパス（3）（教育現場での活用方法）</p> <p>第10回：教育コーパス（1）（小学校：小学校英語ウェブコンコーダンスー）</p> <p>第11回：教育コーパス（2）（中高：AntConc）</p> <p>第12回：教育コーパス（3）（中高：AntConc, AntWordProfiler）</p> <p>第13回：コーパス活用のための正規表現および統計処理</p> <p>第14回：最終レポート・発表</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（赤野一郎・堀正広・投野由紀夫著 大修館書店）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『ベーシックコーパス言語学 第2版』（石川慎一郎著 ひつじ書房）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（質問に対する回答、リアクションペーパー等）（30%）、課題（70%）提出された課題については、授業内で講評、質問対応等を行います。</p>			

授業科目名： Language & Culture	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：若山 真幸 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語の語彙や表現の量的変化を観察しながら、言語変化と社会現象の推移に強い相関関係があることを発見し、その要因を明らかにする。英語の歴史的・文化的変遷、世界の英語などの広がりをデジタル資料を使って視覚化し、客観的な分析や議論が行うことができる能力も身につける。			
授業の概要 言葉が使われるコンテキスト、効果的な言葉の解釈に必要な核となるスキルを学習する。とりわけ、英語のような言葉がもつ「意味」は、それが使われる「状況」に深く依存しており、そうした「状況」は文化によってきめられる「コンテキスト」と強いつながりがある。そのような「状況」や「コンテキスト」を理解することによって、効果的なコミュニケーション力を身に付けられるだけでなく、様々な文化や価値観を知ることにつながる。			
授業計画 第1回：言語と文化の変化のつながり 第2回：Google Books Ngram Viewerの開発とその意義 第3回：Markedness (1): 英語反義語の有標性と使用頻度のつながり 第4回：Markedness (2): ジェンダーに関する語の変遷と社会運動とのつながり 第5回：Markedness (3): 語義や文法に押し寄せる変化 第6回：Markedness (4): コーパスやNgram Viewerを使った調査方法 第7回：イギリスからのアメリカの政治的・言語的独立 第8回：アメリカ英語の広がりをコーパスやNgram Viewerを使って示す 第9回：African-American Vernacular English (AAVE) の誕生と広がり 第10回：世界の英語とアメリカ英語とイギリス英語の世界での使用分布 第11回：言語情報の視覚化(Visualizing Language)を活用する 第12回：言語の難易度を測定する(1): フォーマルおよびカジュアルな英語の数値化 第13回：言語の難易度を測定する(2): アメリカ大統領のスピーチを比較する 第14回：ジップの法則(1): 言語の使用頻度と動詞の不規則変化 第15回：ジップの法則(2): 英語の未来を予測する			
テキスト 参考文献をもとに作成した資料を配布する			
参考書・参考資料等 Aiden and Jean-Baptiste (2013) <i>Uncharted: Big Data as a Lens on Human Culture</i> . Riverhead Books: New York. David Crystal (2018) <i>The Cambridge Encyclopedia of the English Language</i> . Cambridge University Press: Cambridge. 他			
学生に対する評価 小テスト(50%)とレポート2回(50%) 【フィードバックの方法】 レポートについては、解答案と評価方法をループリックを使って開示して受講生に返却する。 小テストは Teamsを通じて解答と自動採点が行われる。さらに、後日の授業で講評する。			

授業科目名： History of English	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 智之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 ・英語の歴史を振り返りながら、各時代の英語の特徴を学習する。 ・言語・文化接触の過程から言語と文化のつながりを学習する。			
授業の概要 英語の綴り・発音・語彙・文法にまつわる様々な問題を、英語の歴史を通して明らかにする。特に、ゲルマン系言語に分類される英語が、フランス語やラテン語などのロマンス系言語との接触を通して、どのような影響を受け、どのような変遷を経て現代英語に至ったかについて学び、英語への理解を一層深めていく。			
授業計画 第1回：Introduction（導入） 第2回：The Indo-European languages and the Germanic languages（印欧語とゲルマン語） 第3回：Old English（1）：Anglo-Saxon England and its language（アングロサクソンの英語） 第4回：Old English（2）：Old English lexicon and grammar（古英語の語彙と文法） 第5回：Old English（3）：Scandinavian influence（北欧語の影響） 第6回：Middle English（1）：Anglo-Norman Influence（アングロノーマンの影響） 第7回：Middle English（2）：Middle English lexicon and grammar（中英語の語彙と文法） 第8回：Middle English（3）：The emergence of standard English（標準英語の確立） 第9回：Early Modern English（1）：Great Vowel Shift and other sound changes（大母音推移） 第10回：Early Modern English（2）：The influence of the Renaissance on English（ルネッサンスの影響） 第11回：Early Modern English（3）：The first English dictionary and prescriptivism（最初の辞書と規範主義） 第12回：Modern English：American English（アメリカ英語） 第13回：English in the 18th and 19th centuries（18-19世紀の英語） 第14回：World English, Pidgins and Creoles（世界の英語、ピジンとクレオール） 第15回：Summary（まとめ） 定期試験			
テキスト プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業内レポート（20%）、学期末テスト（80%） レポートについては、授業内で解説・講評等を行う。			

授業科目名： Language Acquisition	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三島 恵理子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業の目標は主として次の3つである。第一は、<b>language acquisition</b>の研究成果、とりわけ日本語の母語獲得と英語の第二言語習得の成果を中心に見識を深め、当該分野の基本的な理論や仮説などを理解する。第二に、その理解を深めるとともに、自分の英語学習、習得を客観的な目で見つめなおす。第三に、グループで予測（仮説）をたて、どのように調査したらその予測（仮説）を検証することが可能かについて、構想を立てる。上記の3点の目標を達成することで、自身の今後の言語習得に活かすと共に、汎用的な研究構想力の向上を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「Language Acquisition」とは「言語習得／言語獲得」を意味し、内容としては「母語獲得」（<b>first language acquisition</b>）と「第二言語習得」（<b>second language acquisition</b>）の2つの分野が含まれる。本授業では両分野の基本的事項、理論や仮説、及び研究方法について学ぶ。さらに、第二言語習得理論に基づいた効率的な英語教育についても考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本授業の概略、および授業運営と評価方法に関する説明を聞く。自己紹介、アンケート。それぞれの英語学習の振り返り。</p> <p>第2回：第二言語習得研究とは何か：SLA研究の射程、基礎用語の理解（EFL/ESL, linguistics, applied linguistics, L2 learners/users）を行う。</p> <p>第3回：母語習得についての2つの理論：母語習得における生得的言語習得観と創発的言語習得観という2つのまったく異なる視点を理解し、コミュニケーションの大切さについて考える。</p> <p>第4回：母語と第二言語の相互の影響：母語が第二言語習得に与える言語的、かつ認知的な正負の影響について考える。</p> <p>第5回：中間言語の特性：実際の学習者コーパスのデータを用いて、グループで誤り分析（<b>identification, description, explanation, evaluation</b>）を行い、内容について発表する。</p> <p>第6回：SLAの認知的アプローチ（インプットーインタラクションーアウトプット）(1)：SLAの中核を成すインプット仮説、インタラクション仮説、アウトプット仮説について理解を深める。</p> <p>第7回：SLAの認知的アプローチ（気づきと意識）(2)：言語使用や言語習得に関わる心理的側面、とりわけSLAにおける「気づき（<b>noticing</b>）」や「意識（<b>consciousness</b>）」の役割について理解を深める。</p> <p>第8回：SLAの2つの見方 - 認知的アプローチと社会的アプローチ：個人主義的な認知的アプローチと社会的コンテクストをふまえる社会的アプローチを理解し、言語習得におけるアイデンティティの重要性を捉える。</p> <p>第9回：第二言語習得研究と外国語研究—タスク中心アプローチ（1）：外国語教育法の変遷を概観し、近年の<b>classroom SLA</b>において注目を浴びるタスク中心アプローチを理解する。</p> <p>第10回：第二言語習得研究と外国語研究—タスク中心アプローチ（2）：タスク中心アプローチをふまえて、実際に諸要因を考慮しながら、タスクを作成する。</p> <p>第11回：個人差要因(1)：外国語適性、性格などのSLAにおける個人差のある側面について理解を深める。</p> <p>第12回：個人差要因(2)：動機づけ、学習方略などのSLAにおける個人差のある側面について理解を深める。</p> <p>第13回：臨界期仮説と児童英語教育：言語習得における「臨界期仮説」の諸研究を吟味し、児童英語教育の在り方について考察する。</p> <p>第14回：複雑系理論のアプローチ：今までの内容をふまえると同時に、近年着目されつつある理論（特に複雑系理論）について理解を深める。</p> <p>第15回：レポート発表とディスカッション：自身の書いたレポートの内容を発表し、クラス内で議論する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>『はじめての第二言語習得論講義 - 英語学習への複眼的アプローチ』（馬場今日子・新多了 大修館書店 2016年刊）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に生かす第二言語習得』（パッツィ・M. ライトバウン / ニーナ・スパダ著【白井恭弘・岡田雅子訳】岩波書店）、『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』（白井恭弘著 岩波書店）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト(40%) レポート(30%) ディスカッション、グループ活動(30%) 以上、3点により総合的に評価する。授業回数3分の1以上欠席した場合は失格とする。</p>			

授業科目名： 英文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：太田 直子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 英米文学を読む際に必要な基本的な知識を習得し、文学研究の基礎を身につけることを目標とする。Fiction, Drama, Poetryについて学んでいく。			
授業の概要 英米文学作品の主要なジャンルの特性や文学作品を構成する基本的な要素（character（登場人物）、plot（あらすじ）、point of view（作品の見方）、theme（テーマ）、image（イメージ）、symbol（象徴）など）について学び、英米文学作品を解釈するための基礎的な知識を習得する。			
授業計画 第1回：Introduction：文学とは：ギリシャ・ローマから引き継がれた文学作品の形（テキスト pp. 1-12.） 第2回：Fictionの特質：韻文から散文へ。イギリス18世紀、アメリカ19世紀の小説を分析する（テキストpp. 13-24） 第3回：Fiction の要素：語りと視点の多様性 The American TragedyとThe Great Gatsbyを例にして（テキスト pp. 24-41） 第4回：Drama の特質：宗教劇からShakespeare劇への変化と時代背景（テキストpp. 42-59） 第5回：Dramaの要素と種類：Shakespeareの悲劇と喜劇を取り上げ、その違いと手法を知る（テキストpp. 49-58） 第6回：Poetryの形：韻文としての特質と特徴（テキストpp. 59-79） 第7回：PoetryをScanする：Thomas Grayの詩を分析する（テキストpp. 70-86） 第8回：まとめ			
テキスト 「A Guide to Literary Study」(Leon T. Dickinson, Naozo Ueno (ed.), Nan'un-do)			
参考書・参考資料等 「Reading the Novel--An Introduction to the Techniques of Interpreting Fiction」 「文学用語辞典」（研究社）、「Henry James; The Art of Fiction」			
学生に対する評価 小テスト（10%）、学期末テスト（90%）で評価する。学期末試験は持ち込み不可。 授業開始時に実施する小テストは、採点してコメントを加えたものを次週に返却。また提出されたレポートその他の課題に関しては、授業の中で解説、講評する。			

授業科目名： 英語圏文学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 直子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。 (2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。 (3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力を高める。			
授業の概要 小説を理解し読むにはテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から分析していく。授業では19世紀、20世紀の英米の短編小説を取り上げる。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：キャラクター：行動 第3回：キャラクター：せりふ 第4回：キャラクター：外見 第5回：キャラクター：他のキャラクターとの関係 第6回：キャラクター：行動と個性の一致 第7回：キャラクター：動的キャラクターと静的キャラクター 第8回：プロット：時系列プロット 第9回：プロット：フラッシュバック 第10回：プロット：個人対個人 第11回：プロット：個人対社会 第12回：プロット：個人対自然 第13回：プロット：葛藤と葛藤の欠如 第14回：再話の準備 第15回：再話の実践			
テキスト 「Pete Hamill's Best Stories」 松柏社 ¥1,950+税			
参考書・参考資料等 都甲孝治『教養としてのアメリカ短篇小説』NHK出版 『文学要語辞典』 その他は随時授業内で紹介・説明する			
学生に対する評価 授業に対する取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%） 提出された小テスト、レポートその他の課題に関しては、授業の中で解説、講評する。			

授業科目名： 英語圏文学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平林 美都子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。</p> <p>(2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。</p> <p>(3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小説を理解し読むにはテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から分析していく。授業では19世紀、20世紀の英米の短編小説を取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：キャラクター：行動</p> <p>第3回：キャラクター：せりふ</p> <p>第4回：キャラクター：外見</p> <p>第5回：キャラクター：他のキャラクターとの関係</p> <p>第6回：キャラクター：行動と個性の一致</p> <p>第7回：キャラクター：動的キャラクターと静的キャラクター</p> <p>第8回：プロット：時系列プロット</p> <p>第9回：プロット：フラッシュバック</p> <p>第10回：プロット：個人対個人</p> <p>第11回：プロット：個人対社会</p> <p>第12回：プロット：個人対自然</p> <p>第13回：プロット：葛藤と葛藤の欠如</p> <p>第14回：再話の準備</p> <p>第15回：再話の実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>「名作映画でTOEIC(4) 目指せ！470 『オズの魔法使』」（英宝社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（40%）、第1回小テスト（30%）、第2回小テスト（30%）</p> <p>提出物や小テストは評価をして返却。授業時に解説や質問への対応を行う。</p>			

授業科目名： 英語圏文学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒澤 純子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。</p> <p>(2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。</p> <p>(3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小説を理解し読むにはテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から分析していく。授業では19世紀、20世紀の英米の短編小説を取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：キャラクター：行動</p> <p>第3回：キャラクター：せりふ</p> <p>第4回：キャラクター：外見</p> <p>第5回：キャラクター：他のキャラクターとの関係</p> <p>第6回：キャラクター：行動と個性の一致</p> <p>第7回：キャラクター：動的キャラクターと静的キャラクター</p> <p>第8回：プロット：時系列プロット</p> <p>第9回：プロット：フラッシュバック</p> <p>第10回：プロット：個人対個人</p> <p>第11回：プロット：個人対社会</p> <p>第12回：プロット：個人対自然</p> <p>第13回：プロット：葛藤と葛藤の欠如</p> <p>第14回：再話の準備</p> <p>第15回：再話の実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>『クリスマスキャロル』（希望者はebookも可とする）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて、随時紹介、あるいはプリントの配布を行う。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に対する取り組み姿勢、提出を要する課題を含む（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%）</p> <p>小テスト、提出された課題はいずれも点数化し、コメントをつけ、翌週に返却の予定です。</p>			

授業科目名： 英語圏文学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 幸代 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。 (2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。 (3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力を高める。			
授業の概要 小説を理解し読むにはテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から分析していく。授業では19世紀、20世紀の英米の短編小説を取り上げる。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：キャラクター：行動 第3回：キャラクター：せりふ 第4回：キャラクター：外見 第5回：キャラクター：他のキャラクターとの関係 第6回：キャラクター：行動と個性の一致 第7回：キャラクター：動的キャラクターと静的キャラクター 第8回：プロット：時系列プロット 第9回：プロット：フラッシュバック 第10回：プロット：個人対個人 第11回：プロット：個人対社会 第12回：プロット：個人対自然 第13回：プロット：葛藤と葛藤の欠如 第14回：再話の準備 第15回：再話の実践			
テキスト 「名作映画でTOEIC(4) 目指せ！470 『オズの魔法使』」（英宝社）			
参考書・参考資料等 随時紹介する。			
学生に対する評価 授業に対する取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、最終テスト（30%）。課題についてはFormsでの採点結果を開示した上で、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 英語圏文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小沢 茂 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。</p> <p>(2) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。</p> <p>(3) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の一節を暗唱する訓練を通じて英語の発信力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：韻文の特徴</p> <p>第3回：叙述的イメージ</p> <p>第4回：比喩的イメージ</p> <p>第5回：直喩</p> <p>第6回：隠喩</p> <p>第7回：コンシート</p> <p>第8回：擬人化</p> <p>第9回：誇張</p> <p>第10回：控えめな表現</p> <p>第11回：アイロニー</p> <p>第12回：皮肉</p> <p>第13回：風刺</p> <p>第14回：象徴</p> <p>第15回：朗読実践と結び</p>			
<p>テキスト</p> <p>学習用プリントを配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%）</p> <p>提出された小テストやレポートその他の課題に関しては、授業の中で解説、講評する。</p>			

授業科目名： 英語圏文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平林 美都子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (1) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。 (2) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。 (3) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の一節を暗唱する訓練を通じて英語の発信力を高める。			
<b>授業の概要</b> 英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。			
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション 第2回：韻文の特徴 第3回：叙述的イメージ 第4回：比喩的イメージ 第5回：直喩 第6回：隠喩 第7回：コンシート 第8回：擬人化 第9回：誇張 第10回：控えめな表現 第11回：アイロニー 第12回：皮肉 第13回：風刺 第14回：象徴 第15回：朗読実践と結び			
<b>テキスト</b> 学習用プリントを配付する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取り組み姿勢（40%）、小テスト（30%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%） ・授業毎の提出物、小テストは評価をして返却する。授業内で質問対応をする。 ・プレゼンテーションの評価は希望者に開示する。			

授業科目名： 英語圏文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 久美子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (1) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解を深める。 (2) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力を高める。 (3) 英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の一節を暗唱する訓練を通じて英語の発信力を高める。			
<b>授業の概要</b> 英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。			
<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション 第2回：韻文の特徴 第3回：叙述的イメージ 第4回：比喩的イメージ 第5回：直喩 第6回：隠喩 第7回：コンシート 第8回：擬人化 第9回：誇張 第10回：控えめな表現 第11回：アイロニー 第12回：皮肉 第13回：風刺 第14回：象徴 第15回：朗読実践と結び			
<b>テキスト</b> 学習用プリントを配付する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取り組み姿勢（40%）、小テスト（30%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%） ・課題やテストについては、授業内で解説・質問対応等を行う。 ・テストの点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 英語圏文学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 直子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解をさらに深める。</p> <p>(2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力をさらに高める。</p> <p>(3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力をさらに高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語圏文学Ⅰで学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：行動のパターン：終盤にかけての盛り上がり</p> <p>第3回：行動のパターン：均一的な展開</p> <p>第4回：行動のパターン：中盤でのクライマックス</p> <p>第5回：高度のパターン：サスペンス</p> <p>第6回：舞台設定：ストーリーと背景の間にそれほど関係がない場合</p> <p>第7回：舞台設定：ストーリーと背景が密接に関係している場合</p> <p>第8回：舞台設定：背景そのものが敵対的である場合</p> <p>第9回：舞台設定：背景そのものに象徴的意味合いがある場合</p> <p>第10回：テーマ：明確なテーマ</p> <p>第11回：テーマ：暗示的なテーマ</p> <p>第12回：テーマ：複数の、ないし二次的なテーマ</p> <p>第13回：視点：一人称、全知、劇的視点</p> <p>第14回：再話の準備</p> <p>第15回：再話の実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>Michael Larson 「Notes on Brotherhood」 Asahi Press (¥2,000+税)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時授業内で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%）</p> <p>提出された小テスト、レポートその他の課題に関しては、授業の中で解説、講評する。</p>			

授業科目名： 英語圏文学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平林 美都子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解をさらに深める。</p> <p>(2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力をさらに高める。</p> <p>(3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力をさらに高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語圏文学Ⅰで学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：行動のパターン：終盤にかけての盛り上がり</p> <p>第3回：行動のパターン：均一的な展開</p> <p>第4回：行動のパターン：中盤でのクライマックス</p> <p>第5回：高度のパターン：サスペンス</p> <p>第6回：舞台設定：ストーリーと背景の間にそれほど関係がない場合</p> <p>第7回：舞台設定：ストーリーと背景が密接に関係している場合</p> <p>第8回：舞台設定：背景そのものが敵対的である場合</p> <p>第9回：舞台設定：背景そのものに象徴的意味合いがある場合</p> <p>第10回：テーマ：明確なテーマ</p> <p>第11回：テーマ：暗示的なテーマ</p> <p>第12回：テーマ：複数の、ないし二次的なテーマ</p> <p>第13回：視点：一人称、全知、劇的視点</p> <p>第14回：再話の準備</p> <p>第15回：再話の実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>学習用プリント("Kwaidan"から)を配付する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢(40%)、第1回小テスト(30%)、第2回小テスト(30%) 提出物や小テストは評価をして返却。授業時に解説や質問への対応を行う。</p>			

授業科目名： 英語圏文学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 幸代 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解をさらに深める。</p> <p>(2) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力をさらに高める。</p> <p>(3) 英語圏の小説・物語を中心とする文学作品を再話する訓練を通じて英語の発信力をさらに高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語圏文学Ⅰで学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：行動のパターン：終盤にかけての盛り上がり</p> <p>第3回：行動のパターン：均一的な展開</p> <p>第4回：行動のパターン：中盤でのクライマックス</p> <p>第5回：高度のパターン：サスペンス</p> <p>第6回：舞台設定：ストーリーと背景の間にそれほど関係がない場合</p> <p>第7回：舞台設定：ストーリーと背景が密接に関係している場合</p> <p>第8回：舞台設定：背景そのものが敵対的である場合</p> <p>第9回：舞台設定：背景そのものに象徴的意味合いがある場合</p> <p>第10回：テーマ：明確なテーマ</p> <p>第11回：テーマ：暗示的なテーマ</p> <p>第12回：テーマ：複数の、ないし二次的なテーマ</p> <p>第13回：視点：一人称、全知、劇的視点</p> <p>第14回：再話の準備</p> <p>第15回：再話の実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>学習用プリントを配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（10%）、第2回小テスト（10%）、第3回小テスト（10%）、最終テスト（40%）。課題（テストやレポート等）については、Teamsのチャンネル内および授業内で解説・講評・質問対応等を行う。中間テストの採点結果はTeamsおよび授業内で各自に、定期試験の点数については希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 英語圏文学IV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小沢 茂
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 （1）英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解をさらに深める。 （2）英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力をさらに高める。 （3）英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の一節を暗唱する訓練を通じて英語の発信力をさらに高める。			
授業の概要 英語圏文学Ⅲで学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳、精読する。詩については、その絵画性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、せりふの表現を実際のアウトプットに生かす方法も考える。			
授業計画 第1回：アレゴリー 第2回：リズム 第3回：デノテーションとコノテーション 第4回：曖昧性 第5回：頓呼法 第6回：換喩 第7回：提喩 第8回：転喩 第9回：パラドックス 第10回：撞着語法 第11回：対照 第12回：快い響き 第13回：不快な響き 第14回：緩叙 第15回：朗読実践と結び			
テキスト 学習用プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 随時紹介する。			
学生に対する評価 授業への取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%） 提出された小テストやレポートその他の課題に関しては、授業の中で解説、講評する。			

授業科目名： 英語圏文学IV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 久美子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 （1）英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の読解を通じて宗教的背景も含めた異文化理解をさらに深める。 （2）英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品を文法的に正確に訳す練習を通じて英語の読解力をさらに高める。 （3）英語圏の詩・演劇を中心とした文学作品の一節を暗唱する訓練を通じて英語の発信力をさらに高める。			
授業の概要 英語圏文学Ⅲで学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳、精読する。詩については、その絵画性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、せりふの表現を実際のアウトプットに生かす方法も考える。			
授業計画 第1回：アレゴリー 第2回：リズム 第3回：デノテーションとコノテーション 第4回：曖昧性 第5回：頓呼法 第6回：換喩 第7回：提喩 第8回：転喩 第9回：パラドックス 第10回：撞着語法 第11回：対照 第12回：快い響き 第13回：不快な響き 第14回：緩叙 第15回：朗読実践と結び			
テキスト 学習用プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 随時紹介する。			
学生に対する評価 授業への取り組み姿勢（30%）、第1回小テスト（20%）、第2回小テスト（20%）、朗読と最終プレゼンテーション（30%） ・課題やテストについては、授業内で解説・質問対応等を行う。 ・テストの点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： English Collaboration I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： MOLOTSI Prisca / PRIMEAU Robert 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語) 免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション 免許法施行規則第66条の6に定める科目 ・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This is an activity-based course, and the main aim is to motivate students to use English. Various activities and games will be used to provide the students with ample opportunities to speak English. The activities will also require the students to integrate their reading, writing, and listening skills.</p> <p>By the end of the course, students should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Use classroom English.</li> <li>2. Engage in activities using only English.</li> <li>3. Use a variety of speaking strategies to maximize communicative competence.</li> <li>4. Support classmates in speaking.</li> <li>5. Appropriately participate in an English-only classroom.</li> </ol> <p>アクティビティを中心とした実践的なクラスである。英語を使う意欲を高め、読む、聴く、話す、書くの四技能をバランスよく高める。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教壇で使うのにふさわしい英語を身につける。</li> <li>2. 英語を使ってさまざまな活動に参加する能力を身につける。</li> <li>3. 流暢にコミュニケーションを取るための様々な方法を身につける。</li> <li>4. 英語を使って他の学習者を支援できるようになる。</li> <li>5. 教室での英語を使った活動に適切かつ積極的に参加できるようになる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>ゲームなどのアクティビティを活用して、より積極的に英語で話す機会を増やしながら初歩的なコミュニケーション能力を身に付ける。同時に、身近な話題の題材を使いながら、英語運用におけるリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を伸ばせるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Orientation Activities: Course explanation and ice-breaking activities</p> <p>第2回：Skill practice: Asking for help (classroom English)</p> <p>第3回：Skill practice: Open questions &amp; detailed answers</p> <p>第4回：Skill practice: Active listening</p> <p>第5回：Skill: Follow-up questions</p> <p>第6回：Skill practice: Giving examples to help someone understand</p> <p>第7回：Skill practice: Describing things</p> <p>第8回：Skill practice: Describing things in greater detail</p> <p>第9回：Skill practice: Extending a conversation</p> <p>第10回：Skill practice: Responding to opinions</p> <p>第11回：Skill practice: Using synonyms when someone doesn't know a word</p> <p>第12回：Skill practice: Creative thinking and argumentation</p>			

<p>第13回 : Skill practice: Reacting to news  第14回 : Skill practice: Vocabulary and spelling  第15回 : Course summary and review</p> <p>第1回 : 導入 (授業の紹介、自己紹介)  第2回 : 援助を求める  第3回 : Yes / Noで答えられない疑問文  第4回 : 能動的なリスニング  第5回 : 第1回から第4回のまとめと復習  第6回 : 例示を伴う説明  第7回 : 骨子の説明  第8回 : 詳細な説明  第9回 : 話題を広げる  第10回 : 意見の陳述  第11回 : 類義語の効果的な使用  第12回 : 創造的思考と議論  第13回 : ニュースについての会話  第14回 : 語彙と綴り  第15回 : 授業全体のまとめと復習</p>
<p>テキスト  Necessary materials will be provided by the instructor. 必要に応じて配布する</p>
<p>参考書・参考資料等  なし</p>
<p>学生に対する評価  60% Class activities  40% Homework and preparation  Class activities will be graded on the following criteria: willingness to participate, willingness to cooperate and listen carefully to teacher instructions, adherence to L2 only policy, effort made to support classmates' speaking and create a positive classroom environment.  Homework and preparation – Any written work used to prepare for or reinforce activities will be graded on its completeness.</p> <p>60% 授業内活動 (参加意欲、授業態度)  40% 課題と予習 (アクティビティの準備として、主にライティングの課題が与えられる。完成度によって評価する)</p>

授業科目名： English Collaboration II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： MOLOTSI Prisca/ PRIMEAU Robert 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語) 免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション 免許法施行規則第66条の6に定める科目 ・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>The main aim of this course is to motivate students to use spoken English as naturally as possible in UK and US-related situations. Besides speaking, the main emphasis will be on listening, although attention will also be paid to reading, writing and grammar. A range of activities will provide students with ample opportunities to speak English.</p> <p>By the end of the course, students should be able to</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ask for, give and share information in English;</li> <li>(2) initiate, respond and take turns in conversation;</li> <li>(3) generate discussion;</li> <li>(4) make comparisons, particularly between Japan and other countries;</li> <li>(5) deal with common UK- and US-based situations;</li> <li>(6) progress with confidence to the culture-based language modules.</li> </ol> <p>英語圏で遭遇するさまざまな場面を想定し、実践的なアクティビティを通して英語を話す力を高める。リーディング、ライティング、文法も学ぶが、主眼はそれらを通じてコミュニケーションする能力を身につけることである。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語で情報を要求、提示、共有できる</li> <li>(2) 会話を始め、相手の発話に応答し、対話を続けることができる</li> <li>(3) 抽象的な話題の議論ができる</li> <li>(4) さまざまな角度から（特に日本と他国との）比較ができる</li> <li>(5) 米英で遭遇することが想定される様々な状況に対応できる</li> <li>(6) 二年次以降の発展的内容の科目を自信を持って進めていくに足る英語力の基盤を作る</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>英語圏で話題となっているトピックを活用して、リーディング、ライティングだけでなく、文法学習も重視しながら、英語で話す機会を増やし、英語のコミュニケーション能力を一層高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Conversational opening and small talk Activity: Introducing friends from abroad</p> <p>第2回：Asking for help and directions Activity: Service provider and customers</p> <p>第3回：Taking and leaving messages Activity: Sorting out plans</p> <p>第4回：Problems and advice Activity: Student Advice Bureau</p> <p>第5回：Good &amp; bad news, and getting more information Activity: Have you heard what's happened in _____ ?</p> <p>第6回：Giving, accepting and refusing advice Activity: Doctor, doctor, I feel terrible</p> <p>第7回：Review of 1 - 6</p> <p>第8回：Giving instructions, explaining and comparing</p>			

<p>Activity: The perfect cup of tea/coffee</p> <p>第9回 : Booking a hotel Activity: The receptionist</p> <p>第10回 : Where to go and what to do Activity: Planning a holiday abroad</p> <p>第11回 : Review of 8- 10</p> <p>第12回 : People Activity: Interviewing celebrities</p> <p>第13回 : Discussing experiences Activity: Telling other people's stories</p> <p>第14回 : Opinions and comparisons Activity: The film critic's recommendations</p> <p>第15回 : Review of 11- 14</p> <p>第1回 : 導入</p> <p>第2回 : 道案内</p> <p>第3回 : 伝言</p> <p>第4回 : 相談と助言</p> <p>第5回 : ニュースについての議論</p> <p>第6回 : 医師の診察</p> <p>第7回 : 復習 (第1回から第6回のまとめ)</p> <p>第8回 : 指示、説明、比較</p> <p>第9回 : ホテルを予約する</p> <p>第10回 : 休暇の計画</p> <p>第11回 : 復習 (第8回から第10回のまとめ)</p> <p>第12回 : インタビュー</p> <p>第13回 : 体験談</p> <p>第14回 : 評論</p> <p>第15回 : 復習 (第12回から第14回のまとめ)</p>
<p>テキスト</p> <p>There is no assigned textbook for this course. Materials will be provided by the instructor and through student research. Bringing materials and research to each class will be a crucial part of this class, so students will be expected to prepare for each class well.</p> <p>指定教科書はありません。教材は教員が用意します。毎回の授業に十分な予習をすることが必要です。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>70% Class activities 30% Homework and preparation</p> <p>授業内活動70% 課題と予習30%</p>

授業科目名： 異文化コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福本明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、異なる文化背景を持つ人々が接触する際に起こる誤解やもめごとの原因について、英語圏の事例を中心に考察する。具体的には、文化、カルチャーショック、異文化適応、価値志向、フェイスなどの基本概念について学ぶ。授業の目的は、異文化への認識と理解を高め、異なる文化背景を持つ者と解決に向けての具体的な行動を取ることができるようになることである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。異文化コミュニケーションの基礎的な概念や理論を理解した上、コミュニケーション・モデルをはじめ、その基本的要素である言語や非言語、個人内、対人など各レベルでの基礎的な要素や研究テーマについて考察する。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：文化、コミュニケーション、意味とは</p> <p>第3回：価値志向</p> <p>第4回：異文化疑似体験（シミュレーションゲーム・Barnaga）</p> <p>第5回：ステレオタイプ、偏見、自民族中心主義</p> <p>第6回：外国人ゲストスピーカーとの交流1、異文化適応、カルチャーショック</p> <p>第7回：言語メッセージと誤解（1）”Yes/No,” ”Only“</p> <p>第8回：言語メッセージと誤解（2）謝罪、もめ事と対応、フェイス</p> <p>第9回：非言語メッセージと誤解(1)ジェスチャー、対人距離、表情</p> <p>第10回：非言語メッセージと誤解(2)捕鯨、人口品、沈黙・間、準言語</p> <p>第11回：文化とアイデンティティと交錯</p> <p>第12回：文化と日本社会</p> <p>第13回：外国人ゲストスピーカーとの交流2、文化とグローバリゼーション</p> <p>第14回：学期のまとめ、異文化体験発表（グループ1）、フィードバック</p> <p>第15回：異文化体験発表（グループ2）、フィードバック</p>			
<p>テキスト</p> <p>「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション：誤解・失敗・すれ違い」（久米昭元・長谷川典子 2007 有斐閣選書）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「グローバル社会における異文化コミュニケーション—身近な『異』から考える」（池田理知子・埴 幸枝 編 2019 三修社）</p> <p>「異文化理解力—相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養」（エリン・メイヤー 2015 英治出版）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業参加・リフレクション（35%）、小テスト（30%）、異文化体験発表（35%）</p> <p>小テストや発表へのフィードバックは授業中に行う。</p>			

授業科目名： 英語科教育法Ⅲ（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神谷 政和 / 藤本 恭子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだことに基づき、中学・高校の教育課程を踏まえ、英語授業を行うために必要な授業実践力を身に着ける。</p> <p>(1) 基礎的な指導技術を身につけ、その技術を活用した授業実践をすることができる。</p> <p>(2) 教材を研究し、中学生・高校生に適した教授法を工夫し、学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3) デジタル教科書をはじめとするICT機器を活用した授業実践をすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校及び高等学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法について研究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 中学校における学習到達目標と指導計画</p> <p>第2回：中学校英語教科書分析と学習到達目標に基づく授業の組み立て</p> <p>第3回：指導体制の充実と効果的なALTとのTeam Teaching メリットと留意点</p> <p>第4回：中学生以上のための英語の音声的な特徴に関する指導 聞くこと・話すこと（やりとり・発表）の指導 【指導実践】音声指導及び聞くこと・話すことについてのマイクロティーチング</p> <p>第5回：中学生以上のための文字の指導 読むこと・書くことの指導 【指導実践】文字指導及び読むこと・書くことについてのマイクロティーチング</p> <p>第6回：語彙・表現に関する指導と領域統合型の言語活動 【指導実践】語彙・表現に関する指導及び領域統合型言語活動についてのマイクロティーチング</p> <p>第7回：中学校高等学校における文法に関する指導 文法形式の焦点の当て方 文法指導の手順 【指導実践】文法指導に関するマイクロティーチング</p> <p>第8回：異文化理解に関する指導 教科書における題材の分析及び選定と指導の展開 【指導実践】教科書及びICT等を活用した異文化理解についてのマイクロティーチング</p> <p>第9回：学習指導案の作成 小中接続期後の中学校英語教育に適した指導案の検討と指導案作成</p> <p>第10回：測定と評価 観点別学習状況の評価とテストの試験問題作成について</p> <p>第11回：模擬授業1 中学2・3年生 文法事項について発表</p>			

第12回：模擬授業2 中学2・3年生 教科書本文の内容理解について発表

第13回：模擬授業3 高等学校オーラルイントロダクションと生徒とのインタラクションについて発表

第14回：模擬授業4 高等学校教科書本文の内容理解と文法指導について発表

第15回：模擬授業の振り返り まとめ

テキスト

「『学ぶ・教える・考える』ための実践的英語科教育法」（酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著）

大修館書店

Power On English Communication I（東京書籍）

NEW HORIZON English Course I・II・III（東京書籍）

参考書・参考資料等

「よくわかる英語教育学」（鳥飼久美子・鈴木希明・綾部保志・榎本剛士編著）ミネルヴァ書房

中学校学習指導要領外国語編（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省・最新版）、

高等学校学習指導要領外国語編（文部科学省・最新版）、高等学校指導要領解説

外国語編（文部科学省・最新版）、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料・

高等学校外国語（国立教育政策研究所）

学生に対する評価

授業での参加・発表・模擬授業・・・40%、レポート・課題・・・20%、テスト・・・40%

テスト採点結果は、希望者に開示する。

その他の評価については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。

授業科目名： 英語科教育法Ⅳ（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神谷 政和 / 藤本 恭子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことに基づき、中学校の教育課程を踏まえ、高等学校での英語授業を行うために必要な授業実践力を身につける。			
(1)基礎的な指導技術を身につけ、その技術を活用した授業実践をすることができる。			
(2)教材を研究し、高校生に適した教授法を工夫し、学習指導案を作成することができる。			
(3)デジタル教科書をはじめとするICT機器を活用した授業実践をすることができる。			
授業の概要			
中学校及び高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した日本の中学校及び高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようなにするか、具体的、実践的に指導する方法について研究する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 小・中・高等学校における英語教育 高等学校の役割			
第2回：高等学校学習指導要領について			
第3回：高等学校科目「英語コミュニケーション」「論理・表現」の教科書分析 目標設定と指導計画			
第4回：高等学校における学習到達目標に基づく授業の組み立て 指導案の作成			
第5回：生徒の特性や習熟度に応じた指導 英語でのインタラクションと高等学校における言語活動 【指導実践】高等学校における言語活動についてのマイクロティーチング			
第6回：第二言語習得理論に基づいた様々な教授法及び指導法 Focus on Formなど文法指導を含む 【指導実践】文法導入及び文法定着のための言語活動についてのマイクロティーチング			
第7回：教材およびICTの活用 デジタル教科書を用いた指導と効果的なTeam Teachingとは 【指導実践】教科書題材の導入 ICT等の活用とTeam Teachingによるマイクロティーチング			
第8回：学習評価 評定の総括と言語能力の測定			
第9回：模擬授業1（高等学校）文法導入及び文法定着のための言語活動についての発表			
第10回：模擬授業2（高等学校）教科書本文の導入及び内容理解についての発表			
第11回：模擬授業3（教育実習校種）文法導入及び文法定着のための言語活動についての発表			
第12回：模擬授業4（教育実習校種）教科書本文の導入及び内容理解についての発表			
第13回：模擬授業5（教育実習校種）題材を活用したコミュニケーション活動についての発表 (前半グループ)			
第14回：模擬授業5（教育実習校種）題材を活用したコミュニケーション活動についての発表 (後半グループ)			
第15回：模擬授業の振り返り まとめ			

#### テキスト

学ぶ・教える・考えるための 実践的英語科教育法 (大修館書店)

Power On English Communication I (東京書籍)

NEW HORIZON English Course I・II・III (東京書籍)

#### 参考書・参考資料等

中学校学習指導要領 外国語編 (文部科学省・最新版)、中学校学習指導要領解説 外国語編 (文部科学省・最新版)、高等学校学習指導要領 外国語編 (文部科学省・最新版)、高等学校学習指導要領解説 外国語編 (文部科学省・最新版)、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料・高等学校外国語 (国立教育政策研究所)

よくわかる英語教育学 (ミネルヴァ書房)、Vision Quest English Logic and Expression I Standard (啓林館)

#### 学生に対する評価

- ・授業への取り組み姿勢・模擬授業(40%)、レポート(20%)、試験(40%)
- ・課題については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。

授業科目名： 学校教育体験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：加藤 智 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の現状を理解する。</li> <li>・児童生徒の様子を、行動をともにすることにより理解する。</li> <li>・教職員の職務について学ぶ。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>現在の学校教育や子供を理解するために、学校において子供たちと生活を共にする。観察実習と子供との触れ合い（放課・給食・掃除等）を通じて、教師の仕事と教職の意義を学ぶとともに、教職への志望を確固強化する。学校教育について基本的な理解を中心とした事前指導を行い、事後指導として学生が体験発表を行うことで、個々の体験を共有させ、教育実習等へと発展させていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育体験の意義 第2回：学校教育体験の目的 第3回：学校教育体験の内容 第4回：学校教育体験の方法 第5回：学校教育体験の諸注意 第6回：＜学外教育＞学校教育体験 事前指導 第7回：＜学外教育＞学校教育体験 訪問指導 第8回：学校教育体験後の指導</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（文部科学省 東洋館出版社）（最新版） 中学校学習指導要領（文部科学省 株式会社東山書房）（最新版） 高等学校学習指導要領（文部科学省 株式会社東山書房）（最新版）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>「合／否」により評価する。原則として学校教育体験の全日程へ出席することを前提条件とし、「学校教育体験記録簿」の提出、事前指導・まとめの会への参加態度をもって「合」とする。事後指導において各自の取組状況に基づくフィードバックを行う。</p>			

授業科目名： 学校保健	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋 昌久 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>子どものこころと体に起こる様々な問題について、事実・情報の収集から解決すべき問題は何かを考え、その解決策の立案を行うまでの基礎をインシデント・プロセス法を用いて身につける。授業の最終段階では、学生に、単に覚えた知識から答えを出すのではなく、過去に出会ったことがない課題に対しても自らの力でゼロから知見を集め、それらをもとに、論理的に問題を解決する術を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子供が心身ともに健康に育っていくために必要な小児医学と臨床心理学の知見を基礎に、教師やまわりの大人に必要な児童保健に関する理論と実践的配慮について学ぶ。これらを通じて、「子供が子供らしく生きる権利」の重要性とその実現方法を多面的に習得し、家庭における虐待の早期発見や防止、心身の障害に対して適切に行動できる教師・支援者としての実践力を身に付けることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション インシデント・プロセス法について他 インシデント・プロセス法ってなんだろう？思考の理論とは何だろう？</p> <p>第2回：子どものからだに起こること からだの発達 低身長・肥満など 身体計測は何のためにやるのでしょうか？</p> <p>第3回：子どものからだに起こること 免疫疾患・アレルギー性疾患など マラソン、給食、動物園・・・教員の目配りは大変です！</p> <p>第4回：子どものからだに起こること 感染症など 新型コロナウイルス感染症と学校保健について</p> <p>第5回：子どものからだに起こること 腎・循環器・消化器疾患など なぜ検尿検査を学校はするのでしょうか？</p> <p>第6回：子どものからだに起こること 血液・造血器・悪性新生物など 貧血って、ふらふらと倒れることなんですか？</p> <p>第7回：子どものからだに起こること 摂食障害など 安易なダイエットが恐ろしい結末を迎える可能性があるんです！</p> <p>第8回：子どものこころに起こること 発達障害・学習障害など（1） 障がいには内にあるものなのですか？外にあるものなのですか？</p> <p>第9回：子どものこころに起こること 発達障害・学習障害など（2） 障がいと言わず、特性（個性）と考えよう！</p> <p>第10回：児童虐待（1）早期発見とその対応 教師は児童虐待を早期に見つけることができる救世主なんです！</p> <p>第11回：児童虐待（2）発達障害との関連 育てにくい子、育てにくい親、そして周囲の無理解。</p> <p>第12回：子どものこころに起こること こどものうつなど 失恋をすれば、その誰もが抑うつ傾向になるのですが・・・。</p> <p>第13回：学校と距離をおく子-不登校を分類する- 不登校は病名ではない？不登校を少なくするには。</p> <p>第14回：こどもをうつす鏡 教師のこころとからだに起こること 産業医としての経験から、将来教員や企業に務める君たちへ</p> <p>第15回：まとめ インシデント・プロセス法の活用</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストは講師が作成したものをCampusSquareを經由して初回講義の前にPDFファイルとして配布する。ダウンロードして講義期間中いつでも使えます。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業のなかで、随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>積極的な講義参加（講義内での発表・発言は番号と氏名をお聞きし、こちらで記録します） 毎回の授業の後半にその授業の振り返りレポートを作成（講義後回収→採点→次講で個々に返却）。このように各講義90分の間にしっかり思考し、その結果を毎回評価します。最終的には1～14講までの評価の合計（40%）と、15講まとめのレポート（60%）を総合的に判断し、最終評価とします。期末テストは行いません。</p>			

授業科目名： 介護実践演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田 伸一 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会福祉施設及び特別支援学校での介護等体験を通して、高齢者や障害児（者）への理解を深めるとともに、職員や教員が献身的に介護や教育に当たっている姿を見たり、自ら体験したりして、人間尊重の精神を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育に携わる者にとって、障害者を、障害がある特別な存在として見るのではなく、一人の人間として認識し、たまたま支援を必要としている存在であると考えてのが基本である。そのためには、知識として理解するだけでなく、実際に福祉施設で、あるいは特別支援学校において日常生活や学校生活を共にして、実践を通して、正しい障害者観を形成する。併せて個人の尊厳の上に立った介護の在り方について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：介護実践演習の趣旨と共生社会の理念 第2回：児童福祉施設の種類と機能 第3回：高齢者福祉施設の種類と機能 第4回：障害者福祉施設の種類と機能 第5回：特別支援学校の理解 第6回：介護等体験の心構えと注意事項等 第7回：体験発表 ①社会福祉施設での介護実践 第8回：体験発表 ②特別支援学校での介護実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>全国特殊学校長会編著『フィリア』ジアース教育新社及び、全国社会福祉協議会『よくわかる社会福祉施設』社会福祉法人 全国社会福祉協議会を使用する。また、介護等体験記録簿を活用する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>事前指導用資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>介護等体験の実践先の事前調査レポート、介護実践記録、介護実践の経験・気づき、自己の介護観等のまとめレポートの内容から総合的に評価をする。</p>			

授業科目名： 教職インターンシップ I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 梅藤 仁志/小川 裕之/山田 知子/ 市来 ちさ/山本 圭子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校教育についての理解を深め、教育現場で求められている実践的指導力を養成する。			
授業の概要 事前に学校現場についての指導を受け、活動先に赴き計画書を作成する。活動開始後は毎週の授業ごとに担当教員に日報を提出するとともに、活動内容における課題を学生相互に検討し、年次の終わりに報告書を提出する。修得した成果と課題については、総括発表会を行い、学修を深める。			
授業計画 第1回：事前指導：「教職インターンシップ」の意義と概要 第2回：事前指導：教員のモラル、心構え 第3回：事前指導：学校が抱える問題 第4回：事前指導：学校現場でのマナー  第5回：事前指導：体験活動先の探し方、依頼の仕方 第6回：事前指導：打ち合わせ、役割の確認 第7回：事前指導：計画書作成にあたっての留意点 第8回：事前指導：日報作成にあたっての留意点 第9回：学校現場の1年の流れ 第10回：学校現場の1日の流れ 第11回：学期ごとの役割 第12回：個人情報の扱い 第13回：保護者や地域との関わり 第14回：発達障害をもつ生徒との関わり方 第15回：職員朝礼 第16回：登下校指導 第17回：授業準備 第18回：午前の授業補助 第19回：給食指導 第20回：清掃指導 第21回：午後の授業補助 第22回：休み時間の児童生徒対応 第23回：学級活動 第24回：学校行事（学内） 第25回：学校行事（学外） 第26回：定期テスト前後 第27回：特別支援学級 第28回：部活動指導 第29回：報告書作成にあたっての留意点 第30回：総括			
テキスト 教職インターンシップ I・IIの手引き（授業内で配付する。）			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 ・計画書・日報・報告書の記載内容から総合的に判定する。成績は「合」「否」により評価する。 ・授業内で個別指導を行い、講評・質問対応する。			

授業科目名： 教職インターンシップⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 梅藤 仁志/小川 裕之/山田 知子/ 山本 圭子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 前年度に学んだ内容と課題をもとに、学校教育についての理解を深化させるとともに、教育現場で求められている不断の自己更新力と協働を生み出す対人能力を養成する。			
授業の概要 事前に学校現場についての指導を受け、活動先に赴き計画書を作成する。活動開始後は毎週の授業ごとに担当教員に日報を提出するとともに、活動内容における課題を学生相互に検討し、年次の終わりに報告書を提出する。修得した成果と課題については、総括発表会を行い、学修を深める。また、「教職インターンシップⅠ」の内容を踏まえ、学校教育、教育現場で必要な実践的指導力に対する理解を深める。			
授業計画 第1回：事前指導：「教職インターンシップ」の意義と概要 第2回：事前指導：教員のモラル、心構え 第3回：事前指導：学校が抱える問題 第4回：事前指導：学校現場でのマナー 第5回：事前指導：体験活動先の探し方、依頼の仕方 第6回：事前指導：打ち合わせ、役割の確認 第7回：事前指導：計画書作成にあたっての留意点 第8回：事前指導：日報作成にあたっての留意点 第9回：学校現場の1年の流れ 第10回：学校現場の1日の流れ 第11回：学期ごとの役割 第12回：個人情報の扱い 第13回：保護者や地域との関わり 第14回：発達障害をもつ生徒との関わり方 第15回：職員朝礼 第16回：登下校指導 第17回：授業準備 第18回：午前の授業補助 第19回：給食指導 第20回：清掃指導 第21回：午後の授業補助 第22回：休み時間の児童生徒対応 第23回：学級活動 第24回：学校行事（学内） 第25回：学校行事（学外） 第26回：定期テスト前後 第27回：特別支援学級 第28回：部活動指導 第29回：報告書作成にあたっての留意点 第30回：総括			
テキスト 教職インターンシップⅠ・Ⅱの手引き（授業内で配付する。）			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 ・計画書・日報・報告書の記載内容から総合的に判定する。成績は「合」「否」により評価する。 ・授業内で個別指導を行い、講評・質問対応する。			

授業科目名： 情報モラル教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 久恵
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育における情報化の実態と情報モラル教育の必要性をテーマとし、情報モラル教育に必要な知識を身につけ、指導方法や学校と家庭・地域社会との連携のあり方等について、具体的・実践的に追究する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報教育や授業におけるICT活用など、学校教育における情報化の実態を明らかにするとともに、情報モラル教育の必要性に対する認識を深める。情報モラル教育における具体的指導方法、教員が身につけるべき知識などを取り上げ、最終的には学校と家庭・地域社会との連携のあり方にまで踏み込み、公共的なネットワーク社会の構築に寄与貢献できるような学校における情報モラル教育の方法を追究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報社会の特性と生徒のSNS利用の実態、情報社会の倫理  第2回：学校教育における情報化の実態と課題、生徒を取り巻くICTの現状  第3回：法の理解と遵守、情報モラル教育の必要性  第4回：情報セキュリティ、安全への知恵  第5回：情報モラル教育の進め方  第6回：情報モラル指導モデルカリキュラム  第7回：教材と情報モラル指導、モデルカリキュラムや教科等との関連  第8回：情報モラル指導、モデル教材  第9回：教員に求められる情報モラル教育に係る知識  第10回：情報モラル教育における地域社会との連携  第11回：情報モラル教育における家庭との連携  第12回：学校・地域社会・家庭による情報の共有  第13回：情報モラル教育の各教科等における指導例  第14回：公共的なネットワーク社会の構築に向けた課題と対応策  第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時にレジユメおよび資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて、授業内にて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（25%）、レポート（25%）、および試験（50%：持ち込み不可）によって総合的に評価する。</p> <p>小テストやレポート等については、授業内で解説・質問対応を行う。</p>			

授業科目名： 中高英語教育実践演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤本 恭子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 各自の学力の確認を行いつつ自らの英文法への知識を深め、教員としての能力を高める。</p> <p>② 中学・高校で習う文法事項を口頭で、または視聴覚教材を用いて説明できるようにする。</p> <p>③ 中学・高校での教育実践に役立つスキルを身に着ける。</p>			
授業の概要			
<p>中学校での英語の学習内容を整理し、将来英語教師になるために必要な基礎学力の確認、定着を図り、応用力を身につける学習をすすめる。とりわけ、中学校で習得することになっている文法項目を中心に各自の知識を整理し、英語力を向上させる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：基礎力テスト（英語検定2級程度）授業の進行・評価について説明</p> <p>第2回：文：文型（SV, SVC, SVO）の復習と指導法</p> <p>第3回：文・文型（SV00, SV0C）の復習と指導法</p> <p>第4回：動詞の時制（現在形、過去形、未来形）の復習と指導法</p> <p>第5回：動詞の時制（現在完了、過去完了、未来完了）の復習と指導法</p> <p>第6回：助動詞の復習と指導法</p> <p>第7回：動名詞の復習と指導法</p> <p>第8回：不定詞の復習と指導法</p> <p>第9回：動名詞、不定詞の使い分けと指導法</p> <p>第10回：分詞の復習と指導法</p> <p>第11回：分詞構文の復習と指導法</p> <p>第12回：関係代名詞の復習と指導法</p> <p>第13回：関係副詞 の復習と指導法</p> <p>第14回：複合関係詞、関係詞を使った慣用表現と指導法</p> <p>第15回：まとめ、総合テスト</p>			
テキスト			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ English Grammar in Use (Raymond Murphy著、Cambridge University Press)</li> </ul>			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャート式 総合英語 (数研出版)</li> <li>・ Basic Grammar in Use (Raymond Murphy著、Cambridge University Press)</li> <li>・ 「中学校 英語で授業 ここがポイント」 (亙理陽一著、三省堂)</li> </ul>			
学生に対する評価			
<p>①テスト (40% 持込不可)</p> <p>②授業中での実技・発表内容 (30%)</p> <p>③授業の取り組み・発言、レポート (30%)</p> <p>①希望者に採点結果を開示する。</p> <p>②授業内でフィードバックする。</p> <p>③授業内でフィードバックあるいは採点結果を開示する。</p>			

授業科目名： 中高英語教育実践演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤本 恭子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 各自の学力の確認を行いつつ自らの英文法への知識を深め、教員としての能力を高める。</p> <p>② 中学・高校で習う文法事項を口頭で、または視聴覚教材を用いて説明できるようにする。</p> <p>③ 中学・高校での教育実践に役立つスキルを身に着ける。</p>			
授業の概要			
<p>中学校での英語の学習内容を整理し、将来英語教師になるために必要な基礎学力の確認、定着を図り、応用力を身に付ける学習をすすめる。とりわけ、中学校で学習する内容を基に、生徒の聞く力・話す力・やりとりをする力を培うための授業内での活動について考え、グループごとに教師役・生徒役に分かれて体験する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：基礎力テスト（英語検定2級程度）授業の進行・評価について説明</p> <p>第2回：比較の復習と指導法</p> <p>第3回：仮定法の復習と指導法</p> <p>第4回：文の成り立ちについての復習と指導法</p> <p>第5回：動詞の時制についての復習と指導法</p> <p>第6回：準動詞についてのまとめと指導法</p> <p>第7回：英作文指導（事実を英語にする）</p> <p>第8回：英作文指導（考えを英語にする）</p> <p>第9回：リスニング指導の中の英文法</p> <p>第10回：スピーキング指導（状況に応じて英語を話す）</p> <p>第11回：スピーキング指導（プレゼンテーション）</p> <p>第12回：スピーキング指導（ストーリー・リテリング）</p> <p>第13回：スピーキング指導（やりとり）</p> <p>第14回：リーディング指導（速読、精読、スキミングとスキミング）</p> <p>第15回：まとめ、総合テスト</p>			
テキスト			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ English Grammar in Use (Raymond Murphy 著、Cambridge University Press)</li> </ul>			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャート式総合英語（数研出版）</li> <li>・ Basic Grammar in Use (Raymond Murphy著、Cambridge University Press)</li> <li>・ 「中学校 英語で授業 ここがポイント」（亙理陽一著、三省堂）</li> </ul>			
学生に対する評価			
<p>①テスト（40% 持込不可）</p> <p>②授業中での実技・発表内容（30%）</p> <p>③授業の取り組み・発言、レポート（30%）</p> <p>①希望者に採点結果を開示する。</p> <p>②授業内でフィードバックをする。</p> <p>③授業内でフィードバックあるいは採点結果を開示する。</p>			

授業科目名： 中高英語教育実践演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤本 恭子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校・高等学校の授業内容、言語材料について十分理解し、教えることができるようにする。</li> <li>・ 将来教師になるために必要な力をつける。</li> </ul>			
授業の概要			
高等学校での英語の学習内容を整理し、将来英語教師になるために必要な基礎学力の確認、定着を図り、応用力を身に付ける学習をすすめる。とりわけ、高等学校で習得することになっている文法項目を中心に各自の知識を整理し、英語力を向上させる。			
授業計画			
第1回：基礎力テスト（英語検定準1級程度）授業の進行・評価について説明			
第2回：文の成り立ちと品詞と指導法			
第3回：文型を踏まえたスピーキング指導			
第4回：文型を踏まえたライティング指導			
第5回：動詞の時制（現在、過去、未来）を踏まえたスピーキング・ライティング指導			
第6回：動詞の時制（完了形）を踏まえたスピーキング・ライティング指導			
第7回：動名詞を用いたスピーキング・ライティング指導			
第8回：不定詞を用いたスピーキング・ライティング指導			
第9回：分詞を用いたスピーキング・ライティング指導			
第10回：準動詞とリーディング指導			
第11回：関係詞の限定用法とリーディング指導			
第12回：関係詞の叙述用法とリーディング指導			
第13回：仮定法過去とリーディング指導			
第14回：仮定法過去完了とリーディング指導			
第15回：振り返り、グループディスカッション、まとめ			
定期試験			
テキスト			
・ English Grammar in Use (Raymond Murphy 著、Cambridge University Press)			
参考書・参考資料等			
・ チャート式 総合英語 （数研出版）			
・ Basic Grammar in Use (Raymond Murphy著、Cambridge University Press)			
・ 「中学校 英語で授業 ここがポイント」（亙理陽一著、三省堂）			
学生に対する評価			
①テスト（40% 持込不可）			
②授業中での実技・発表内容（30%）			
③授業の取り組み・発言、レポート（30%）			
①希望者に採点結果を開示する。			
②授業内でフィードバックする。			
③授業内でフィードバックあるいは採点結果を開示する。			

授業科目名： 中高英語教育実践演習Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤本 恭子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教員としての言語運用能力を高める。</p> <p>①高校で学習する文法事項の理解を深め、実際に言語運用能力の活動へとつなげる。</p> <p>②中学校ですでに学習した内容を基に、聞く・話すを中心にした活動内容を、教員役・生徒役をつけて、クラスで実際に体験する。</p> <p>以上のことによって、教員として文法を基礎にして授業を行う実践力を培う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校及び高等学校の教科書の言語材料を研究し、とりわけ文法事項を中心に英語の知識を確実なものにし、教師になるための実践力、即戦力を高める。さらに、文法事項を用いたコミュニケーション活動を行いながら、英語の指導方法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 基礎力テスト（英語検定準1級程度）授業の進行・評価について説明</p> <p>第2回： 「意味順」で英作文指導（5文型に着目）</p> <p>第3回： 「意味順」で英作文指導（品詞に着目）</p> <p>第4回： 文型を意識したリスニング活動</p> <p>第5回： 文型を意識したリーディング活動</p> <p>第6回： 文型を意識したスピーキング活動</p> <p>第7回： 文型を意識したライティング活動</p> <p>第8回： 語彙指導について</p> <p>第9回： 英作文指導について</p> <p>第10回： スピーキング（発表）指導について</p> <p>第11回： スピーキング（やりとり）指導について</p> <p>第12回： ALTとのコミュニケーション活動（授業計画）</p> <p>第13回： ALTとのコミュニケーション活動（授業例）</p> <p>第14回： ALTとのコミュニケーション活動（模擬授業）</p> <p>第15回： まとめ、総合テスト</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「意味順ですっきりわかる高校基礎英語」（田地野彰著、文英堂）</li> <li>・ 「教室におけるリスニング指導」（森山善美著、大学教育出版）</li> <li>・ 「発信力をつける新しい英語語彙指導」（投野由紀夫著、三省堂）</li> </ul>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Basic Grammar in Use (Raymond Murphy著、Cambridge University Press)</li> <li>・ English Grammar in Use (Raymond Murphy著、Cambridge University Press)</li> <li>・ 「中学校 英語で授業 ここがポイント」（亙理陽一著、三省堂)</li> </ul>			
<p>学生に対する評価</p> <p>①テスト（40% 持込不可）</p> <p>②授業中での実技・発表内容（30%）</p> <p>③授業の取り組み・発言、レポート（30%）</p> <p>①希望者に採点結果を開示する。</p> <p>②授業内でフィードバックする。</p> <p>③授業内でフィードバックあるいは採点結果を開示する。</p>			

授業科目名： 道徳指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（小学校・中学校） 教員の免許状取得のための 選択科目（高校）	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 章夫/市来 ちさ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	【小・中】道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【高 校】大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	【小・中】道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の必要性を理解するとともに、将来教育現場で「特別の教科道徳科」の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することを目指す。併せて教育実習で「道徳科」の指導が適切に行えるようにする。			
授業の概要 わが国の道徳教育の基盤である義務教育における道徳指導の在り方を探求する。その中で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。			
授業計画 第1回：道徳の本質・道徳教育の現状と課題 第2回：学習指導要領の基本方針 第3回：道徳教育の歴史（1）西洋世界の道徳観 第4回：道徳教育の歴史（2）日本の道徳思想 第5回：道徳性の発達と大人の役割 第6回：道徳教育の目標 第7回：道徳教育の計画 第8回：道徳教育の内容 第9回：道徳教育の教材 第10回：「特別の教科道徳科」の特性 第11回：「特別の教科道徳科」の指導法と評価 第12回：道徳科指導案の実際・教材研究の方法 第13回：道徳科授業の指導上のポイント 第14回：道徳科授業の指導案作成・資料作成 第15回：道徳科授業の実践演習・研究協議と振り返り 定期試験			
テキスト 授業時に適宜必要な資料等を配布する。 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）等 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）等			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、小学校学習指導要領 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）			
学生に対する評価 ・期末試験（持ち込み不可）（50%）、レポート（30%）、毎時間の受講カードの記述内容（20%）などを総合して評価する。 ・レポートや受講カードについては、授業内で講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西尾 林太郎 他 担当形態：クラス分け・単独
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 ① 日本国憲法に関する基本的概念・知識を理解する。 ② 現代社会の諸問題を憲法の視点から理解する。 ③ 現実を踏まえた論理的かつ合理的な法的思考力を養う。			
授業の概要 法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明するとともに、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにする。			
授業計画 第1回：近代憲法とはなにか―立憲主義― 第2回：近代国家と憲法―明治憲法との比較 第3回：我が国における人権思想と憲法 第4回：日本国憲法制定の経緯 第5回：国民主権と象徴天皇、参政権 第6回：基本的人権とはなにか 第7回：精神的自由権 第8回：信教の自由と政教分離 第9回：経済的自由権 第10回：公共の福祉 第11回：社会権 第12回：権力分立―国会と内閣― 第13回：司法の独立―裁判所― 第14回：地方自治と平和主義 第15回：補充とまとめ 定期試験			
テキスト 概説 デモクラシーと国家（初谷良彦、石上泰洲他 成文堂）			
参考書・参考資料等 松井茂記『日本国憲法』（有斐閣） 芦部信喜『憲法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣） 堀真清編『原典で読む日本デモクラシー論集』岩波書店 初谷良彦『憲法講義Ⅰ』（成文堂） その他の文献については随時、授業中に紹介する。 また、授業中に参照する資料を随時配布する。			
学生に対する評価 成績評価は、①何回かの授業中でのミニレポート30%、②期末試験70%による。 ①は講義の際に配布する教材の内容を把握し要約するもの、②は講義や教材等によって得られる基礎知識の有無や論理的な思考力を問うものである。 ①については2週間後の授業において解説・講評を行う。 ②の期末試験であるが、教科書、自筆ノート、講義の際配布した資料や教材、「日本国憲法」全文の持ち込みを認め、実施する。以上のもの以外の持ち込みは厳禁とする。			

授業科目名： スポーツ科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 門間 博 他
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践を通して運動の基礎的技術を習得し、スポーツ実践の大切さの認識とスポーツを楽しむ能力をつかむことを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：体力診断テスト①（持久力テストを除く項目の測定）</p> <p>第3回：体力診断テスト②（持久力テスト）</p> <p>第4回：コーディネーション・トレーニング（基礎）ノルディック・ウォーキング</p> <p>第5回：コーディネーション・トレーニング（応用）ポール・ウォーキング</p> <p>第6回：バドミントン ラケットとシャトルのコントロール</p> <p>第7回：バドミントン ルールとマナーを身につける</p> <p>第8回：バドミントン ミニゲーム</p> <p>第9回：バドミントン ゲーム①（シングルゲーム）</p> <p>第10回：バドミントン ゲーム②（ダブルスゲーム）スキルテスト</p> <p>第11回：バスケットボール ボールに慣れる 基本練習（個人）</p> <p>第12回：バスケットボール 基本練習（チーム）</p> <p>第13回：バスケットボール ルールとマナーを身につける</p> <p>第14回：バスケットボール ゲーム スキルテスト</p> <p>第15回：総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて、資料を配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業の理解度・参加態度60点（積極性20点、協調性20点、安全面への配慮20点）、種目技能テスト（20点）、ルールの理解度（20点）の配点で評価する。</p> <p>ルールや技術的な内容などで不明な点は授業内で説明、指導する。また、技能テストはその場で結果について明示する。</p>			

授業科目名： 健康と運動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 門間 博 他
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 健康の保持増進への理解を深め、運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通じて、運動不足による体力の低下を予防する。 クオリティーオブライフの向上に向けて、運動を行う楽しさや心地よさを体感しながら、健康増進や体力向上について考える。			
<b>授業の概要</b> 現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。			
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：バレーボール 基礎練習 オーバー、アンダーパス、スパイクに対するレシーブ技術 第3回：バレーボール 基礎練習 オーバー、アンダーパス、サーブに対するレシーブ技術 第4回：バレーボール 基礎練習 スパイク（オープン攻撃）、サーブの種類 第5回：バレーボール 基礎練習 スパイク（A・Bクイック、時間差）、サーブ、ゲーム 第6回：バレーボール 基礎練習 ブロッキング、サーブ、ゲーム 第7回：バレーボール 応用練習 フォーメーション1、サーブレシーブに対する1・5システム 第8回：バレーボール 応用練習 フォーメーション2、サーブレシーブに対する0・6システム 第9回：バレーボール 審判法・ゲーム 第10回：バレーボール 応用練習 スパイクのストレート・クロスの打ち分け方、ゲーム 第11回：バレーボール 応用練習 ブロッキングの移動方法、ゲーム 第12回：バレーボール 応用練習 スパイクに対するレシーブフォーメーション、ゲーム 第13回：バレーボール 応用練習 サーブの種類（カーブ、シュート、変化球、ジャンピング）、ゲーム 第14回：バレーボール 応用練習 レシーブを上手にする方法とパスの応用（正面・横・後方向）、ゲーム 第15回：バレーボール まとめ・ゲーム（リーグ制）			
<b>テキスト</b> 使用しない。			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて、資料を配付する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業の理解度・参加態度60点（積極性20点、協調性20点、安全面への配慮20点）、種目技能テスト（20点）、ルール理解度（20点）の配点で評価する。 ルールや技術的な内容などで不明な点は授業内で説明、指導する。また、技能テストはその場で結果について明示する。			

授業科目名： コンピュータリテラシー I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村 勇太郎他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 基本的なパッケージソフトウェアの操作方法を習得し、文書表現やプレゼンテーション技法についてコンピュータ実習を通じて体得する。また、身近なインターネットの利用方法やそのマナーについて理解し、IT社会におけるリスク対応能力を養う。			
授業の概要 コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、文書作成の方法、情報の処理能力や創造力を培うとともに、コンピュータの仕組みなど実践に対応する純粋な論理的知識も養う。また、身近なインターネットの利用方法やそのマナーについて理解し、IT社会におけるリスク対応能力を養う。また、写真などのマルチメディアファイルの作成や利用の方法について学ぶ。インターネットで提供される様々なデータの取得と利用方法を習得し、著作権や情報倫理について学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、Windowsの概要と基本操作 第2回：CampusSquareの利用方法、Windowsでのファイル管理、タッチタイピング 第3回：情報化社会とリテラシー(1)：メールの基本操作、情報化社会のモラル、個人情報の取り扱い、著作権、ネット社会の情報利用 第4回：Word操作(1)：Wordの基本操作、基本的な文書の作成 第5回：Word操作(2)：図や表の挿入 第6回：Word操作(3)：表現力をアップする機能、長文レポートの編集 第7回：Word操作(4)：文書の校閲、情報化社会とリテラシー(2)：Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用・管理（映像学習） 第8回：Excel操作(1)：Excelの基本操作、データ入力、表の作成 第9回：Excel操作(2)：数式・関数の入力、ユーザー定義の書式設定 第10回：Excel操作(3)：表の印刷、グラフの作成、データベース機能（並べ替え）、複数シートの操作 第11回：Excel操作(4)：ExcelとWordの連携、WordとExcelを利用したレポートの作成 第12回：PowerPoint操作(1)：PowerPointの基本操作、プレゼンテーションの作成 第13回：PowerPoint操作(2)：プレゼンテーションの構成、特殊効果の設定、印刷、共通デザインの設定 第14回：総復習 第15回：最終課題（当日提出）			
テキスト 情報リテラシーWindows 11・Office 2021対応（富士通ラーニングメディア著 FOM出版）			
参考書・参考資料等 適宜必要に応じて参照する。			
学生に対する評価 授業への取り組み状況(2割)、宿題(3割：指定テキスト参照可)、最終課題(5割：指定テキスト持ち込み可)による総合評価。 宿題等については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 最終課題については、全体講評等を、追試験・再試験終了後にCampusSquareの授業連絡にて通知する。			

授業科目名： コンピュータリテラシーⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村 勇太郎他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータ内部での情報の表現方法、Excelによるデータ処理操作方法、マルチメディアファイルの利用方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。また、ネットワークで提供されるデータの利用について著作権に関する基礎知識を学び、情報倫理に基づいてコンピュータを活用する能力を養う。			
授業の概要 コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、表計算処理を中心に収集したデータの加工方法や特徴を的確に把握する技能を習得し、表やグラフの作成と効果的な利用法、プレゼンテーション・ツールを利用した資料作成や発表の手段・方法について学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、Excelの基本操作 第2回：Excel操作(1)：表の作成 第3回：Excel操作(2)：数式を使った計算 第4回：Excel操作(3)：関数①（数学/三角関数、文字列操作関数） 第5回：Excel操作(4)：関数②（論理関数、検索/行列関数）、表の整形①（文字書式） 第6回：Excel操作(5)：表の整形②（表示形式、罫線）、グラフの作成①（グラフの基礎、書式設定） 第7回：Excel操作(6)：グラフの作成②（円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフ）、条件付き書式 第8回：中間課題（当日提出） 第9回：Excel操作(7)：関数③（関数のネスト、日付/時刻関数） 第10回：Excel操作(8)：データの整理/抽出 第11回：Excel活用(1)：ピボットテーブル、シートとブックの操作 第12回：Excel活用(2)：表の印刷、関数の復習 第13回：Excel活用(3)：オンラインデータの利活用、Excelの便利な機能 第14回：総復習 第15回：最終課題（当日提出）			
テキスト 今すぐ使えるかんたん Excel 2021 [Office 2021/Microsoft 365 両対応]（技術評論社編集部+AYURA著 技術評論社）			
参考書・参考資料等 適宜必要に応じて参照する。			
学生に対する評価 授業への取り組み状況(2割)、中間課題(2割：指定テキスト持ち込み可)、宿題(1割)、最終課題(5割：指定テキスト持ち込み可)による総合評価。 宿題等については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 最終課題については、全体講評等を、追試験・再試験終了後にCampusSquareの授業連絡にて通知する。			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 実芳/渡辺 かよ子/ 三和 義武/小口 功 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒・学生という立場だけでなく、教職課程を履修し教職をめざすという視点から、学校とは何か、教育とは何かを考え、理解する。</li> <li>・教育についての様々な考え方や実践を理解する。</li> <li>・教育（学校教育を含む）の歴史を理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を、教職を目指す者は真剣に考える必要がある。そこで、教育の本質と目的を中心に、様々な角度から検討する。教育の本質に関しては教育史上代表的な思想を中心に、教育目的に関しては、古代ギリシャから今日に至るまでの変遷を概観するとともに、日本の現代の教育について、その目的と方法に焦点を絞って考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育とは何か</p> <p>第2回：人間と教育（1）：人間社会と教育</p> <p>第3回：人間と教育（2）：人間の成長と環境</p> <p>第4回：人間と教育（3）：教育の重要性</p> <p>第5回：教育の歴史の変遷と思想（1）：人間形成の場 — 家庭 —</p> <p>第6回：教育の歴史の変遷と思想（2）：人間形成の場 — 学校 —</p> <p>第7回：教育の歴史の変遷と思想（3）：人間形成の場 — 社会 —</p> <p>第8回：代表的な教育家の思想（コメニウス・ペスタロッチ・ルソーなど）</p> <p>第9回：教育の本質（1）：注入主義（ソフィスト～本質主義）</p> <p>第10回：教育の本質（2）：開発主義（ソクラテス～進歩主義）</p> <p>第11回：教育の目的（1）：教育目的とは／古代ギリシャの教育目的</p> <p>第12回：教育の目的（2）：日本の学校教育の制度と目的の歴史の変遷</p> <p>第13回：教育の目的（3）：現在の日本の学校教育の制度と目的</p> <p>第14回：現代における教育の諸課題</p> <p>第15回：まとめ：教育の多様な実践と課題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>自作資料を使用する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>リアクションペーパー（10%）、課題（40%）、定期試験（50%、持ち込み不可）。リアクションペーパーと課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p>			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内木 晃/武藤 洋子/小川 裕之 /山田 知子/澤田 喜之 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標 「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。</p>			
<p>授業の概要 「教える」とはどういうことか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかについて、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。さらに、職務の個々の内容について、現在の学校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校教育が抱える諸課題について、その問題解決の方途を中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教職とは何か－教員の存在意義と役割－</p> <p>第2回：近代学校の歴史と変遷（欧米を中心に）</p> <p>第3回：近代学校の歴史と変遷（日本を中心に）</p> <p>第4回：近代学校教育の課題</p> <p>第5回：学習指導要領と教育課程</p> <p>第6回：教師をめぐる法律（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則など）</p> <p>第7回：教師に求められる資質能力とは何か（いつの時代にも求められる資質能力）</p> <p>第8回：教師に求められる資質能力とは何か（カウンセリング・マインド）</p> <p>第9回：学校を取り巻く諸問題 ①－いじめについての取り組み方</p> <p>第10回：学校を取り巻く諸問題 ②－家庭、地域との連携</p> <p>第11回：教師の服務及び身分保障</p> <p>第12回：教師の職種・職務</p> <p>第13回：教師の専門性と職務・研修と他校及び専門機関との連携、情報交換の仕方</p> <p>第14回：教員の日・一学期・一年の仕事と教員チームの一員としての活動</p> <p>第15回：今日的な教育問題をテーマにグループ討論</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト 教職入門（愛知淑徳大学 教職・司書・学芸員教育センター編）（授業時に配付する）</p> <p>参考書・参考資料等 授業時に参考文献を紹介するとともに資料プリントを配付する。</p> <p>学生に対する評価 ・授業への取り組み姿勢（20%）、課題の内容（30%）、定期試験（50%）などにより、総合的に評価する。 ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 ・点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 教育制度	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 実芳/三和 義武/中嶋 哲彦 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育制度の基本的な事項について理解する。 ・教育行政について理解する。 ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解する。 ・学校と地域の連携及び学校安全への対応について理解する。			
授業の概要 社会の変化に伴う学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校制度の類型的比較と外国と日本の学校教育制度の変遷から、学校教育制度の基礎的な事項を理解する。さらに、学校教育制度及び教育行政制度等に関する現在の日本の教育法規を取り上げ、日本の教育制度の仕組みや特徴等について学習する。 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。			
授業計画 第1回：教育制度の意義 ～公教育の原理と理念～ 第2回：現代学校教育制度（1）：大学 第3回：現代学校教育制度（2）：中等学校 第4回：現代学校教育制度（3）：初等学校 第5回：学校教育制度の類型 第6回：日本の学校教育制度の変遷（1）：明治～昭和 第7回：日本の学校教育制度の変遷（2）：現状と課題 第8回：現在の日本の学校教育制度と教育行政制度 第9回：教育法規（1）：日本国憲法・教育基本法 第10回：教育法規（2）：学校教育法・学校教育法施行令・学校教育法施行規則他 第11回：教育法規（3）：地方教育行政の組織及び運営に関する法律他 第12回：諸外国の学校教育制度：ドイツ・フランス・アメリカ・イギリス 第13回：学校の安全「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」 第14回：学校と地域との連携 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 自作資料を使用する。			
参考書・参考資料等 授業時に必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 リアクションペーパー（20%）、定期試験（80%：持ち込み不可） リアクションペーパーについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野井 未加/小池 理穂/濱島 秀樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①発達心理学の基礎を理解していること          ②人の個人差について理解していること          ③授業や評価の在り方、教師が児童・生徒に与える影響について理解していること          ④子どもの心理的問題について理解していること          ⑤教育相談の基礎について理解していること</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学とは、教育という事象を理論的・実証的に明らかにし、教育の改善に役立てる学問である。本講義では、教えることが行われる教育という場において生じる「発達」「動機づけ」「人の個人差：知能と人格を中心に」「教授・学習」「測定・評価」「対人関係」「心理的問題（問題行動・ストレス・発達障害など）」「教育相談」の現象について解説することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学とは          第2回：発達          第3回：学習          第4回：動機づけ          第5回：知能・記憶・メタ認知          第6回：教授学習過程          第7回：教育評価          第8回：教師          第9回：仲間関係          第10回：パーソナリティ          第11回：問題行動          第12回：ストレスと健康          第13回：教育相談          第14回：発達障害と特別支援教育          第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>(野井) 『ようこそ教育心理学の世界へ(第3版)』 神藤貴昭・久木山 健一著 北樹出版(2020年)          (小池・濱島) テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(野井)          『教育心理学への招待 児童・生徒への理解を深めるために』 岩脇 三良著 サイエンス社(1996年)          『教育心理学』 松原 達哉編 丸善出版(2013年)          『よくわかる教育心理学』 中澤 潤編 ミネルヴァ書房(2008年)          『教職をめざすひとのための発達と教育の心理学』 富永大介・平田幹夫・竹村明子・金武育子編 ナカニシヤ出版(2016年)          他、授業中に適宜紹介する。          (小池・濱島) 授業の中で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>(野井) 学期末テスト(70%：持ち込み不可)とリアクションペーパーの内容(30%)をもとに評価する。点数や採点結果は希望者に開示する。          (小池・濱島) 定期試験(80%)と授業への取り組み姿勢(20%)による。課題(小テストやレポート等)については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野井 未加／濱島 秀樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胎児期の発達特徴について説明できる。</li> <li>2. 各機能の発達過程と発達の仕組みについて説明できる。</li> <li>3. 発達と脳との関係について説明できる。</li> <li>4. 代表的な発達理論(フロイトの心理学的発達論、ピアジェの発達理論、ヴィゴツキーの発達理論、ブルーナーの発達理論、エリクソンの発達理論)について説明できる。</li> <li>5. 発達段階と発達課題について説明できる。</li> <li>6. 発達の研究方法について、それぞれを対比させながら説明できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>発達心理学の歴史とその方法論について解説する。人間の発達のメカニズムについて解説する。出生前～児童期の発達プロセス及びその仕組みについて機能ごとに解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもの発達と環境</p> <p>第2回：胎児期の発達</p> <p>第3回：身体と運動能力の発達</p> <p>第4回：新生児期の認知発達～新生児は無力・無能な存在か～</p> <p>第5回：乳児期の認知発達～物を見る、つかむ、舐める、落とす、叩くことで何を学ぶのか～</p> <p>第6回：幼児期の認知発達～イメージやことばをつかって考える</p> <p>第7回：児童期の認知発達</p> <p>第8回：感情と動機づけの発達</p> <p>第9回：パーソナリティと自己意識の発達</p> <p>第10回：人間関係の発達</p> <p>第11回：性と性意識の発達</p> <p>第12回：脳と発達</p> <p>第13回：発達心理学の基礎(1) 発達観の起源、代表的な発達理論(フロイト・ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルーナー、エリクソンなど)</p> <p>第14回：発達心理学の基礎(2) 発達段階、発達課題、発達の研究方法(横断的研究、縦断的研究、コホート研究)</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>(野井) 『しっかり学べる発達心理学 改訂版』 桜井茂男・大川一郎編著 福村出版(2010年)</p> <p>(濱島) 必要な資料等は授業時に配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(野井)</p> <p>『発達心理学の基本を学ぶ—人間発達の生物学的・文化的基盤』 ジョージ・バターワース、マーガレット・ハリス著 ミネルヴァ書房(1997)</p> <p>『発達心理学 上 周産・新生児・乳児・幼児・児童期 第2版』 山内光哉著 ナカニシヤ出版</p> <p>他、授業中に適宜紹介する。</p> <p>(濱島) 授業の中で紹介したり配付したりする。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>(野井) 試験(70%：持ち込み不可)およびリアクションペーパー(30%)で評価する。点数や採点結果は希望者に開示する。</p> <p>(濱島) 各項目の学習が終わるたびにレポートを提出させる。内容の妥当性と論理構成、心理的分析が行われた結果の内容と記述量により採点する(50%)。授業への取り組み姿勢(ディスカッションへの参加度)により採点する(50%)。点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 特別支援と児童生徒理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 伸一/板倉 寿明/佐藤 賢 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の発達段階・教育的ニーズに応じた対応・支援方法について、具体的・実践的に追究する。最終的には、他の教員や関係諸機関との連携のもと、組織的に対応するための知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 児童生徒の多様化が進む教育現場において、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度学習障害、あるいは特別の教育的ニーズのある児童生徒が、授業時に学習活動に参加している実感・達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるように、児童生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働し、関係諸機関と連携しながら、組織的に対応していくために必要な知識を身に付け、学習支援の方法を理解する。			
授業計画 第1回： 特別支援教育の理念と仕組み 第2回： 社会性およびコミュニケーションの障害と対応の基本 第3回： 身体的な障害と対応の基本 第4回： 想像力の障害と対応の基本 第5回： 感覚の過敏さ・鈍感さ、運動の不器用さ、知的発達の偏り等への対応の基本 第6回： 学習スタイルの特異性への対応の基本 第7回： ADHD（注意欠陥多動性障害）の特徴と対応の基本 第8回： LD（学習障害）の特徴と対応の基本 第9回： 「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 第10回： 具体的な支援方法の例示①—コミュニケーション障害への対応 第11回： 具体的な支援方法の例示②—ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）などへの対応 第12回： 貧困、母国語の問題など特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難と対応 第13回： 学習支援を必要とする生徒に対する教育課程・個別指導計画 第14回： 特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭との連携 第15回： 総括—生徒の自立のために			
テキスト 授業時にレジュメおよび資料を配付する。			
参考書・参考資料等 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』（齋藤ひろみ編著 凡人社 平成23年） 『日本語を学ぶ／複言語で育つ 子どものことばを考えるワークブック』（川上郁夫他著 くろしお出版 平成26年）、他は授業の中で紹介する。 その他、必要に応じて授業時に適宜指示する。			
学生に対する評価 （吉田・猶原）授業中の態度、課題（発表・レポート）、確認テストの達成度をもとに総合的に評価する。（態度10% 課題20% 確認テスト70%）児童理解のまとめについて、フィードバックする。（希望者には採点結果を開示する。） （板倉・佐藤）小テスト（25%）・レポート（25%）、および定期試験（50%）によって総合的に評価する。また、小テスト、レポート等については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

授業科目名： 教育課程	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 織部 秀明/小川 裕之/澤田 喜之 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育課程の変遷を学ぶことによって、目指す新学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても論考する。			
授業の概要 特定の発達段階に位置する子どもたちに、各学校が、その教育目的・目標を十分に達成するために、どのような教科・科目をどのように学習させるか、またどの種の活動をどのように体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）の意義及び編成方法について追究する。また、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域の中から、子どもたちが学習・体験すべき内容・要件を選択し、組織化する理論についても、歴史的経緯を踏まえて、明らかにする。			
授業計画 第1回：教育課程とは（教育課程の意義と役割・機能） 第2回：教育課程とは（教育課程を考えるいくつかの視点） 第3回：教育課程とは（教育課程の編成原理） 第4回：教育課程の歴史的変遷（戦前の教育課程） 第5回：教育課程の歴史的変遷（戦後の教育課程）＜学習指導要領第一～三次改訂＞ 第6回：教育課程の歴史的変遷（戦後の教育課程）＜学習指導要領第四～六次改訂＞ 第7回：教育課程の歴史的変遷（戦後の教育課程）＜学習指導要領第七～八次改訂＞ 第8回：新学習指導要領総則編（小・中・高） 第9回：教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態、カリキュラム・マネジメントの考え方 第10回：教育課程編成における学校行事、部活動の有機的位置づけ 第11回：カリキュラムメイキング（1）教科年間指導計画 第12回：カリキュラムメイキング（2）時間割・週案 第13回：カリキュラムメイキング（3）学習指導案の作成（単元計画） 第14回：カリキュラムメイキング（4）学習指導案の作成（本時の学習） 第15回：実際の教育課程（小・中・高）を題材にしたグループ討論			
定期試験			
テキスト 使用せず			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、高等学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、その他、授業時に参考文献を紹介するとともに資料プリントを配付する。			
学生に対する評価 ・定期試験（80%）、授業コメント・カード（5%）、スピーチ（10%）、グループ討論評価表（5%）を総合して評価する。 ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 ・点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 智/ 織部 秀明/鈴木 章夫/市来 ちさ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の展開に必要な資質を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：総合的な学習の時間のねらいと意義</p> <p>第2回：総合的な学習の時間開設の背景と実践の現状把握</p> <p>第3回：総合的な学習の時間のテーマ設定と各教科・他領域との関連（カリキュラム・デザイン）</p> <p>第4回：総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセス</p> <p>第5回：総合的な学習の時間の探究課題（1）現代的な諸課</p> <p>第6回：総合的な学習の時間の探究課題（2）地域や学校の特色に応じた課題</p> <p>第7回：総合的な学習の時間の探究課題（3）児童生徒の興味・関心に基づく課題</p> <p>第8回：総合的な学習の時間の探究課題（4）職業や自己の将来に関する課題</p> <p>第9回：総合的な学習の時間の指導計画の作成（1）全体計画・年間指導計画</p> <p>第10回：総合的な学習の時間の指導計画の作成（2）単元計画</p> <p>第11回：総合的な学習の時間におけるICTの活用</p> <p>第12回：総合的な学習の時間の学習評価</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の模擬授業（1）前半グループの発表と振り返り</p> <p>第14回：総合的な学習の時間の模擬授業（2）後半グループの発表と振り返り</p> <p>第15回：まとめと解説</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時にレジュメおよび資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（文部科学省）（最新版）、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（文部科学省）（最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省）、中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（文部科学省）（最新版）、高等学校学習指導要領（文部科学省）、高等学校学習指導要領解説総合的な探求究の時間編（文部科学省）（最新版）その他、必要に応じて授業時に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>（加藤）</p> <p>（1）総合的な学習の時間および本講義への取り組み姿勢（小レポートなど）（50%）</p> <p>（2）作成した指導案および模擬授業（50%）</p> <p>小レポート、指導案、模擬授業については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p> <p>（織部・鈴木・市来）</p> <p>・小テスト（25%）・レポート（25%）および定期試験（50%）によって総合的に評価する。</p> <p>・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</p> <p>・点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 特別活動指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 章夫/市来 ちさ/不破 民由 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 学校教育における特別活動の意義や特色をその歴史や教育課程上の位置づけを踏まえて理解し、指導実践への意欲を醸成する。			
授業の概要 特別活動の変遷と、その具体的な活動である学級活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。その中で児童生徒たちの人間関係や基本的な生活習慣の形成を通じた社会の一員としての自覚や生き方を育むための望ましい教育や指導の在り方を探ることを学習目標とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・特別活動の理念 第2回：特別活動の歴史と現代的意義 第3回：特別活動の目標と内容・他教科との連携 第4回：特別活動の指導体制と指導原理 第5回：特別活動の評価 第6回：学級活動 (1) 学年・学級制の特色 第7回：学級活動 (2) 学級づくり技術と方法 第8回：生徒会活動 (1) 目標と内容 第9回：生徒会活動 (2) 組織と活動 第10回：学校行事 (1) 儀式的行事の計画と実践例 第11回：学校行事 (2) 文化的行事・体育的行事の計画と実践例 第12回：学校行事 (3) 旅行・集団宿泊的行事の計画と実践例① 修学旅行 第13回：学校行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事の計画と実践例② 自然教室 第14回：学校行事 (5) 地域での勤労生産・奉仕的行事の計画と実践例 第15回：部活動の実際・まとめ			
定期試験			
テキスト (担当：鈴木・市来) テキストは使用せず、授業時に適宜必要な資料を配付する。 (担当：不破) 「どくとるマンボウ青春記」(北杜夫 新潮文庫)			
参考書・参考資料等 学習指導要領 特別活動編(文部科学省・最新版)、学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省・最新版)、改訂特別活動概論(長沼豊・柴崎真人・林幸克/編著 久美株式会社)、特別活動の探求(原清治 編著 学文社)、特別活動の理論と実践(山口五郎 他著 学文社)			
学生に対する評価 ・期末試験(持ち込み不可)(50%)、受講カードの内容、授業への取り組み姿勢(発言回数、質問回答等)(20%)、レポート(30%)を総合して評価する。 ・内容のある受講カードを紹介することで講評とする。 ・課題レポートについては授業内で解説、質問対応等をする。			

授業科目名： 教育方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 章夫/楠元 町子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 今日の学校教育に於ける教育方法の課題について理解するとともに、具体的な小中高等学校の学習指導の在り方を検討することを通して、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。			
<b>授業の概要</b> 今日、いじめ、体罰など学校教育の場で解決しなければならない問題が山積している。教員には、これらの問題が発生する原因や、問題発生 of 把握の方法、対応策、問題を起こさせない学習指導の在り方などについて理解し、よりよい学校教育を実践する力量が求められている。 本授業では、今日の子どもの現状や学習指導の問題点とその改善策について、実態調査や学習指導案、教科書の使用方法など具体的な資料をもとに、よりよい学習指導の在り方について、学生の集団討議も行いながら、教員としての教育的力量を培う。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 学校教育における今日的課題と教育方法の基礎的理論 第2回：今日の学習指導における課題①（教育の歴史から課題をよみ取る） 第3回：今日の学習指導における課題②（今日 of 教育法令等から課題をよみ取る） 第4回：児童・生徒の「生きぬく力」を育てる指導の方法 第5回：主体的な学びを促す教材の研究①（個別の教材に見られる価値の追究） 第6回：主体的な学びを促す教材の研究②（体系化された教材に見られる価値の追究） 第7回：児童・生徒が自ら問題や課題を発見できるようにする指導の方法 第8回：問題や課題を発見できるようにする情報機器活用の方法 第9回：児童・生徒が自ら問題や課題を解決できるようにする指導の方法 第10回：グループワークの効果と問題点 第11回：児童・生徒の問題解決を支援する情報機器活用の方法 第12回：学習指導における形成的評価と指導の方法 第13回：「習得型」の学習活動を支援する情報機器活用および授業展開・方法 第14回：「体験的な学習活動」における成功経験や失敗経験の活用と必要な配慮 第15回：よりよい学習指導のあり方とその実現のために必要な研修活動 <b>定期試験</b> テキスト 使用せず <b>参考書・参考資料等</b> 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、高等学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、その他、必要に応じて配付する。			
<b>学生に対する評価</b> 学生の積極的な授業への取り組み姿勢（25%）と、小テスト（25%）、学期末テスト（50%）等によって評価する。課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 教育とICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 星野 将直/神谷 政和/内木 晃 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (1)情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、模擬授業を通して効果的に情報通信技術を活用できる。 (2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 (3)児童・生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
<b>授業の概要</b> 学校における情報通信技術の活用について、現状と今後の方向性を理解する。授業での情報通信技術の活用の他、授業準備、学習評価での活用、校務での活用や教育データの活用等を理解する。また、情報活用能力を育成するための児童生徒の指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。そのために情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を行ったりデジタル教材を作成したりして体験的に学修を行う。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション、教育とICT活用の理論(1)現代社会における情報通信技術の役割 第2回：教育とICT活用の理論(2)視聴覚メディア・コンピュータの教育への導入 第3回：教育とICT活用の理論(3)教育における先端技術及び指導事例の理解とデジタルコンテンツの利用 第4回：教育とICT活用の理論(4)学校とテクノロジー及び外部機関との連携 第5回：教師のICT活用力(1)教師の情報通信技術活用指導力・授業法及びデジタル教材の作成 第6回：教師のICT活用力(2)協働的な学びでの情報通信技術の活用と指導法及びデジタル教材の利用 第7回：教師のICT活用力(3)個別最適な学びでの情報通信技術の活用 第8回：教師のICT活用力(4)遠隔授業・遠隔学習での情報通信技術の活用 第9回：教師のICT活用力(5)特別支援教育での情報通信技術活用 第10回：教師のICT活用力(6)校務の情報化とデータの活用 第11回：児童・生徒の横断的な情報活用能力の育成(1)児童・生徒による情報通信技術活用 第12回：児童・生徒の横断的な情報活用能力の育成(2)プログラミング教育 第13回：児童・生徒の横断的な情報活用能力の育成(3)情報モラル・セキュリティ 第14回：児童・生徒の横断的な情報活用能力の育成(4)情報活用能力の体系的育成 第15回：教育と情報通信技術活用のまとめ、まとめテスト			
<b>テキスト</b> 授業時にレジュメおよび資料を配付する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 教育の情報化に関する手引(文部科学省.2019) 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について参考資料・解説動画(文部科学省.2019) ICT活用の理論と実践(稲垣忠・佐藤和紀(編著)他.北大路書房.2021)			
<b>学生に対する評価</b> (星野) 授業中に与えられた課題への回答内容(20%)、模擬授業に対する姿勢と学習指導案(30%)、デジタル教材の作成(20%)、まとめテスト(30%)により総合的に評価する。 ・授業中の課題回答は、毎回点検し簡単な助言で評価をする。 ・模擬授業・指導案は、授業内で確認・評価する。 ・デジタル教材は、特に優れたものを作成した学生には、評価について連絡する。 ・まとめテストは、点数を学生に連絡する。 (神谷・内木) 課題 (20%)、授業への取り組み姿勢と模擬授業 (30%)、デジタル教材の作成 (20%)、まとめテスト (30%) により、総合的に評価する。 ・課題については授業内で解説・講評・質問対応を行う。 ・模擬授業は授業内での相互評価・助言を行う。			

授業科目名： 生徒・進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梅藤 仁志/神谷 政和/小川 裕之/ 山田 知子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
生徒指導や進路指導に関する基本的な理論を学び、学校が抱えている今日的課題への具体的、実践的対応を検討する。青少年の健全育成に携わることができる教員の育成を図りたい。			
授業の概要			
生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により、生徒が健全に生きる力を育む生徒指導の在り方を求める。そのうち、進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習させる。これらの学習を通して、個に応じ、適切な指導ができる能力を育成する。			
授業計画			
第1回： ガイダンス、レディネステスト、学校教育における生徒・進路指導の意義			
第2回： 学校が抱えている今日的課題とその対応策 (1) 各教科の指導と生徒指導の意義			
第3回： 学校が抱えている今日的課題とその対応策 (2) 道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義			
第4回： 生徒指導の在り方 (1) 生徒指導の考え方とその推進 児童生徒理解にも基づく生活習慣・規範意識の確立			
第5回： 生徒指導の在り方 (2) 生徒指導に関する法制度等① 校則、懲戒と体罰、出席停止			
第6回： 生徒指導の在り方 (3) 生徒指導に関する法制度等② 青少年の保護育成に関する法令			
第7回： 生徒指導の在り方 (4) 集団指導における教職員の指導力および組織的取組み			
第8回： 生徒指導の在り方 (5) 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 ①問題行動の早期発見 ②いじめ等への対応 ③地域関係機関との連携			
第9回： 生徒指導の在り方 (6) 部活動の意義・指導の在り方			
第10回： 進路指導の在り方 (1) 自己確立・自己意識から自己実現へーポートフォリオの活用ー			
第11回： 進路指導の在り方 (2) キャリア教育の視点に基づく生き方・ライフデザインの探求			
第12回： 進路指導の在り方 (3) 進路指導とキャリア教育の組織的・協同的指導体制			
第13回： 進路指導の在り方 (4) 社会・地域で求められる力			
第14回： 教育相談の基礎 生徒指導における教育相談の課題と展望			
第15回： まとめ			
定期試験			
テキスト			
必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
生徒指導提要 (文部科学省・改訂版)、授業時に紹介する。			
学生に対する評価			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取り組み姿勢 (20%)、課題の提出 (20%)、定期試験 (60%：持ち込み不可) などにより、総合的に評価する。</li> <li>課題 (小テストやレポート等) については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</li> </ul>			

授業科目名： 教育相談Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神谷 政和/小池 理穂/濱島 秀樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリング・マインドを理解する。</li> <li>2. 生徒を支援するための基本的な理論、技法、姿勢を身につける。</li> <li>3. 学校不適應の理解、対応法について学ぶ。</li> <li>4. 生徒、同僚、保護者、その他の人たちとの円満な人間関係を構築するためのコミュニケーション力を醸成する。</li> </ol>			
授業の概要			
教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は児童生徒一人一人に関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適應行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（教育相談とは、現場での必要性）			
第2回：教育相談、学校カウンセリングの歴史的経緯			
第3回：教育相談と生徒指導			
第4回：教育相談の進め方（校内の連携、第三者機関との連携）			
第5回：子どもの理解、児童期、青年期の特徴			
第6回：教師のコミュニケーション			
第7回：相談とカウンセリング（理論と技法）			
第8回：適応と不適應			
第9回：問題行動のとらえ方とその対応			
第10回：不登校とその対応を考える			
第11回：いじめとその対応を考える			
第12回：非行とその対応を考える			
第13回：発達障害について考える			
第14回：教育問題と教師の役割			
第15回：こどもの居場所作りと学級経営・まとめと今後の課題			
定期試験			
テキスト			
（担当：神谷）「生徒指導提要」（文部科学省・改訂版）、（担当：小池）「生徒指導提要」（文部科学省・改訂版）（担当：濱島）「教育相談ワークブック第2版 - 子どもの育ちを支える」（向後礼子他著 ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
適宜、授業の中で紹介する。			
学生に対する評価			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査（4割：持込不可）</li> <li>・授業への取り組み姿勢（発言内容・回数等）（3割）</li> <li>・事例発表（3割）</li> <li>・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</li> </ul>			

授業科目名： 教育相談Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野井 未加 / 山本 圭子 担当形態：クラス分け・単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 「教育相談Ⅰ」での学習を更に進めて、教育現場の抱える問題について理解を深め、心を開き合う人間関係を築くための教育相談の実践力を身につける。			
授業の概要 教育相談Ⅰで学んだ教育相談の理論を踏まえ、具体的な教育相談の場面を想定し、ケーススタディを体験的に行う（学内諸機関、学外機関との連携を含む）ことで、教育相談実務の応用力・実践力を養う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 「よく聴く」ということ 第2回：カウンセリングの基礎的知識をふまえた、教育相談 第3回：教育相談における教師の役割と学内諸機関・学外機関との連携 第4回：学校における教育相談の課題 第5回：教育相談のケーススタディ：「不登校」について 第6回：教育相談のケーススタディ：「いじめ」「虐待」について 第7回：教育相談のケーススタディ：「発達障害」について 第8回：教育相談のケーススタディ：「自閉症」について 第9回：教育相談のケーススタディ：「自傷」について 第10回：教育相談のケーススタディ：「うつ」「統合失調症」について 第11回：教育相談のケーススタディ：「家族関係の問題」について 第12回：応答訓練 「保護者の気持ちを理解する方法と相談への対応」について 第13回：教育相談を生かした「個別の指導計画」の作り方 第14回：アサーション・トレーニング 第15回：教師の上手な話し方			
テキスト （野井）『カウンセリングプロセスハンドブック』福島脩美・田上不二夫・沢崎達也・諸富祥彦編 金子書房(2008年) （山本）使用せず。毎回、授業内容についてのレジュメと資料を配付する。			
参考書・参考資料等 （野井）『カウンセリングの技法を学ぶ』 玉瀬耕始著 有斐閣(2015年) （山本）授業の中で紹介する。			
学生に対する評価 （野井）試験（70%：持ち込み不可）にリアクションペーパーの内容（30%）で評価する。点数や採点結果は希望者に開示する。 （山本）ロールプレイ・レポート（70%）、毎回授業時のミニレポート及び授業への取り組み姿勢（30%）。ロールプレイ・レポートは15回目に、ミニ・レポートは次回の授業の中で解説・講評・質問対応などを行う。点数や採点結果は希望者に開示する。			

## シラバス：教職実践演習

教職実践演習(小・中・高)		単位数：2単位	担当教員名：梅藤 仁志/織部 秀明/神谷 政和/鈴木 章夫/内木 晃 藤本 恭子/武藤 洋子/小川 裕之/山田 知子/山本 和久		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 約20名程度 10クラスで実施					
教員の連携・協力体制					
教科に関する専門的事項に関する科目や現場の先生をゲストスピーカーとして招き、連携・協働して学生の力量向上を図る。					
授業のテーマ及び到達目標					
①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③生徒理解や学級経営、④教科等の指導力、に関する事項を中心に、教職課程の掉尾に位置する科目として、教員に求められる必要な実践的能力の拡充を目指す。テーマは「自ら考え、行動し、検証すること」とする。					
授業の概要					
実践的能力の拡充のためには、学生が自ら考え、行動し、検証する過程を通して数々の気づきや発見に恵まれる必要がある。そのため、①事例研究を中心に、②ロールプレイを中心に、③教育実習の成果を踏まえて、④研究協議の形態、という4つの活動領域を設け、それぞれの領域を担当する教員が複数かかわって授業を構成する。学生たちは参加型のメニューに取り組む中で、『教職履修カルテ』を活用し、教職課程科目での学修を振り返る。また、教材・教具づくりや模擬授業においてICTを活用して、教員としての授業力を身につけているかを確認する。これらの取り組みを通して、教員として必要な実践的能力の拡充を目指す。					
授業計画					
第1回：教育公務員として<事例研究を中心に> (小川)					
第2回：教育実践者として<事例研究を中心に> (小川・山本)					
第3回：教育成果(アカウンタビリティ)の担い手として<事例研究・フィールドワークを中心に> (織部)					
第4回：児童生徒との人間関係づくり<ロールプレイを中心に> (梅藤・武藤)					
第5回：保護者との人間関係づくり<ロールプレイを中心に> (鈴木)					
第6回：教職員同士の人間関係づくり<ロールプレイを中心に> (武藤)					
第7回：教案づくり(板書・発問計画を含む)の実際<教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に> (織部・梅藤)					
第8回：教材・教具づくりの実際 —ICTの活用— <教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に> (内木・鈴木)					
第9回：模擬授業と批評協議 —ICTの活用— <教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に> (内木・藤本)					
第10回：学級経営の指針・方針<教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に> (藤本)					
第11回：学級経営の1日・1学期・1年 <教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に> (山本)					
第12回：学級経営の成果と検証<教育実習の成果を省みた上で、実践活動・フィールドワークを中心に> (山田)					
第13回：学校の現状 <学習指導、生徒指導、進路指導、保健指導について(シンポジウムの形態で)> (山田)					
第14回：学校の抱える今日的課題と対策 <学習指導、生徒指導、進路指導、保健指導について(シンポジウムの形態で)> (神谷)					
第15回：論作文、『教職履修カルテ』を通じた全体の振り返り(神谷)					
テキスト					
使用せず。					
参考書・参考資料等					
適宜指示する。					
学生に対する評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの論作文(40%)を課するとともに、レポート(30%)や諸活動への参加態度(30%)を総合的に勘案して評価する。</li> <li>・課題(レポート等)については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。</li> </ul>					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田 伸一 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>障害のある子どもの教育について、その歴史的変遷を理解するとともに、一人一人の教育的ニーズに応じる特別支援教育の理念とその基本的枠組みを理解する。さらに、特別支援教育の政策や教育法規、特別支援学校の学校経営などの基礎的な知識を身に付け、現代の課題について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>障害のある子どもの教育に関する現状理解に基づき、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換について、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業計画特別支援教育の理念と仕組み  第2回：特別支援教育の基礎理解（1）特別支援教育の対象となる障害  第3回：特別支援教育の基礎理解（2）特別支援教育の現状、課題とそれに対する施策  第4回：特別支援教育の系譜（1）我が国における特殊教育の始まりと発展、障害者施策  第5回：特別支援教育の系譜（2）戦後の特殊教育の復興、特別支援学校の変遷  第6回：特別支援教育の系譜（3）特殊教育から特別支援教育へ障害者権利条約への対応  第7回：特別支援教育の思想と実践（1）知的障害特別支援学校における教育から  第8回：特別支援学校の思想と実践（2）肢体不自由、病弱特別支援学校における教育から  第9回：特別支援学校の学習指導要領と教育課程及び重複障害への配慮事項（1）知的障害  第10回：特別支援学校の学習指導要領と教育課程及び重複障害への配慮事項（2）肢体不自由、病弱  第11回：特別支援教育を支える仕組み（特別支援学校のセンター的機能、個別の教育支援計画と個別の指導計画、特別支援教育コーディネーターと関係機関のネットワーク、学校経営）  第12回：小中学校等における特別支援教育  第13回：合理的配慮①構造化  第14回：合理的配慮②SST  第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストは使用せず、資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で必要に応じて紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の態度、課題（発表・レポート）、確認テストの達成度をもとに総合的に評価する。（態度10% 課題20% 確認テスト70%）特別支援教育の理念とその基本的枠組みについて、フィードバックする。（希望者には採点結果を開示する。）</p>			

授業科目名： 知的障害者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：猶原 秀明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域:知)		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害の発生原因や併存症・合併症と心理面及び生理面の特性を把握し、一人一人の知的障害の状態教育的ニーズに応え、適応行動の困難さ及び認知の特性について理解する。また、二次的障害を起こさない教育的配慮及び家庭や医療機関との連携について理解する。			
授業の概要 知的障害のある子どもの心理面や学習上の特性、発達の様相や実態把握の仕方、知的障害の病因となる出生前・周産期・出生後の危険因子、ダウン症候群など知的障害を伴う代表的な症候群、知的障害に伴いやすい二次的障害について学習する。また、知的障害を伴うことが多い自閉症のある子どもについても併せて学習する。			
授業計画 第1回：知的障害とは 第2回：重複障害とは 第3回：知的障害の原因 (1) 遺伝的要因 第4回：知的障害の原因 (2) 周産期および出生後 第5回：知的障害の原因 (3) 飲酒、喫煙と先天異常 第6回：ダウン症候群 (1) 原因と心理的・行動的特徴 第7回：ダウン症候群 (2) 教育的配慮 第8回：自閉症スペクトラム (1) 歴史と定義 第9回：自閉症スペクトラム (2) 心理的・行動的特徴 第10回：自閉症スペクトラム (3) 教育的配慮と指導法 第11回：知的障害のある子どもの実態把握(一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性)、教育的配慮 第12回：知的障害のある子どもの教育的ニーズの把握 第13回：二次的障害とその予防 第14回：知的障害者の自立と社会参加：家庭・専門機関との連携 第15回：まとめ			
テキスト テキストは使用せず、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価 レポートの内容 (80%) に授業への意欲や学習態度 (20%) を加味して総合的に評価する。 課題については、授業内で解説、質問対応を行う。			

授業科目名： 肢体不自由者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野井 未加 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域:肢)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由者の原因疾患や心理特性等について理解し、一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携など、児童らに対する教育を行うために必要な基本的知識を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由の定義や概念、肢体不自由者の原因疾患やその症状について解説する。また肢体不自由者の認知や行動などの心理的特徴、症状を抱えながら発達していくことで生じる発達特徴について概説し、その障害特性についての基礎的知識を得る。また家族・医療機関との連携についても概説していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由者とは－なぜ〇〇障害ではないのか</p> <p>第2回：肢体不自由者の現況</p> <p>第3回：病因によるタイプと症状(1)－脳性疾患① 脳性まひ</p> <p>第4回：病因によるタイプと症状(2)－脳性疾患② 脳性まひ以外</p> <p>第5回：病因によるタイプと症状(3)－脊髄・脊椎疾患① 二分脊椎</p> <p>第6回：病因によるタイプと症状(4)－脊髄・脊椎疾患② 側わん症 その他、ポリオ（弛緩性まひ）</p> <p>第7回：病因によるタイプと症状(5)－筋性疾患</p> <p>第8回：病因によるタイプと症状(6)－骨関節・骨系統疾患</p> <p>第9回：病因によるタイプと症状(7)－代謝性疾患、その他</p> <p>第10回：肢体不自由者の心理特性(1)－知的能力</p> <p>第11回：肢体不自由者の心理特性(2)－人格</p> <p>第12回：肢体不自由者の心理特性(3)－言語 その他</p> <p>第13回：「こころ」と「からだ」(1)－世界を捉える場としての「からだ」</p> <p>第14回：「こころ」と「からだ」(2)－コミュニケーションの基盤としての「からだ」</p> <p>第15回：肢体不自由者を取り巻く家族・医療機関等と教育機関との連携</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験(70%：持ち込み不可)およびリアクションペーパーの内容(30%)で評価する。点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 病弱者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永井 祐也 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域:病)		
授業のテーマ及び到達目標 病弱児の病理面と心理面及び生理面の特徴やそれらの相互作用とともに、家庭や学校間、医療機関等との連携の重要性について理解することができる。			
授業の概要 病弱教育の主な対象となっている各疾患の特徴や治療とそれに教育的支援について概説する。 病弱児の社会性や認知、感情といった心理面とそれに応じた教育的支援について概説する。 家庭や学校間、医療機関等との連携の重要性とそのために必要な態度について概説する。			
授業計画 第1回：病弱教育の概要 第2回：病弱教育の主な対象疾患とその変遷 第3回：悪性新生物の理解と教育的支援 第4回：心臓疾患の理解と教育的支援 第5回：アレルギーの理解と教育的支援 第6回：医療的ケア（重症心身障害）の理解と教育的支援 第7回：心身症・精神疾患の理解と教育的支援 第8回：希少疾患の理解と教育的支援 第9回：病弱児の不安と教育的支援 第10回：感情の発達と役割 第11回：病弱児の感情の理解・表出と教育的支援 第12回：ストレス対処過程とソーシャルサポート 第13回：病気療養に伴うストレスと教育的支援 第14回：健康管理に伴うストレスと教育的支援 第15回：家庭や学校間・医療・福祉・保健機関との連携（まとめ）			
テキスト テキストは使用せず、毎回関連資料を配付する。			
参考書・参考資料等 ・標準「病弱児の教育」テキスト【改訂版】（ジアース教育新社） ・特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理（ミネルヴァ書房） ・病気の子どもの理解のために（全国特別支援学校病弱教育校長会 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）			
学生に対する評価 ・授業毎に課す小レポート（45%）、最終レポート（45%）、授業への積極的な参加（10%）			

授業科目名： 知的障害者の教育課程及び指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：猶原 秀明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域:知)		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (1) 知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等をふまえた上で、特別支援学校（知的障害）の教育課程の編成の方法について理解する。 (2) カリキュラム・マネジメントの考え方を理解するとともに、個別の支援計画と教育支援計画について、その意義と内容、作成方法を理解し実践する。 (3) 各教科等の配慮事項について理解するとともに、自立活動と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計の方法について身に付ける。 (4) キャリア教育について理解する。また、進路指導の現状と課題について学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 学習指導要領に基づき、知的障害の特性に応じた教育課程編成の在り方について、特に領域・教科を合わせた指導と自立活動の指導を中心に学習する。指導法に関しては、個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づき、計画－実行－評価－改善という系統的指導サイクルを、応用行動分析の視点や指導手続きも含め、具体例を通じて学習する。			
<b>授業計画</b> 第1回：特別支援教育と学習指導要領 (1) 障害児教育から特別支援教育へ 第2回：特別支援教育と学習指導要領 (2) 特別支援教育の現状と課題 知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階 第3回：特別支援教育と学習指導要領 (3) 特別支援学校学習指導要領 教育課程の編成の方法 第4回：自立活動の内容と指導法 (1) 知的障害教育での自立活動 各教科等の配慮事項 第5回：自立活動の内容と指導法 (2) コミュニケーション 第6回：個別の指導計画 (1) 導入の経緯と内容 第7回：個別の指導計画 (2) 様式と作成手順 第8回：個別の教育支援計画 (1) 導入の経緯と内容 カリキュラム・マネジメントの考え方 第9回：個別の教育支援計画 (2) 様式と作成手順 ICFの活用 第10回：個別の教育支援計画 (3) 作成演習：実態把握・教育的ニーズの把握・達成目標の設定 第11回：個別の教育支援計画 (4) 作成演習：個に応じた指導支援・ICT機器の活用・教材教具の工夫 第12回：個別の教育支援計画 (5) 作成した個別の教育支援計画の検討：評価と改善 第13回：個別の教育支援計画 (6) 個別の教育支援計画に基づいた学習指導案の作成 第14回：キャリア教育と知的障害のある児童生徒の職業教育・進路指導 第15回：まとめ			
<b>テキスト</b> テキストは使用せず、資料を配付する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業の中で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 作成した個別の教育支援計画の内容、まとめの課題（80％）に授業への意欲や学習態度（20％）を加味して総合的に評価する。 課題については、授業内で解説、質問対応を行う。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：猶原 秀明
肢体不自由者の教育課程及び指導法	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域:肢)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由のある幼児・児童・生徒の状態・特性・心身の発達段階の実態把握の仕方を理解している。</li> <li>・子どもの実態に応じた教育内容の選定、組織化、教育課程の編成について理解している。</li> <li>・各教科等の年間指導計画を踏まえ、子どもの実態に応じた指導を行うために個別の指導計画を作成することを、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。</li> <li>・自立活動の具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由者の教育においては、重度・重複化という流れの中で一人一人の発達に応じたきめ細かな指導が必要となる。本講義では、個々の幼児・児童・生徒の状態や特性及び心身の発達段階の実態把握の仕方について解説する。また特別支援学校(肢体不自由)の教育実践に即した教育課程の編成や、各教科等及び自立活動の指導における個別の指導計画の作成について概説する。さらに自立活動における具体的な指導法について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由者の教育課程(1)－肢体不自由者の教育の歴史</p> <p>第2回：肢体不自由者の教育課程(2)－肢体不自由者の教育の現状</p> <p>第3回：肢体不自由者の教育課程(3)－特別支援教育の教育課程</p> <p>第4回：肢体不自由者の教育課程(4)－教育課程の原理と編成 カリキュラム・マネジメントの側面から</p> <p>第5回：肢体不自由者の教育課程(5)－自立活動とは</p> <p>第6回：肢体不自由者の自立活動(1)－歴史的な流れ</p> <p>第7回：肢体不自由者の自立活動(2)－自立活動の内容と取り扱い</p> <p>第8回：個別の指導計画と個別の教育支援計画</p> <p>第9回：個別の指導計画(1)－肢体不自由の状態、特性及び心身の発達段階のアセスメント</p> <p>第10回：個別の指導計画(2)－個別の指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>第11回：個別の指導計画(3)－個別の指導計画の評価と改善</p> <p>第12回：自立活動の指導法(1)－授業場면을想定した授業設計(身体の動きの指導と評価)</p> <p>第13回：自立活動の指導法(2)－授業場면을想定した授業設計(人間関係の形成の指導と評価)</p> <p>第14回：自立活動の指導法(3)－授業場면을想定した授業設計(コミュニケーションの指導(ICTの活用を含む)と評価)</p> <p>第15回：自立活動の指導法(4)－指導・援助者として考えておくべきこと</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験(70%、持ち込み不可)およびリアクションペーパーの内容(30%)で評価する。点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 病弱者の教育課程及び指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野井 未加 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域:病)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>病弱という障害の理解と今日的課題を正しく認識し、病気の状態、特性及び発達の段階等を理解する。特別支援学校(病弱)の教育実践に即した教育課程の編成の方法やカリキュラム・マネジメントの考え方を理解するとともに、自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>病弱児の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等に応じた教育課程の編成を基盤とし、教育内容の精選や学習指導上の工夫、心身に負担過重とならない配慮、転出入を伴う子どもへの支援、地元校との連携の在り方等、病弱児の学校生活における具体的な指導実践の在り方について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：病弱児の理解 病弱・身体虚弱に応じた教育的対応、指導上の留意事項  第2回：病弱児への支援と配慮 病弱児の情報収集及び実態把握の視点、支援のポイント  第3回：病弱教育の変遷とその意義 小児慢性特定疾病  第4回：病弱児への対応(1) 病気療養児の教育(文科省通知文)、長期欠席者の実態と対応  第5回：病弱児への対応(2) 病弱特別支援学校での支援、学校生活管理指導表  第6回：病弱児の教育課程(1) 病弱児の教育課程編成 特別支援学校(病弱)の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方  第7回：病弱児の教育課程(2) 病弱児に対する指導計画の作成と内容(ICTの活用含む)の取扱いでの配慮  第8回：病弱児の教育課程(3) 遠隔教育、個別の教育支援計画・指導計画  第9回：病弱児の自立活動  第10回：病弱児の進路指導  第11回：教育と医療との連携  第12回：病弱教育における合理的配慮  第13回：病弱教育の現状と課題(1) 長期入院児の実態と支援、転入学児童生徒の実態と課題  第14回：病弱教育の現状と課題(2) 病弱特別支援学校における授業設計、病弱児の実態と課題  第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストは使用せず、毎回関連資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校学習指導要領、小学校学習指導要領</li> <li>・標準「病弱児の教育」テキスト(日本育療学会編著 ジアース教育新社)</li> <li>・病気の子どものための教育必携(全国特別支援学校病弱教育校長会編著 ジアース教育新社)</li> </ul>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎に課すレポート(56%)、第15回の授業「まとめ」(44%：持ち込み可)</li> <li>・授業毎に課すレポートについては、授業内で解説・質問対応等を行う。</li> </ul>			

授業科目名： 知的障害者の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：猶原 秀明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階を把握し理解する。知的障害教育の歴史を知ることにより、特別支援教育の現状について知り、正しく認識する。また、特別支援学校学習指導要領について学び、特別支援学校（知的障害）の教育課程とその具体的な実践について、カリキュラム・マネジメントの考え方をもとに理解する。また、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 知的障害のある子どもの教育に関する現状理解に基づき、知的障害の特性に応じた教育課程編成の在り方、教科別の指導や領域別の指導、領域・教科を合わせた指導の在り方、授業の実際、具体的な指導法、職業教育と進路指導の実際、自立活動の指導の実際、指導における情報機器等の活用を含む教材・教具の開発・利用等について総合的に学習する。			
授業計画 第1回：我が国における障害児教育の歴史（1）就学義務制施行前 第2回：我が国における障害児教育の歴史（2）就学義務制施行後 第3回：我が国における障害児教育の歴史（3）知的障害教育の歴史 第4回：我が国における障害児教育の歴史（4）障害児教育から特別支援教育へ 第5回：特別支援教育とインクルーシブ教育 オンデマンド 第6回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（1）基本的考え方 ① 知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じた指導 第7回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（2）基本的考え方 ② 二重構造 第8回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（3）教科別・領域別の指導 ① 指導内容 第9回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（4）教科別・領域別の指導 ② 指導計画 第10回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（5）領域・教科を合わせた指導 ① 指導内容 第11回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（6）領域・教科を合わせた指導 ② 指導計画 第12回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（7）自立活動の指導 ① 指導内容 第13回：特別支援学校（知的障害）の教育課程編成（8）自立活動の指導 ② 指導方法と評価 第14回：教材・教具の工夫 ICT 第15回：まとめ			
テキスト テキストは使用せず、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価 レポートの内容（80％）に授業への意欲や学習態度（20％）を加味して総合的に評価する。課題については、授業内で解説、質問対応を行う。			

授業科目名： 肢体不自由者の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：猶原 秀明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢、含む領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 肢体不自由教育および病弱教育の基本を理解し、個々の障害特性や教育的ニーズに応じた指導の在り方について学ぶ。また、特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方と具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 肢体不自由者・病弱者の教育の成立はともに医療が密接に関連しており、整形外科の発展に伴って肢体不自由者に対する教育の重要性が認識されるとともに、療養所から小児科病棟の充実の流れとともに、病気療養者の治療と教育の相互の必要性が説かれるようになった。対象となる児童生徒の病種・病状や障害の程度およびその教育的配慮事項、家庭・医療機関・福祉施設等との連携の在り方について講義する。			
授業計画 第1回：肢体不自由の起因疾患と実態把握 第2回：病弱・身体虚弱の主な疾患と実態把握 第3回：肢体不自由教育の歴史と現状 第4回：病弱・身体虚弱教育の歴史と現状 第5回：肢体不自由教育における教育課程と指導上の特徴 教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方 第6回：指導計画とその展開（1）コミュニケーション指導① コミュニケーションと共同注意 第7回：指導計画とその展開（2）コミュニケーション指導② 指導方法と指導内容 第8回：指導計画とその展開（3）姿勢と身体の動きの指導① ポジショニング 第9回：指導計画とその展開（4）姿勢と身体の動きの指導② 動作法 第10回：指導計画とその展開（5）摂食指導 第11回：重度・重複障害児の理解と指導 第12回：医療的ケア（1）歴史的変遷と方向性 第13回：医療的ケア（2）実施体制の整備と環境作り 第14回：指導上の安全と事故防止 第15回：具体的な授業場面を想定した授業設計			
テキスト テキストは使用せず、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業態度（20%）とレポートの内容（80%）を合わせて総合的に評価する。 課題については、授業内で解説、質問対応を行う。			

授業科目名： 障害者の理解	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：猶原 秀明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（含む領域：視・聴・知・肢・病、重、発）		
授業のテーマ及び到達目標			
障害について考える。さらに、それぞれの障害の発生原因、特性について学び理解する。一人一人の教育的ニーズに応え、より教育成果を高めるための指導法、支援法について理解し考える。また、二次的障害を起こさないための教育的配慮及び適切な指導法について理解する。			
授業の概要			
障害のある子どもの心理面や学習上の特性、発達の様相や実態把握の仕方について、知的障害や自閉症、LD・ADHD等の発達障害を中心に学習する。また、それらの障害の発生機序を胎生期、周産期、育成期に分けて概観するとともに、障害に対する医療的対応の在り方や医療機関との連携の在り方、二次的障害が生じるリスクなどについて学習する。			
授業計画			
第1回：障害の理解（1）障害と障害者			
第2回：障害の理解（2）ICIDHとICF			
第3回：ひとの発達と成長（1）発達過程			
第4回：ひとの発達と成長（2）反射			
第5回：視覚障害の特性と理解			
第6回：聴覚障害の特性と理解			
第7回：肢体不自由の特性と理解			
第8回：知的障害の特性と理解			
第9回：病弱・身体虚弱の特性と理解			
第10回：重複障害の特性と理解			
第11回：自閉症スペクトラムの特性と理解（1）実態把握と教育的ニーズ			
第12回：自閉症スペクトラムの特性と理解（2）指導法・支援法と教育的配慮			
第13回：LD（学習障害）の特性と理解			
第14回：AD/HD（注意欠陥/多動性障害）の特性と理解			
第15回：まとめ			
テキスト			
テキストは使用せず、資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価			
レポートの内容（80%）と授業への意欲や学習態度（20%）を総合的に評価する。 課題については、授業内で解説、質問対応を行う。			

授業科目名：発達障害者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：板倉 寿明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：発）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①発達障害の概念の変遷と定義について理解している。</p> <p>②アセスメントによる特性の把握について理解している。</p> <p>③注意欠陥/多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)の概念と定義、病理面及び心理面や生理面の特徴とそれらの相互作用及び二次的な障害などの特徴について理解している。</p> <p>④障害についての一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性を理解するとともに、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、教育現場で大きな問題の1つになっているのが、落ち着いて教室にいることができない、他者との関係がうまくとれない、という子どもたちの存在である。そうした子どもたちの多くを占める、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)などのいわゆる軽度発達障害の定義や概念、症状、心理的・行動的特徴について概説する。また発達障害のアセスメントや二次障害の問題について論じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達障害とは</p> <p>第2回：障害の程度－「重度」とは、「軽度」とは</p> <p>第3回：自閉症スペクトラム障害1：概念の変遷(1)DSM-IVまで</p> <p>第4回：自閉症スペクトラム障害2：概念の変遷(2)DSM-IVからDSM-5へ</p> <p>第5回：自閉症スペクトラム障害3：心理的・行動的特徴(1)映画「モーツァルトとくじら」から</p> <p>第6回：自閉症スペクトラム障害4：心理的・行動的特徴(2)アスペルガー障害(症候群)の特性</p> <p>第7回：自閉症スペクトラム障害5：心理的・行動的特徴(3)「心の理論」をめぐって</p> <p>第8回：自閉症スペクトラム障害6：心理的・行動的特徴(4)アスペルガー障害(症候群)の人たちの心の捉え方</p> <p>第9回：学習障害1：定義と概念</p> <p>第10回：学習障害2：心理的・行動的特徴</p> <p>第11回：注意欠陥多動性障害1：定義と概念</p> <p>第12回：注意欠陥多動性障害2：心理的・行動的特徴、二次的な障害</p> <p>第13回：軽度発達障害者の心理・行動の疑似体験</p> <p>第14回：現代社会と軽度発達障害 家庭や医療、福祉及び労働機関との連携</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポートの内容(80%)に、授業に対する意欲や学習態度(20%)を加味して総合的に評価する。レポートについては、授業内で適宜講評、解説、質問対応などを行う。</p>			

授業科目名：発達障害者の教育課程及び指導法	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：板倉 寿明 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：発）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①我が国の教育制度の中で軽度発達障害者に対する支援がどのように行われてきたか、また、現在どのように行われているかについて理解している。</p> <p>②通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程が有する意義と特別支援教育のセンターとしての助言又は援助の役割を理解するとともに、教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。</p> <p>③他者とのコミュニケーション（やりとり）の基本を理解し、発達障害者に対する自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計の方法が身についている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習障害（LD）や注意欠陥／多動性障害（ADHD）など軽度発達障害者の教育について、その授業の組み立て方や実際の指導・援助の方法について論ずる。とくに彼らの問題の基本となると思われる他者とのコミュニケーション（やりとり）をどのように展開させていくかということを中心に、学級集団での指導と個別指導の両面から、より望ましい指導実践のあり方について解説する。</p>			
<p>授業計画 指導法として</p> <p>第1回：発達障害者の教育課程(1)：オリエンテーション、軽度発達障害者とは</p> <p>第2回：発達障害者の教育課程(2)：発達障害者の特性① 自閉症スペクトラム障害</p> <p>第3回：発達障害者の教育課程(3)：発達障害者の特性② 学習障害・注意欠陥多動性障害</p> <p>第4回：発達障害者の教育課程(4)：発達障害者に対する教育のこれまでの流れ</p> <p>第5回：発達障害者の教育課程(5)：発達障害に対する教育の現状(特別の教育課程が有する意義)</p> <p>第6回：発達障害者の教育課程(6)：特別支援教育の教育課程と学校での支援</p> <p>第7回：発達障害者の教育課程(7)：学校での支援の流れ(特別の教育課程が有する意義、通級指導等)</p> <p>第8回：発達障害者の教育課程(8)：個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成、カリキュラム・マネジメント</p> <p>第9回：発達障害者の指導方法 コミュニケーション(1)： 人のことばと類人猿のことば</p> <p>第10回：発達障害者の指導方法 コミュニケーション(2)： 人のことばの特性とその発達</p> <p>第11回：発達障害者の指導方法 意味の獲得①： やりとりにおけるからだの同型性と相補性</p> <p>第12回：発達障害者の指導方法 意味の獲得②： 二項関係から三項関係へ</p> <p>第13回：発達障害者のコミュニケーションの指導(1)：発達障害者の意味世界</p> <p>第14回：発達障害者のコミュニケーションの指導(2)：やりとりを深める指導・援助法への展開</p> <p>第15回：まとめ 自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計 (ICT等の指導)</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポートの内容（80％）に、授業に対する意欲や学習態度（20％）を加味して、総合的に評価する。レポートについては、授業内で適宜講評、解説、質問対応などを行う。</p>			

授業科目名： 視覚障害者の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 相羽 大輔／尾原 健太 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害幼児児童生徒の発達特性についての理解、当該幼児児童生徒の教育に携わるための指導法、教材・教具についての基礎的な知識を深め、将来、保護者や関係機関との連携しながら、適切に指導ができるようになるための態度を身につける。			
授業の概要 視覚障害幼児児童生徒についての理解を深めるために、まず心理・生理・病理に関する内容として、初歩的な知識を概観し、視機能に応じた困難さやその実態把握の方法等を理解させる。その上で、教育課程・指導法の基礎を学ぶため、当該幼児児童生徒に必要な環境整備の方法、教材・教具の活用方法、教科指導上の配慮事項、自立活動の実際の指導の方法について具体的に理解させる。			
授業計画 第1回：視覚障害の定義・実態・学びの場【相羽】 第2回：視覚障害児童生徒の視機能と発達【相羽】 第3回：視覚障害児童生徒のアセスメント【尾原】 第4回：視覚障害児童生徒の教材・教具【相羽】 第5回：視覚障害児童生徒と教科指導【相羽】 第6回：視覚障害児童生徒の自立活動（点字・歩行）【相羽】 第7回：視覚障害児童生徒の自立活動（視覚補助具）【尾原】 第8回：視覚障害児童生徒の自立活動（ICT）【尾原】			
テキスト テキストは別途作成の上指示する。			
参考書・参考資料等 視覚障害教育に携わる方のために（香川邦生他著 慶応義塾大学出版会） 視覚障害教育入門Q&A（全国盲学校長会編著ジアース教育新社） 視力0.06の世界（小林一弘著 ジアース教育新社） 点字の学習指導の手引き（文部科学省） 特別支援学校学習指導要領（文部科学省） 視覚障害教育入門（青柳まゆみ・鳥山由子編著 ジアース教育新社）			
学生に対する評価 授業への参加態度を質問の回答内容・発言の内容・リアクションペーパーの内容から評価(20%)する。その他、知識・理解が深まったかどうかを定期試験(80%)により評価する。定期試験については、テスト形式かレポート形式により実施し、授業の内容、及び、到達目標に合致する者を合格とする。			

授業科目名： 聴覚障害者の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大脇 千尋 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法—指導法— (中心領域:聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
聴覚障害の原因となる聴覚器官の病理、心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用を理解するとともに、家庭や保健、医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。また、特別支援学校（聴覚障害）における教育実践に即した教育課程の意義や編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。さらに各教科等の指導における配慮事項を知り自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計の方法を身に付ける。			
授業の概要			
聴覚障害者についての理解を深めるために、先ず心理・生理・病理について初歩的な知識を概観した上で、各教科の指導の工夫について考えていく。自立活動を促す具体的な方法を、手話を活用した言語活動を取り入れながら、情報機器の活用も交えた指導法を考え、職業教育と進路指導に繋げていく。			
授業計画			
第1回 聴覚器官の病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について			
第2回 聴覚障害のある幼児児童生徒一人一人の聞こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達について			
第3回 聴覚の活用や音声、文字、手話、指文字など多様な意思の伝達の方法を適切に選択・活用することについて			
第4回 各教科等の指導に必要な言語概念の形成を図り、体験的な活動を通して、思考力や表現力を育成することについて			
第5回 聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進度を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定・組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することについて			
第6回 各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児児童生徒の実態に応じて(家族・関係機関との連携含む)適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することについて			
第7回 自立活動の指導(ICTの活用を含む)における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて学ぶとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いについて			
第8回 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために教育課程を編成することについて まとめ			
テキスト			
テキストは使用せず、資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
授業の中で必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価			
課題（レポート）については授業内容で解説・講評・質問対応などを行う。 点数や採点結果は希望者に開示する。			

授業科目名： 発達障害者の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板倉 寿明 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は 事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心 領域：発、含む領域：重）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①障害の概念について理解している。 ②発達の仕組みについて理解している。 ③発達障害のある子どもへの教育実践を行う上で必要となる心理アセスメントの基本について理解している。 ④発達障害児の特徴について理解している。 ⑤特別な教育課程の編成とその意義とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解している。 ⑥自立活動における個別の指導計画の作成の基本を理解している。また、各教科等の指導における配慮事項を知り、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けている。 ⑦家族・関係機関との連携について理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、情緒障害、言語障害、重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について解説する。また通級による指導や特別支援学級における特別な教育課程の編成とその意義について触れる。さらに自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会における障害とは何か 第2回：発達の道筋 第3回：特別支援教育と心理アセスメント：家族を含めた援助資源(関係機関のアセスメントを含む)とそのツール 第4回：発達障害ーその概念の歴史的流れ 第5回：自閉症スペクトラム障害(1)：定義と概念 第6回：自閉症スペクトラム障害(2)：心理的・行動的特徴 第7回：学習障害(LD)：定義と概念、心理的特徴 第8回：注意欠陥多動性障害(ADHD)：定義と概念、心理的特徴 第9回：言語障害(構音障害・吃音等)：定義と概念、心理的特徴 第10回：情緒障害(場面緘黙等)：定義と概念、心理的特徴 第11回：重複障害：概念、心理的特徴 第12回：通級による指導や特別支援学級における特別な教育課程の編成とその意義(カリキュラム・マネジメントの考え方) 第13回：自立活動における個別の指導計画の作成と取り扱い 第14回：発達障害のある児童生徒への指導：各教科等の指導における配慮事項(ICTの活用を含む) 第15回：発達障害のある児童生徒の家族・関係機関(医療・福祉及び労働機関)との連携</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『障害・病いと「ふつう」のはざままで 軽度障害者 どっちつかずのジレンマを語る』 田垣正晋 編著 明石書店(2006年) 『特別支援教育に生きる心理アセスメントの基礎知識』 滝吉美知香・名古屋恒彦編著 東洋館出版社(2015年) 『障害者心理 その理解と研究法』 中司利一著 ミネルヴァ書房(2010年) 『自閉症とこどものこころの研究』 黒川新二著 社会評論社(2016年) 『自閉症 私とあなたが成り立つまで』 熊谷高幸著 ミネルヴァ書房(2006年) 『子どものための精神医学』 滝川一廣著 医学書院(2019年) 『発達161 特集 わたしの自閉症論』 ミネルヴァ書房(2020年) その他適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験(70%：持ち込み不可)およびリアクションペーパー(30%)で評価する。点数や採点結果は希望者に開示する。</p>			

授業科目名： 重複障害者の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田 伸一 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域:重)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を理解するとともに、特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。また、重複障害児の指導内容・方法、学校生活における指導・支援について基本的な理解をし、指導方法を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援学校における最近の重複障害学級在籍率は全体では44%前後である。今後の特別支援学校において、ひとつの指導の領域を形成する。障害が重複しかつ重度化している故に単一障害者に比べて指導の難しさがある。この授業では、重複障害者の概念、実態把握の方法、教育課程の編成、個別の指導計画の作成、評価の方法、具体的な指導の実際等について解説し、基礎的な知識と指導法を身につけさせる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 重複障害者の概念 重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等  第2回 特別支援学校における重複障害児の実態  第3回 重複障害児の発達評価の方法  第4回 個別の指導計画の作成と評価  第5回 重複障害児の教育課程編成とカリキュラムマネジメント  第6回 重複障害児の授業づくり  第7回 重複障害児の指導①時間割の構成  第8回 重複障害児の指導②「日常生活の指導」  第9回 重複障害児の指導③「遊びの指導」・「生活単元学習」の指導  第10回 重複障害児の指導④ コミュニケーションの指導  第11回 重複障害児の指導⑤ 自立活動の指導  第12回 重複障害児の学校生活に係わる課題①支援と指導体制  第13回 重複障害児の学校生活に係わる課題②教育環境  第14回 重複障害児の学校生活に係わる課題③健康保持・安全確保  第15回まとめ</p>			
<p>テキスト 特に指定せず、資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特別支援学校学習指導要領(文部科学省)、その他については授業の中で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の態度、課題(発表・レポート)、確認テストの達成度をもとに総合的に評価する。 (態度10% 課題20% 確認テスト70%) 重複障害者の指導・支援のまとめについて、フィードバックする。(希望者には採点結果を開示する。)</p>			